文部省編

小學日本地理資料報告彙纂

發行所
株式會社國定教科書共同販賣所

明治
41 3 14

凡例

一、本書は小學地理教師用教科書編纂の資料に供せんがために臺灣總督府並に道廳府縣に照會し其の管下に於ける地理上の事項中教師が特に學校所在地方若しくは其の地方と歴史上交通上産業上等に於て特殊の關係ある地方を說くにあたり兒童用教科書所載の地理教材に對して敷衍附說の要ありと認むる事項に關する師範學校長（沖繩を除く）の報告を徵し之を取り輯めたるものなり今發行して教師の參考に供するところあらんとす

二、本書は編纂の都合上多少原報告につきて其の順序を變更し或は一部を削除したるものありと雖も其の文章は固より内容に至りても明なる誤字誤謬の外は毫も訂正增減を加へず但し誤解し易き虞ある事項に關しては特に「注意」を附記せり

三、原報告は報告者の意見によりて各其の體裁を異にし又精粗繁簡甚だ其の趣を異にするものあり今毫も改めず看者須らく取捨するところなかるべからず

四、原報告には時に現行教科書の批評若しくは修正に關する希望を附記したるものあり一般教師の參考に資するに足るものゝ外は總べて之を除きたり

五、本報告書はもと教師が教術附說の參考に供するを目的として徵したるものなれば中には兒童用教科書に掲載せる教材を除きたるものありこれ亦一に原報告に從ひて改めず看者注意するところあるを要す

明治四十年十二月

文部省

目録

關東地方……一
東京府……一
神奈川縣……六
千葉縣……一一
埼玉縣……一九
群馬縣……二三
栃木縣……二七
茨城縣……三二
奥羽地方……三六
福島縣……三六
宮城縣……三八
岩手縣……四一

青森縣……四三
秋田縣……四四
山形縣……五〇

本州中部地方……五七

靜岡縣……五七
山梨縣……八一
愛知縣……八五
岐阜縣……八九
長野縣……九一
新潟縣……九六
富山縣……一一二
石川縣……一一三
福井縣……一一六

近畿地方……一一八

滋賀縣……一一八
京都府……一二一
奈良縣……一二二
三重縣……一二八
和歌山縣……一三二
大阪府……一三七
兵庫縣……一四九

中國地方……一六〇

岡山縣……一六〇
廣島縣……一六五
山口縣……一七〇
鳥取縣……一七四

島根縣……一八六
四國地方……一九二
德島縣……一九三
香川縣……一九四
愛媛縣……一九四
高知縣……一九六
九州地方……一九七
福岡縣……一九八
大分縣……二〇一
佐賀縣……二〇二
長崎縣……二〇五
熊本縣……二〇七
宮崎縣……二〇八

鹿兒島縣……二一一
沖繩縣……二一三
北海道……二一五
臺灣……二二三

小學日本地理資料報告彙纂

（東京府師範學校報告）

關東地方

東京府（一）

山川岬角海灣等自然地理上の事項

位置。全國の殆ど中央にあること。

海灣。東京灣、品川沖。

山脈。關東山脈、雲取山。

川。隅田川、多摩川。

平野。關東平野の一部。

島嶼。伊豆七島。位置、七島（大島「三原火山のこと」、利島、新島、三宅島、神津島、御倉島、八丈島）。

小笠原群島。位置、富士火山脈のこと、重なる島（父島「附二見港」、母島）、氣候のこと、硫黃

東京府（一）

列島、南鳥島。

（注意） 近時の研究によれば、富士火山脈は硫黄列島を通過し、小笠原本島を通過せざるなり。

都邑

東京市。

位置。 隅田川口にあること、帝國の首府なること、世界有數の大都會なること。

面積及人口。

區劃。 十五區に區劃せること、地勢上山の手下町に分れ、山の手には貴紳の邸宅多く、下町には商工業盛なり。

略史。 太田道灌築城、德川氏の覇業地、明治の奠都。

宮城。

官衙。 諸官省、帝國議會議事堂、參謀本部、近衞及第一師團司令部、大審院、控訴院、天文臺、中央氣象臺、東京府廳、各國大使館及公使館。

學術上の中心たること。 東京帝國大學、第一高等學校、東京高等師範學校、東京高等商業學校、東京高等工業學校、東京美術學校、東京音樂學校、東京外國語學校、陸軍大學校、海軍大學校、學習院、帝室博物館、帝國圖書館、新聞雜誌の發行、出版業の盛大。

經濟上の中心たること。 日本銀行、日本勸業銀行、商品陳列所、印刷局、砲兵工廠、諸工場、諸會社。

交通。 東海道線、中央線、奥州線、總武線、東武線の起點、東京鐵道（市内電車）、内海航路、築港計畫、電話電信、道路のこと。

物産。 綿糸、機械、蒔繪、マッチ、洋紙、雜貨。

遊園地。 上野、淺草、向島、日比谷、九段、芝、龜井戸。

衛生。 水道事業。

市附近の町。 品川町、內藤新宿町、板橋町、南千住町、北千住町。

八王子町。 鐵道のこと、機業地なること、絹織物。

青梅町。 石灰石の産出。

大森町。 海苔、梨の産出、海水浴地。

産業及物産

東京市。 商工業。 綿糸、機械、蒔繪、マッチ、洋紙、雜貨。

東地方。 農業（東京市附近は殊に園藝作物の栽培）。 麥、米、大根、梨。

西地方。 養蠶、機業、山林業、絹織物、木綿織物、材木、薪炭。

島嶼地方。八丈絹、バナナ、アナナス、甘蔗、海龜、信天翁。

交通上の事項

鐵道。東海道線、中央線、川越線、青梅線、山手線、奥州線、東武線、總武線、東京鐵道(市內電車)、京濱電氣鐵道。

航路。東京灣航路、小笠原島線。

道路。東海道、甲州街道、中仙道、奥州街道、濱街道。

電信。日米直通海底電線。

電話。

神社佛閣名勝舊跡等

神社。靖國神社、日枝神社、龜井戸神社。

佛閣。淺草寺、寛永寺、增上寺、泉岳寺、護國寺、池上本門寺、堀內妙法寺。

名勝。向島、飛鳥山、高尾山。

以上各項外の重要なる事項

警視廳のこと、島廳のこと、市役所と區役所との關係、水道事業。

挿畫

宮城二重橋の畫、東京市街。

東京府(二)

(東京府女子師範學校報告)

山川岬角海灣等自然地理上の事項

隅田川。水源、流域、流程、水利、橋梁。

多摩川。水源、水道、淀橋給水場の略說。

伊豆七島。小笠原島の位置、大島(火山)八丈島、小笠原島の氣候、父島(扇が浦)。

都邑

東京市、八王子町、品川町、北千住町、南千住町、新宿町、板橋町。

產業及物產

東京市の商業(特に日本橋區、京橋區、神田區等の商況)。工藝品(綿布、マッチ、セメント、漆器、錦繪、美術品、玩具、淺草海苔、團扇、器械類、菓子等)、書籍、新聞。八王子町の絹織物、八丈島の絹織物、小笠原の甘蔗(産額)、海龜。

交通上の事項

鐵道。東海道線、中央線、奥州線、總武線及東武線の基點。

電車。 市內電車(賃錢均一)京濱電車。

神社佛閣名勝舊跡等

宮城(位置、二重橋楠公銅像)。 諸官省(內閣、外務省、內務省、大藏省、陸軍省、海軍省、司法省、文部省、農商務省、遞信省、並に宮內省の位置)。 帝國議會議事堂の位置。 東京府廳、東京市役所の位置。 日本銀行。 大審院、東京控訴院、東京地方裁判所の位置。 近衞師團(附、北白川宮殿下の銅像)及第一師團司令部の位置。 帝國大學及あまたの學校。 陸軍參謀本部(附、有栖川宮殿下の銅像)。 中央氣象臺。 陸軍砲兵工廠。 上野(帝室博物館、同附屬動物園、帝國圖書館、東照宮)、芝(增上寺)、日比谷、淺草(淺草寺)の諸公園。 靖國神社(附、遊就館)。
淺草寺。 向島、小金井。

以上各項外の重要なる事項

東京市の位置、人口、面積、十五區名。
東京府の面積、郡名。

神奈川縣

(神奈川縣師範學校報告)

郡邑

橫濱市。

もと中村、橫濱、堀ノ內の三部に分れ、蕞爾たる一漁村に過ぎざりしが、安政元年ペルリ提督再度の渡來のとき、橫濱村に應接所を設けて條約談判の地となし、尋で安政六年六月開港せられ、爾來數十年年と共に繁盛に趣きしが、更に明治三十四年四月久良岐郡戶田町、中村、本牧村、根岸村、橘樹郡神奈川町、保土ヶ谷町字岡野新田及同町字岩間の內小字久保山、大谷、林越、大丸を編入して、市域を擴張せられたるを以て益發展し、今日の盛大を覩るに至れり。 橫濱は我國にて多く西洋文明を最初に輸入せし所にして、郵船、鐵道、馬車、病院等此地に端を發す。 港は本牧十二天鼻と鶴見川口とを連結せる一直線以內を橫濱港と稱し、其幅約四里深入約二里半、更らに港內南山手の境界なる堀河口より神奈川舊砲臺との間に防波堤を築き、以て東京灣の風濤を防ぐ築港の起工は明治二十二年四月にして、五年にして竣工せり。棧橋の長さ約六町、一萬噸以上の大船も橫付す可し。 海岸には港務部、稅關、日本郵船會社、東洋汽船會社、船渠會社等の諸建物あり。外國人の此の地に居留するもの殆ど六千人、船舶出入約四百萬噸、貿易額は約參億圓にして殆ど全國總額の半額を占む。 本港

に於ける輸出品の内最も多額なるは生絲及絹類にして全額の半以上之に次ぐものは銅及茶なり。輸入品は始めは機械類尤も多額なりしが今は砂糖を第一とし、次は石油、綿花、綿絲、羊毛、麥粉等なり。航路は内國には東廻、西廻共に小樽に達するもの、小笠原島に達するもの、打狗に達するものあり。外國には歐洲、米國、上海、濠洲に達する定期航海あり。内外重要なる港に達する航程左の如し。

内國	神戸	三七四哩	馬關	五七二	長崎	七〇七
	函館	五二九	基隆	一二七七		
外國	香港	一五六〇	上海	一〇九〇	ペナン	三六二〇
	メルボルン	五〇八〇	スエズ	八〇四〇	ウラヂオストック	九二七
	ロンドン	一一五〇五	ホノルル	三三九三	桑港	四五四〇

横須賀市。 第一海軍區の軍港所在地にして、鎭守府、海軍工廠、機關學校、海兵團、水雷團あり。慶應元年德川幕府此地に造船所を置くまでは三十餘戸の一漁村に過ぎざりしが、今や附近の村落を併せて人口約六萬に達し、市制を布くに至れり。此地東方一帶の沿岸泊りが浦の名勝は今や數十の砲臺到る所に點綴す。

鎌倉町。 治承年間源賴朝此地に據り、後、建久三年征夷大將軍に任せられて覇府を此地に開きてより、北條氏の滅亡に至るまで百三十餘年間、天下の政令此地に出で、ついで足利氏は鎌倉管領を此の地に置けり。鎌倉公方衰へてより漸く荒凉に歸したりしも、滿地當年の古蹟ならざるなし。今人の來り見るもの鶴岡八幡宮、鎌倉宮、賴朝墓、大佛、長谷観音、建長寺、圓覺寺、由比ヶ濱等なり。

浦賀町。 港灣袋の口を括りたるが如く、人家其沿岸に櫛比す。明治三十二年造船所設置せらる。此地の東南久里濱村は嘉永六年ペルリ提督渡來のとき應接したる地にして、三十四年朝野内外の人士醵金して紀念碑を建設せり。

平塚町。 人口四千餘に過ぎざるも、昨年より英國アームストロング會社の火藥製造所建設に著手す。地を占むること百四十町歩、後來發達思ふべし。

小田原町。 北條早雲覇業の地にして、爾來後北條五代占居の地なり。德川氏に至り大久保氏を封ず。海道要衝第一の地なり。城今址御用邸に充てらる。其一隅に報德神社あり、二宮尊德翁を祀る。町の西南に當り石垣山あり、秀吉の北條征伐の本陣を据えしところ。又數町にして石橋山あり、源賴朝大庭景親と兵を交へたる所なり。更に南して伊豆の境に近く眞鶴港あり、賴朝安房に逃れたる出船の地とす。

神社佛閣名勝舊跡等

川崎大師(平間寺)。 弘法大師の像を安んず。賽日は毎月廿一日殊に正、五、九の三月は頗

る賑ひ爲めに臨時汽車を發するに至る。

阿夫利神社(大山權現)。大山祇命を祭る、今縣社に列せらる。每年七月大祭の時頗る賑ふ。

道了薩埵(最乘寺)。應永元年創立、境內幽邃殿堂壯麗、賽人頗る多し。小田原の北三里にあり。

遊行寺(清淨光寺)。藤澤町にあり、時宗の本山にして正中二年の創設にかゝる。

龍口寺。片瀨村にあり、日蓮上人遭難の舊址にして殿堂壯大なり。

金澤村。風光明媚にして、金澤八景の名は韻士の杖を曳く所なり。此地の稱名寺に金澤文庫の舊蹟あり、建治年中北條實時の建設にかゝる。

箱根。箱根火山は二重火山の好標本にして、明神岳、金時山、鞍掛山、聖嶽等は外輪山に屬し、駒ヶ岳、神山等は火口中更に噴出したるものなり。蘆の湖は舊噴火口の一部にして、之より發する早川は須雲川を合せて湯本に口を開きて海に入る。山中には溫泉多く、湯本、塔の澤、宮の下、堂ヶ島、底倉、木賀、芦の湯、(以上箱根七湯)小涌谷、姥子、仙石を重なるものとす。

海水浴場。葉山、逗子、鎌倉、片瀨、鵠沼、茅ヶ崎、大磯、國府津、小田原等。

海底電線。橘樹郡田島村字大島新田より、小笠原島、グァム、布哇を經て桑港に至る。

產物。海產物及生絲の產額少からざるも、殊に著名なるものは秦野町の煙草、川崎附近の海苔、果實なり。

千葉縣(一)

(千葉縣師範學校報告)

山川岬角海灣等自然地理上の事項

房總半島は東南は太平洋に面し、西は東京灣に臨み、北は利根川にて茨城縣に境す。沿海の地は水產に富む。

北部地方は關東平野の一部をなす。下總の全部及上總の東西沿岸の地は農業に適し、上總の南部及安房一面は丘陵起伏して海に迫り、平地乏し。

利根川は關東第一の大川にて上野より來り、關宿(セキヤド)にて江戸川を分岐し、太平洋に注ぐ。長さ七十餘里、河幅一里に及ぶところあり。舟航灌漑の效用大なり。

氣候は關東地方中最溫和にして、特に南部地方は冬は暖く夏は海風のため凌ぎ易し。

犬吠崎(イヌボウザキ)は下總の東端に突出し、燈臺の設けあり。風景に富む。

富津洲(フッツス)は相模の觀音崎と對し、西に突出すること一里、更に砂洲水面下に突出すること一里、東京灣の口を扼し砲臺の設けあり。

都邑

千葉。縣廳の所在地にして本縣中部交通の中心たり。東京を距ること十里、人口二萬八千、醫學專門學校あり。

佐倉(サクラ)。堀田侯の舊城地にして兵營あり、附近より佐倉炭を出す。市街の北一里印旛沼(インバヌマ)の邊りに佐倉の義民宗吾の靈堂あり。

銚子(チョーシ)。利根川口にあり、水陸の便あるも、港口岩礁のあるため碇泊に便ならず、醬油の產を以て名高く、漁業亦盛なり。

佐原(サハラ)。利根川に沿ひ、舟航の便に富み、清酒を出す。地理學の泰斗伊能忠敬の出身地なり。

木更津(キサラヅ)、館山(タテヤマ)。東京灣に臨める西海岸の名邑にして、東京と船舶の往復あり。

船橋。東京千葉間の名邑なり。

產業及物產

農業。縣下生產物の首位を占め、米、麥の產多く、養豚は其產額本邦中第三位に居り、養蠶亦盛なり。

漁業。其產額北海道を除き本邦中第一位に居り、一ヶ年四百萬圓以上の產額あり、魚の種類は鰯及暖水魚にして、鰯は一ヶ年百二十萬圓以上の產額あり、多くは乾鰮、魚油として肥料にす。鰯は地引網にて捕獲す。總べて水產物は東南沿岸に多きも、鹽は西海岸に多く出し、行德鹽特に名高し。 (以上縣下全部に通じたるもの)

醬油。江戶川に沿へる野田及利根川口の銚子にて產するもの最名高く、東京を中心として北日本に販路を有し、近來は瓶詰として遠く英米にまで輸出せり。使用の鹽は英獨產のものにして、本邦製のものは多く用ひず。

味淋。野田の南なる流山にて產し、味の純美なること本邦中第一なり。

炭。下總より產し、佐倉附近のもの品質よければ佐倉炭の名世に著はる。 (以上地方特有のもの)

交通上の事項

總武鐵道。東京兩國より起り、千葉、佐倉を經て銚子に至る。旅客貨物の多きこと縣下第一なり。

房總鐵道。千葉より東海岸に出で、上總の大原(オホハラ)に達す。

成田鐵道。佐倉より成田を經て佐原に至る。成田不動參詣の客を目的として起りしものなり。

常磐線。東京より起り、縣の西北部を通過して茨城縣に入る。

利根川と江戸川との汽船。沿海は船舶の航路あるも良港灣に乏し。

神社佛閣名勝舊跡等

香取神宮。佐原の東一里にあり。官幣大社にして本邦最古の神社の一なり。經津主命を祀る。常陸の鹿島神宮と共に其名世にあらはる。

成田不動。成田不動として有名なる新勝寺は眞言宗の巨刹なり。殿堂壯麗、參詣人甚だ多し。

犬吠岬。燈臺の設あり。奇巖怪石海中に峙ち、潮水激して飛沫十丈、風景よし。海水浴にて知らる。

館山。安房の西海岸にあり、海水浴場として世に著はる。

小湊。安房の東海岸にあり、日蓮上人の生地にて誕生寺あり。其東南一帶の海岸は海水浴に適す。

以上の外重要なる事項

下總は原野廣く地平かにして、鴻の臺には野戰砲兵第一、第十六、第十七聯隊、習志野には騎兵第一、第二旅團司令部及騎兵第十三、第十四、第十五、第十六聯隊、四街道には野戰砲兵第十八聯隊及陸軍射擊學校、佐倉には步兵第二聯隊の兵營あり。皆鐵道總武線に沿ひ、東京佐倉間にあり。

下總御料牧場は印旛郡遠山村三里塚に在り。牛馬數千頭を飼養し、歐米風の農具を用ひて耕耘をなす。

挿繪

犬吠岬燈臺附近の景色、成田不動堂の實景。

備考

本縣生業の農業水產業に在るは主として自然の結果なること。本縣の交通は中部地方は千葉を中心となすも、西海岸及北西部地方は直接東京に交通するため、交通の大中心なし。從って大都會なきこと。

本縣の中央部は維新以前は原野甚だ多かりしが、明治の初年大久保內務卿開拓に着手せしより漸次荒蕪を開き、今や全く効を奏し、八街村、遠山村の如き新市街をなすに至り、北海道と共に本邦中開拓地として名高きこと。

犬吠岬燈臺。白色燈にして一等回轉燈臺なり。高さ百七十尺、十九海里を照す。

成田不動。成田にあり、眞言宗の巨刹にて殿堂樓閣美麗を極め、參詣者非常に多く、町民之によりて生活し、鐵道之れがために起る。東京淺草觀音、讃岐の金刀比羅宮、信州善光寺等と共に本邦中巡拜者の多きを以て著はる。寺立の中學校、圖書館、幼稚園、感化院、動物園、公園等あり。

九十九里濱鰯地引網の光景。九十九里濱は太平洋に面したる上總、下總の東海岸出入の少なき一帶の海濱の總稱にして、延長十五六里あり。地引漁をなすには初め二艘の船に漁夫十數名地引網を積み、海上同じ方向に乘出し、凡一里餘の沖にて網を海中に投じ、(網には浮標あり)船は二方に網綱を引きて魚を遠まきになし、陸地に向つて急ぐ。陸上にては船の近づくを待ち、數百千の老若男女異樣のかけ聲をなし、双方の網綱を引く。而して網の陸地に近よるときは數名の壯夫大波を切つて海中に飛入り、網口を閉づ。一網に捕獲する鰯の價は少なきも數十圓、多きは數千圓に上ることあり。かゝるときは魚を擔ふもの、賣るもの、買ふもの、網を干すもの、船を洗ふものの四方に奔走し、又菓子を商ふものあり、握飯を賣るものあり、餅を鬻ぐものあり、海岸一帶は人山を築き、頓に雜沓を極む。古來三國一の見物と稱す、宜なりといふべし。

千葉縣(二)

(千葉縣女子師範學校報告)

山川岬角海灣等自然地理上の事項

半島部は山(低)多く、北部は原野臺地の多きこと。利根川の流程、水勢、交通の便なること。江戸川は東京府、埼玉縣と本縣の境をなすこと。印旛沼、犬吠崎、九十九里濱(延長十五里許)富津の洲、野島岬。氣候は良好にして南部、東部は寒暑の差甚少なきこと。

都邑

千葉。現住二萬八千人、縣廳、醫學專門學校、男女師範學校、中學校、高等女學校。

佐原。利根川に沿ふ、伊能忠敬の出身地。

銚子。利根川の河口。

佐倉。歩兵第二聯隊司令部。

木更津。半島西岸の都邑。

館山。良好灣。

産業及物産

縣の北半部の都邑は多く臺地と低地との接する部にあること。

水産業、農業の盛なること。漁獲物の重なるものは鰯、鰹等にして、漁獲品、製造品の産額は府縣中第一に位すること(漁獲物四百三十二萬圓 製造品百七十八萬圓)計六百十萬八千圓內鰯百四十萬圓、鰹二十萬圓、鯖五十六萬圓、鮪廿一萬圓、秋刀魚廿八萬圓)。米は關東第一の産額あり、平均一年百五十萬石の收穫あり。麥は埼玉、茨城には及ばざれども、平均六十萬石の收穫あり。其他甘藷落花生等あり。薪九十一萬圓炭三十七萬圓、佐倉炭も縣內にては名あるものにあらず。醤油は野田を最とし、銚子之に次ぐ。千葉縣の醤油産額は全國第一(二十二萬石、五百十六萬圓、野田附近二百八十七萬圓、銚子附近九十四萬圓)なり。流山より味淋を出す。養豚、養鷄盛なり。(以上統計は三十七年度調)

交通上の事項

鐵道。總武線(東京、千葉佐倉、銚子)、成田線(佐原我孫子)、房總線(千葉、大原)、常磐線(松戸、我孫子)。

航路。利根川及江戸川には汽船の航行あり。東京灣には汽船の航行あり、半島西部の都邑と交通す。館山灣は廣深にして風波靜なり。

半島の西南部と縣の東北部とは交通甚不便にして、一縣內なりと雖關係疎にして、西南部は却つて京濱地方と密接に交通せること。

神社佛閣名勝舊跡等

香取神宮(經津主命)。

新勝寺(成田山新勝寺の不動は賽客非常に多きこと)。

富津の洲(要塞)。

鋸山及び鹿野山は風景佳なり。

安房上總の東岸及銚子の近傍に海水浴場ありて、夏季浴客繁きこと。

下總には兵營、練兵場等多きこと(佐倉步兵第二聯隊、習志野騎兵十五、十六聯隊、鴻台野戰砲兵第一、十六、十七聯隊、四街道野戰砲兵第十八聯隊、四街道砲兵射擊學校)。

埼玉縣(一)

(埼玉縣師範學校報告)

山川岬角海灣等自然地理上の事項

埼玉縣は武藏國の大半をしめ、東京府及び山梨、長野、群馬、栃木、茨城、千葉の諸縣に接し、地形は東西に長くして(二十四里)、南北に短し(十三里)。面積およそ三百方里あり。

本縣の大部は關東平野に屬し、古のいはゆる武藏野の一部なり。されば山の相つらな

れるは僅かに西方の秩父地方にかぎり、又山として有名なるものなし。

荒川は、源を秩父地方より發して、縣の中央を流れ、終に東京府に入る、隅田川これなり。平時は水量少なければども、夏秋霖雨のときは、漲溢して沿岸の田圃を害す。　利根川は群馬縣より來り本縣の北境を流る。

地味は一般によく肥えて穀物、野菜の耕作に適し、また甘藷、桑、茶、棉、藍等の栽培にかなへり。

都邑

浦和町。　縣の南部にありて、人口八千餘あり、埼玉縣廳の在る所なり。

大宮町。　浦和町の北一里餘の所にして、人口一萬あり。奥州線と高崎線との分岐驛にして、鐵道工作場、官幣大社氷川神社等あり。

川越町。　ほとんど縣の中央にして、人口二萬六千餘あり。川越線の起點にして、東京に通ず。また大宮に通ずる電氣鐵道あり。縣内第一の繁華の地にして、商業最も盛なり。

熊谷町。　川越町に次げる都會にして、人口一萬五千あり。高崎線中屈指の驛にして、且つ秩父地方に通ずる上武線の起點なり。

産業及物産

産業。　本縣は地味肥え田畝よく開けて、いたるところ耕作に適し、人口稠密、一方里約四千人を越ゆ。住民は農を生業とせるもの最も多し。其割合は、農は十分の八を占め、商は十分の一、工及び其他の職業を合せて殘りの十分の一をなせり。

物産。　本縣の物産中最も著名なるは穀物類、甘藷、野菜等の農産物にして、ことに麥の如きはその産額頗る多し。この他なほ重なるものは織物(木綿織、絹織)、生絲、繭、蠶種、茶、紙、木材、木炭、鐵器等なり。

交通上の事項

鐵道。　本縣を通過する鐵道には高崎線、奥州線、川越線、東武線、上武線の五ありて、その長さ合せて百二十餘哩に達せり。

舟路。　荒川の舟路は本縣内に於てはおよそ十五里にして、その下流なる隅田川を通じて、諸物を東京に運送す。また國境なる江戸川には東京に至る定期の汽船あり。

道路。　本縣には名高き道路二つあり。一を中山道と云ひ、一を奥州街道と云ふ。ともに國道なり。すべて本縣の道路はいたる所平坦にして、秩父地方を除く外は、往來運送ともに甚だ便利なり。

神社佛閣名勝舊跡等

官幣大社氷川神社。武藏國の一の宮と稱し、大巳貴命、素戔嗚命、奇稻田姫の三神を祭る。社の周圍は公園にして景致よきを以て、東京より來り遊ぶもの少からず。

吉見の百穴。浦和の西北九里許吉見村にあり。山腹一面に許多の橫穴あり、其數二百八十餘、大さ小なるは數尺、大なるは一丈四五尺に至る。學者或は穴居の遺跡とし、或は古代人の墳墓なりとす。明治二十三年坪井正五郎氏發掘して、其出づる所の品物を東京帝國大學に保存せり。考古學上有名なる遺跡なり。

埼玉縣（二）

（埼玉縣女子師範學校報告）

山川岬角海灣等自然地理上の事項

山。秩父山(武甲山、影森石灰洞、三峯山、兩神山)。

川。利根川(附見沼用水、葛西用水)、江戸川、荒川、入間川。

都邑

浦和町、川越町、熊谷町、大宮町(中仙道)、大宮町(秩父道)。

産業及物産

産業。農業、養蠶業、機業。

物産。米、麥、甘藷、織物(秩父絹、飯能絹、斜子、二子縞、青縞)、茶、鐵器(川口)、煉瓦(深谷在)。

交通上の事項

鐵道。中仙道線、奥州線、東武線、上武線、川越線、川越電氣鐵道。

神社佛閣名勝舊跡等

氷川神社、吉見百穴、熊谷寺、金鑽神社、喜多院、小手指ヶ原、箕ノ山。

以上各項の外重要なる事項

武藏野、塙保巳一、畠山重忠、熊谷直實、奥貫友山。

挿畫

吉見百穴、吹上邊より見たる秩父山の全景。

群馬縣（一）

（群馬縣師範學校報告）

川岬角海灣等自然地理上の事項

西及び北は上野三山(赤城山、榛名山、妙義山)を主とし、武尊山(利根郡)、白根山(吾妻郡)、稻含山(北甘樂郡)等あり。

産業及物産

製絲業。本縣到る所盛に行はれ、最近三ヶ年間の年平均産額一千三百萬圓餘なり。就中有名の會社は碓氷社（碓氷郡原市町）、甘楽社（北甘楽郡富岡町）等にして、碓氷社最近三ヶ年平均賣上金約四百萬圓に達す。製絲の方法は座繰にして悉く米國に向て輸出せり。

絹織物。最近三ヶ年間平均産額は約七百萬圓（日露戰役の影響を受けたる事尠からず）にして桐生を以て第一とす。同町附近一二里間の村落は殆ど之を以て本業とす。織物會社は一會社にしてしかも去三十五年の設立、創業初期に屬するも一ヶ年の製産額約五十萬圓に上り、本年の如きは優に七十萬圓に達すと云ふ。而して其十分の九は清國輸出なり。其他伊勢崎町も銘仙を以て顯はれ最近三ヶ年間の平均産額二百餘萬圓に達す。

交通上の事項

碓氷峠には二十六の隧道あり、汽車はアプト式によりて之を過ぐ。

高崎市より北甘楽郡下仁田町に通ずる輕便鐵道あり。

鐵道東武線は埼玉縣より利根川を渡り館林を經て栃木縣足利に通ず。

利根川は新田郡より下流は舟運の便を與ふ。

神社佛閣名勝舊跡等

新田郡太田町の北に在る金山（カナヤマ）の頂きには新田氏の城跡あり、義貞を祀れる新田神社（縣社）も亦此所に在り。

以上各項の外重要なる事項

本縣は温泉頗多く其數四十に近し、就中四萬（吾妻郡）は伊香保、草津に次ぎて有名なり。

本縣は地味頗る桑に適す、故に養蠶業起り、延て絹織物業の隆盛を見るに至れり。

群馬縣（二）

（群馬縣女子師範學校報告）

山川岬角海灣等自然地理上の事項

赤城山、榛名山、妙義山（以上上野三山）。利根川。西及北は山野にして東南は平坦なること。

産業及物産

養蠶業盛なるを以て製絲業織物業も亦盛なること。繭、生絲、織物。

郡邑

前橋市、高崎市、桐生町、富岡町、館林町、伊勢崎町、藤岡町、安中町、沼田町。

交通上の事項

高崎線。　上野高崎間、更に高崎より前橋に至る。

信越線。　高崎より碓氷峠を通過して長野縣に入る。碓氷峠のアブト式。

兩毛線。　前橋より伊勢崎、桐生を經て栃木縣に入る。

上野鐵道。　高崎より下仁田に至る。

東武鐵道。　埼玉縣より館林を經て足利に至る。

神社佛閣名勝舊跡等

榛名山、妙義山、金山。

以上各項の外重要なる事項

伊香保及び草津温泉。

挿畫

妙義山。

備考

本縣は伊香保、草津、四萬、磯部等の外、温泉及鑛泉に富むこと。

金山は新田義貞の舊跡にして、又高山彦九郎を祭れる祉あり。

桐生及伊勢崎は織物業盛にして、館林の西なる中野も亦織物の產地なること。

富岡には有名なる製絲場あること。

栃木縣（一）

（栃木縣師範學校報告）

山川岬角海灣等自然地理上の事項

那須山。　縣の東北境にあり、今尙盛に硫烟を噴出す。

那須野。　那須山の麓長く南東に延びて廣野をなす所、那須野が原なり。

鬼怒川。　縣の西北山中の鬼怒沼より發し、縣下大部分の水を集めて南流し利根川に入る。

那珂川。　縣下東北部の平野を灌漑し、茨城縣に入りて海に落つ。

中宮祠湖（チューグージコ）。　日光山中にあり、周圍六里、湖邊の勝地には內外人の別莊あり。夏時暑を此地に避くるもの少からず。

華嚴瀑。　中宮祠湖の水流れて有名なる華嚴瀑をなす。其下流は卽ち大谷（ダイヤ）川なり。

鹽原温泉。縣内火山多く、從て温泉の湧出少からず。特に著名なるものを鹽原温泉とす。

都邑

宇都宮市。縣の中央に位し、栃木縣廳こゝにあり。

栃木町。縣の南部に位す、繁盛宇都宮市に次ぐ。

産業及物産

足利の織物。縣の西南隅群馬縣に接して足利町あり、絹織物を以て著はる。

足尾銅山。日光の西南にあり、銅の産額我國第一なり。

茂木、烏山の煙草。縣の東部に茂木町、烏山町あり此邊煙草の栽培甚だ盛なり。

益子町の陶器。茂木の南方に益子町あり、陶器を産するを以て名高し。

交通上の事項

兩毛線。群馬縣より來れる鐵道は足利、栃木を過ぎて小山に至り、奥州線と會す。

水戸線。小山より東水戸方面に通ずるものあり、之を水戸線とす。

奥州線。奥州線は小山にて東は水戸線西は兩毛線と會し、縣の中央を過ぎ宇都宮市を經て北方福島縣に入る。

日光線。宇都宮より分れて西北日光に通ず。

神社佛閣名勝舊跡等

東照宮。日光にあり、德川家康をまつる。又其側に大猷院の廟及二荒山神社あり。建築の壯麗山水の美と共に内外人の賞賛するところなり。

足利學校。昔時の足利學校遺跡は足利町にあり、今尙古書を藏す。

備考

中禪寺湖といふ名稱は明治の初年神佛分離の際、中宮祠湖と改め稱することゝなれり。現に同地の地名は中宮祠といひ、郵便局の如きも中宮祠郵便局と稱し居れり。

（注意）中宮祠湖については三一頁備考參照

眞岡木綿は縣下重要物産として、盛に市場の取引に上るが如く、記載したる書籍多けれども、現今はかゝる盛況なし。

栃木縣（二）

（栃木縣女子師範學校報告）

山川岬角海灣等自然地理上の事項

那須山。縣の東北境にあり、今尙盛に硫烟を噴出す。

那須野。那須山の麓長く南東に延びて廣野をなす所、即ち那須野ヶ原なり。其東方湯津上村に那須國造の碑あり、日本三碑の一と稱す。

鬼怒川　縣の西北山中の鬼怒沼より發し、縣下大部分の水を集め、南流して利根川に入る。

那珂川。縣の東北部を流れて茨城縣に入る。

中禪寺湖。日光山中にあり、周圍六里、湖邊の勝地には内外人の別莊あり、夏時暑を此地に避くるもの少からず。

華嚴瀧。中禪寺湖の水流れて有名なる華嚴瀧をなす。其下流は即ち大谷川なり。

鹽原温泉。那須火山の近傍には温泉の湧出甚多し。特に那須山に連れる鹽原山麓には鹽原温泉あり。

都邑

宇都宮市。縣の中央に位し、栃木縣廳こゝにあり。

栃木町。縣の南部に位す、繁盛宇都宮に次ぐ。

産業及物産

足利の織物。縣の西南隅群馬縣に接して足利町あり、絹織物を以て著はる。

足尾銅山。日光の西南にあり、銅の産額我が國第一なり。

茂木、烏山の煙草。縣の東部に茂木、烏山あり。此近傍は煙草の栽培甚盛なり。

益子の陶器。茂木西南方に益子町あり、陶器を産するを以て名高し。

交通上の事項

兩毛線。群馬縣より來れる鐵道は足利、栃木を過ぎ小山にて奥州線と會す。

水戸線。小山より東水戸市に通ずるものあり、之を水戸線となす。

奥州線。奥州線は小山にて東は水戸線、西は兩毛線を合せて縣の中央を過ぎ、宇都宮市を經て北方福島縣に入る。

日光線。宇都宮より西北日光に通ず。

神社佛閣名勝舊跡等

東照宮。日光にあり、徳川家康をまつる。建築の美麗、山水の秀共に、内外人の賞賛するところなり。又東照宮の南に二荒山神社及び徳川家光の廟あり、共に其名世に高し。

足利學校。昔時の足利學校遺跡は足利町にあり、今尚古書を藏す。

備考

中禪寺湖。栃木縣々治概要には中禪寺湖一帶の地を中宮祠と呼び、學校、郵便局、湖名

何れも中宮祠を冠すと雖も、地理上にては依然中禪寺湖たるべきものと認め、之を採らざることとせり。

茨城縣（一）

（茨城縣師範學校報告）

山川岬角海灣等自然地理上の事項

筑波山、霞ヶ浦、利根川、那珂川、北浦、久慈川、鹿島灘。

都邑

水戸、土浦、湊、太田、石岡、古河。

產業及物產

大麥、煙草、石材、石炭、繭、結城紬、結城木綿。

交通上の事項

海岸線、小山線、水戸線、龍ヶ崎線。

神社佛閣名勝舊跡等

鹿島神宮、常磐神社、常磐公園、大洗、西山、瑞龍、勿來。

挿畫

常磐公園、大洗。

茨城縣（二）

（茨城縣女子師範學校報告）

山川岬角海灣等自然地理上の事項

筑波山。平野の間に屹立し、殊に人目を惹く。高さ八百七十六米。山巔には山階宮殿下の御經營に成る觀測所あり、學界に貢獻する所尠なからずといふ。

霞ヶ浦附北浦。霞ヶ浦は周圍三十六里、我國第二の湖なり。其水北浦に連り利根川に通じ、舟運の便多し。此の流域盛に米を產す。

那珂川。源を栃木縣那須山の麓に發し、水戸市の北を過ぎて海に注ぐ。舟楫の便あり。川口に湊町あり、漁業頗る盛なり。

地形の概要。北方は山地にして、東は太平洋に面し、西南は廣き平野をなせり。山地は八溝山脈及阿武隈山脈の南に延亘せるものにして、八溝山脈は栃木縣の境をなし南に走りて筑波山に連る。山地より美麗なる石材（橄欖岩、花崗石、大理石）を產す。又近來多賀山脈中（赤澤、華川）より、銅、石炭を採掘すること盛運に向へり。

都邑

水戸市。 縣廳所在地にして、諸官衙及諸種の學校等あり。人口三萬七千(卅八年十二月調)を有し、市况頗る賑かなり。市に常磐公園あり、我が國三公園の一なり。園の傍に常磐神社あり、別格官幣社にして徳川光圀同齊昭兩公を祭れるなり。園は眼下に千波湖を湛へ、遠く筑波山を望み、數千の梅樹花を開くのとき風光最佳なり。

土浦附石岡。 霞ヶ浦の西岸に位し、水陸交通の便頗る好し。百貨四方より集る。近傍に石岡町あり、醤油、清酒を産し商業盛なり。

太田。 水戸鐵道の終局地にして、北部山地の物産概ね此地に集り後他に輸送せらる。煙草(赤土)はこの地方の名産なり。近傍に西山あり、徳川光圀隱栖の地として名あり。

結城下館。 共に鐵道(水戸、小山間)に沿へる名邑にして、結城は良好なる紬を産し、下館の近傍より多く木綿を出す。

湊。 那珂川口の港にして商業の地なり。この近傍平磯、磯濱等と共に本縣主要の漁業地なり。磯濱に大洗(岬)あり。遙に犬吠岬(鹿島灘を隔てゝ)と相對し風景絶佳なり。

産業及物産

本縣は農業を以て主要なる生業となし、地積の約三分の一は耕地とせられ、米、麥、煙草、茶等は其の最も重要なる産物なり。

蠶業もまた年を逐うて隆盛の域に進みつゝあり。(三十四年調査八萬七千石餘)

米は平年約百十六萬石に上り、麥は同百十三萬石以上にして埼玉縣に亞ぎ、本邦第二の麥の産地たり。煙草は約九十萬貫(三十八年調)を産し、赤土の名世に知らる。茶もまた本邦有數の産地にして、殊に眞壁、猿島の二郡最多額を産す。繭は年々八九萬石の收穫に上るべく、價額二百五十萬圓を下らずと云ふ。

交通上の事項

本縣は平野大部分を占め、諸川概ね舟楫の便あり。且鐵道の通ずるあるを以て、北部山地を除くの外、交通の不便を感ずる所少し。

鐵道は東京より東北に向ひ土浦、石岡を經るものと、小山より結城下館を經るものと相合して水戸を過ぎ、海岸に沿ひ北に向ふものを主とし、水戸を起點として太田に至るものあり。

神社佛閣名勝舊跡等

鹿島神宮。 官幣大社にして武甕雷命を祭れるなり。神代の世、武甕雷命は武勇勝れたる御方にして、經津主命と共に日神の命を受け大八洲に來り、大國主神を服從せし

め、其の子健御名方神の服せざるを以て之を追うて科野に入り、遂に之れを破り、進んで常陸に來り、駐つてこの地方の開拓者とならせたまへるを後人の祭れる祉なり。

備考

常磐神社、太田の西山及鹿島神宮は共に歴史教授と連絡せしめんことを目的とす。

大洗、常磐公園、西山は性質上名勝舊跡に屬すべきも、事實の連絡上都邑の部に附記したり。

各地方に偏局せる物産は其の都邑に記入し、産業物産の項に擧げず。

奥羽地方

福島縣

(福島縣師範學校報告)

山川岬角海灣等自然地理上の事項

阿武隈川、磐梯山、猪苗代湖。

都邑

福島、若松、平、白河、中村、郡山、川俣。

産業及物産

産業は養蠶、製絲、機業、漆器陶器製造業とし、生絲、羽二重、蠶卵紙、漆器、煙草、馬、陶器を産す。

交通上の事項

鐵道。奥州線、奥羽線、岩越線。

神社佛閣名勝舊跡等

靈山、勿來。

以上各項外の重要なる事項

鹽屋崎燈臺。

備考

羽二重は本縣重要の物産なり。

靈山は北畠顯家の古蹟なり。

鹽屋崎燈臺は磐城國鹽屋崎にあり。

宮城縣

（宮城縣師範學校報告）

山川岬角海灣等自然地理上の事項

平野。西部は一帶奥羽山脈連亘し、之より流出する數條の河流はみな太平洋に注ぎ、北上、阿武隈二川の下流も亦本縣に屬す。是等諸川沿岸には平野沃野連り、中に金成、大崎、名取の廣土あり、何れも田圃遠く相開け、所謂仙臺米の産地なり。

河流。北上川は岩手縣より來り、水量豐にして流勢緩漫、支幹合せて舟楫の通ずる所百四十餘里、本邦稀に見る所なり。其下流分れて二となる。本流は卽ち三百餘年の昔伊達政宗公の河村孫兵衛に命じて開鑿せるものにして、河口の石巻は昔時著名の産米穀輸出場たり。然れども現今は河口埋まりて淺く大船を入るること能はざるを以て、横濱、青森間の汽船は荻の濱の小港に寄港するの止むなきに至れり。阿武隈川は流おそく其幅亦廣濶なれども、河底尤も淺く河口に近き所徒渉することを得べく、舟楫を通ずること能はず。却つて年々洪水汎濫の虞あるのみ。

松島及金華山。仙臺より半時間にして鹽竈に達し、之より舟を艤するときは二時間ならずして松島に到ることを得べし。其間大小三百に近き島嶼灣内に碁布し、島として青松を戴かざるものなく、水面之に反映して波濤立たず、眞に絶景の地たり。島嶼は第三紀凝灰岩に屬し、島の高さ大凡皆等し。蓋し平地の裂罅に海水浸入し、其の侵蝕の結果今日の如く分離したる者なるべし。島嶼は皆壁立してよく地層平積の狀を目擊することを得。

金華山。牡鹿半島の尖端海中に存する三角錐狀の一島嶼にして、全島花崗岩より成り、中に黄金神社を安置す。夏時登山する者多し。且つ洋上數十里より望むことを得るを以て、近時燈臺を設け航海者の便に供せり。

都邑

仙臺を中央として北に古川、石巻、南に岩沼、白石の都邑あるも、鐵道開通以來市況漸次衰頽し、亦昔日の觀なし。然れども近來産業の發達に伴ひ當に恢復の狀態あれども、未以て面目を改むるに至らず。殊に鹽竈及石巻は重要の位置にあるも、海底淺くして大船を入るるに適せず。獨り荻の濱の良港あれども、附近の設備全からざるを以て、本縣内には仙臺市を除くの外、大都と稱するに足る者なし。是目下築港の必要を唱ふる所以か。

産業及物産

養蠶業。 平野は概ね沖積土にして桑樹の栽培に適し、氣候亦蠶兒の發育を妨ぐるに至らざるを以て、養蠶の業年を追うて發達し、村落に入るときは毎戸此の業を營まざる者なき程にして、從ひて製絲、養蠶の業盛にして、今や奥羽中屈指の産地を以て目せらるるに至れり。殊に近來郡村共同の製絲場を設くること行はれ、其産額百五十萬圓に近し。

織物業。 織物として名あるものは仙臺平及八橋織にして、其額四十五萬圓に達し、漸次盛況を呈するに至れり。仙臺平は二百餘年前の創始に係り、漸次精巧を極め、品質堅牢にして褪色の患なく、袴地として稱せらる。八橋織は元來下着用の者なりしが、近來ハンカチーフとして、松島の景を織り、或は宮城野萩を織出して好評せらる。

埋木。 伊豫の扶桑木と同じく全く炭化したるものにあらず、故に亞炭の名を附する者あり。仙臺より産するは名取川の河底より採取する者にして、採取の當時は水分多く裂け易きを以て、久しく天井に吊してよく之を乾燥し、全く水分を去りたる後、之に松島の景を彫り、或は山水を刻して茶盆、茶托、菓子盆、貫入等の什器に製し、其價額三萬五千餘圓に達す。

牧馬。 古來より行はれ加美、玉造を主とし、就中玉造鬼首(オニカウベ)の乘用馬尤著はる。元種は伊達政宗公の外國より種馬を求め來りて牧養したるに始り、爾來駿馬を出したること多く、徳川時代より乘用として獻上したるものは皆こゝより産せる者なり。近年御料に召されたる金華山宮城野は何れも鬼首の産なり。此地到る處温泉あり、又鬼首に間歇泉あり。

漁業。 鮪の獵尤も多く其額十六萬圓に近し、金華山沖又捕鯨の利あり。近來會社を設け盛に之を捕獲し、其額鮪獵以上に及ぶことあり。

岩手縣

（岩手縣師範學校報告）

山川岬角海灣等自然地理上の事項

中央山脈、北上山脈、岩手山、早池峯(ハヤチネ)、酢川岳(スカハダケ)、北上川、北上平野、宮古港。

都邑

盛岡、一關(イチノセキ)、水澤、遠野、福岡。

産業及物産

鑛産。鐵、銅、硫黄、金。

畜產。馬、牛。

農產。米、煙草、苹果（リンゴ）。

水產。鰑、鰹魚、鮑、海藻。

交通上の事項

鐵道。奥羽線。

北上川の水運（一關の東方約一里の狐禪寺より下流）。

神社佛閣名勝舊跡等

中尊寺、駒形神社、櫻山神社、厨川柵址、衣川柵址、膽澤城址、紫波城址。

以上各項外の重要なる事項

水澤の緯度觀測所、宮古測候所、盛岡高等農林學校、大船渡（オホフナト）、小岩井（コイハイ）農場、岩手種馬所、外山（ソトヤマ）牧場、六原（ロクハラ）牧場、中山牧場。

備考

仙人の鐵。和賀郡岩崎村の仙人鑛山より採掘する鐵なり。本縣下、上閉伊郡中にも仙人峠と稱する同名の地ありて、而かも峠の麓に大橋の鑛山ありて亦鐵を產するが故に、誤ることあれば注意を要す。

大船渡。本縣下、氣仙郡にありて目下築港、鐵道敷設、鑛山開掘につきて研究調査中に屬し、將來有望の港なり。

小岩井農場。本縣下、岩手山麓にありて元小野義眞、岩崎久彌、井上勝、三氏の企業なりしを以てこの名あり。現に牧畜、造林、バタ製造、農業等をなし、文明の利器を應用して從事せる大農場なり。

青森縣

（青森縣師範學校報告）

山川岬角海灣等自然地理上の事項

津輕、斗南（トナミ）の二半島、陸奥灣、岩木山、八甲田山、岩木川沿岸の津輕平野、尻矢崎（燈臺及霧笛の設あり）、十和田湖（山水の勝景蓋し北奥の冠たるべし）。

都邑

青森市（明治三十九年四月一日以來開港場となれり）、弘前市（第八師團司令部あり）、大湊（明治三十八年十二月十一日以來海軍要港となれり）、三本木（軍馬補充支部あり）、七戸（種馬牧場あり）。

產業及物產

產業。津輕地方は米穀及森林に富み、南部地方は牧畜盛なり。

物產。羅漢柏材、林檎(苹果)、馬。

交通

鐵道。奥州線は岩手縣より來り、八戸町の西を過ぎて青森に至り、奥羽線は秋田縣より來り、弘前を經、青森にて奥州線と會す。青森は兩鐵道の集合點にして、北海道及樺太諸港に渡航する要樞に當り、海陸運輸の便なること函館と相駢びて北日本の二大關門たり。

神社佛閣名勝舊跡等

岩木山神社(國幣小社)。

恐山。地藏堂、今は噴火せざれども硫黄を產し溫泉出づ。

秋田縣

(秋田縣師範學校報告)

山川岬角海灣等自然地理上の事項

秋田縣は青森縣の南に位し、東は岩手縣と背を合せ、南は山形縣に隣りし、東南の一部は宮城縣に接し、西は日本海に臨む、隣縣との境界は皆山脈にして、脊梁山脈は岩手縣との境にありて南北に駛走せり。又其西には之に並行せる出羽山脈あり。この二條の山脈は域内の地勢の大部を形成するものなり。

海岸多くは砂濱にして平直なり。唯男鹿半島突出して八郎潟を擁する所あるのみ。半島の南に船川灣あり。灣の北方には寒風山等の山岳ありて北西風を遮ぎるにより、廣濶なる灣內も風波穩にして、日本海中良錨地の一なり。

御物川は南方の國境より發し、脊梁山脈と出羽山脈との間の廣大なる平野を灌漑し、西北方に屈折して出羽山脈を横ぎり、秋田平野に出で土崎港に注ぐ。流程三十八里、其過半は舟楫の便ありて、直接には貨物を紹介し、間接には產業を發達せしむる等、其の効用偉大なり。土崎港町の發達も之に基づけるものとす。

米代川は源を岩手縣より發し、北部の平野を灌漑して能代港に注ぐ。流程三十四里、山林の木材、鑛山の鑛石、平野の物產等を運搬して之を河口に送り、能代をして大に活動するを得せしむ。御物川と相俟ちて域內の二大動脈なり。

(注意) 米代川は一に能代川と云ふ

平野の大なるものも此の二川の流域にありて、農業行はれ多額の米を産す。生産力に富める所は乃ち都邑の發達を促がす原因たるものなり。されば縣内著名の都邑は多くは二川の沿岸に發達せり。

都邑

土崎港町。 御物川口の右岸にあり、縣内第一の商港なり。米、材木等を輸出す。

秋田市。 人口三萬餘、土崎の東方一里餘にあり。御物川の下流に位し、旭川は市中を貫流し、奥羽線の鐵道は市の東に通ずるを以て水陸運送の便あり。他日羽越線の鐵道全通せば益々有望の地たるに至るべし。佐竹氏の舊城下にして、物貨輻湊し商工業盛なり。縣廳及第十六旅團司令部あり。城址は今佐竹侯の所有にして、概ね公園となれり。山岳、河海、平野、市街等眺望の雄大なるは比類稀なる公園なり。市内に挽材會社數個あり、各々新式の機械を備へ蒸氣を原動力として盛に板類を製出せり。秋田畝織、八丈縞等は市の名産なり。

能代港町。 人口一萬五千、能代川の口にあり。土崎と共に縣内重要の商港なり。此地は木材の中心市場にして木材の集積夥しく、川の流水は木材を以て滿され、僅に船路を殘せるのみ。兩岸附近も亦木材蓄積累々たり。奥羽線鐵道の能代驛は町の東方一里餘にあるも、其の間車馬の往來自由なれば、水陸運送の便あり。町内に能代挽材株式會社あり。其の工場内に据付たる製材機械は内國製及外國製のもの合計三十六臺にして、蒸氣力によりて運轉迅速を極め、巨大の杉丸太の如きは瞬く間に板となるの裝置なり。此處の汽罐に用ゐる燃料には木材の切片又は鋸屑のみにて十分なりと云ふ。是れ本邦に於て始めて完全なる機械挽の薄板を製出し、製材事業に著大の進歩を現はしたるものにして、其の規模の壯大なること本邦第一と稱せらる。東雲製煉所は阿仁鑛山の銅鑛等を精煉する工場にして、亦此の地にあり。此地は毎年春より秋に至る迄は商船の出入多く、商業繁盛し、米、木材、銅、燻製鰊、水産物等を輸出す。又春慶塗の名産あり。

産業及物産

農産物。 農産物の重なるものは米にして、年額一五〇萬石を産す。近時耕地整理及び乾田法等農業の改良漸く行はるゝに至りたれば、將來益ゝ多額の産出を見るに至らんとす。これ縣内の富は米を以て首位に置く所以なり。

鑛山業。 甚盛大にして、銅と銀との産額は本邦第一なり。銅山の著名なるものには小坂、荒川、尾去澤、阿仁等あり。小坂最も盛大なり。銀山の著名なるものは院内なりしが、

近時稍ゝ衰運に傾けりと云ふ。三十七年度の產額左の如し（秋田縣統計表に依る）。

金。　二九三、九〇〇圓　　　銀。　七二九、八〇〇圓

銅。　三、七一九、九〇〇圓

（注意）小坂よりは近時銅の外、銀の產出甚だ多く、銀山としても本邦第一なり。

秋田の森林。　青森及び吉野と共に本邦に於けるゝ杉の三大林と稱せらるゝものにして、樹齡平均百五十年、目通直徑一尺五六寸、高十六間なるを普通とす。或は目通直徑四尺、長さ三十間に達するもの尠なからず。一般に枝下長く、樹幹直く、邊材薄く、木理緻密なること、色澤鮮麗なること等は他に其の比儔を見ず。是れ秋田杉の古より名を得たる所以なり。秋田森林をして斯の如く其の美を成すに至らしめし原因は何ぞ。(一)天然力にあり、雨量の多きと空氣中濕氣の大なるとは大に杉の成生を助けたり。(二)秋田藩林政の美にして、永遠の利を圖り保護監督の宜しきを得たるにあり。木材市場及び輸出額等左の如し。

能代　輸出額七〇萬圓　輸出先。東京、中國、九州、北海道。

土崎　輸出額四〇萬圓　同　同

織物。　秋田畝織は重に秋田市より產す、地質堅牢にして浮織の雅致あるにより其の名高し。秋田八丈縞は染色の特徴と價の廉なるによりて著はれ、染色の原料にはハマナスの根を用ふ。

能代春慶塗。　塗方に獨得の長所ありて時流に投せず、製造後三年を經ざれば販賣せざる等、注意を要すること多きにより、其の價高けれども塗り方の高尙なるを以て著はる。

交通上の事項

奧羽線の鐵道は青森縣より來り、大館、能代、秋田、横手、院內等を通過して山形縣に入る。平和街道は横手町より脊梁山脈を越えて岩手縣に入る。酒田街道は秋田市より本莊町を經て山形縣に入る。

冬季には積雪數尺に達するにより、人力車等の往來絶えて無く、其の代り、至る所として橇を用ゐざるはなし。春秋の候人車にて往來するものは冬季に於ては市內と雖も橇によりて往來し、貨物の運送亦橇によるを常とす。橇を曳くものは勞働者にして、輕きものは腕力により、重きものは馬によりて貨物を運送す。積雪吹雪等特に甚しき時は汽車も或は運轉を中止し、障害を除きて後に進行することあり。

神社佛閣名勝舊跡等

横手の北約一里に金澤の柵の遺址あり、脊梁山脈の餘派丘陵となれる地に位し、老杉繁茂せり。境內に八幡宮あり。

挿畫

能代港筏の着材、橇の運材、能代挽材會社工場內。

山形縣(一)

(山形縣師範學校報告)

山川岬角海灣等自然地理上の事項

位置。 山形縣は秋田縣の南に位し、東は宮城縣と脊を合はせ、南は福島縣に接し、西は新潟縣につゞき、一部日本海に面す。地形南北に長く東西に短く、南北凡そ三十九里、東西凡そ二十五里あり。

地勢。 東境は那須火山脈北より南に走りて藏王山を起せり。これと並行して北より來れる鳥海火山脈は北境に其盟主たる鳥海山をおこして中央に入り、月山を起せり、朝日嶽、飯豐山の諸山もこれより南に連り、新潟縣の境を限り、福島縣の西北に達せり。斯の如く縣內群山連亘せるより、山地と平地との割合七と三の如し。南境より最上川の流るゝも、中流に於て鳥海火山脈を横ぎるを以て、地勢自ら最上地方と庄內地方とに別れ、各一の平野をつくる。最上地方とは最上川中流地方をいひ、庄內地方とは其下流庄內地方をいふ。

氣候。 寒暑共に烈しく、盛夏は平均華氏九十一二度に達し、隆冬は二十度に降る。

鳥海山。 北方秋田縣との境にあり、高さ六千九百尺、一名出羽富士と稱し、山腹に鳥の海を湛え、風光掬すべし。又山上には國幣中社大物忌神社ありて、夏秋の交參詣するもの多し。

月山。 鳥海山に次ぐ高山にして縣の中央にあり、高さ六千五百尺、西南に湯殿山、北に羽黑山聳え、之れを羽前の三山と稱す。頂上には官幣中社月山神社あり、夏秋の交諸國より白衣の行者參詣するもの數萬に及ぶと云ふ。

湯殿山。 月山西南山腹の一局部を稱するものにして、附近の地はかつて月山より噴出せる泥流より成り、其中より流出する温泉ありて、附近の岩塊を被覆して美麗なる一小墳狀のものをつくる。國幣小社湯殿山神社の神體として諸人の參詣するところのものは卽ち是なり。

羽黑山。 月山、湯殿山と相並びて夙に羽前の三名山と稱せられ、國幣小社羽黑山神社

(出羽神社)ありて道者の信仰頗る厚きものなれども、高さ僅かに千百尺にすぎず(實測を經ず俗間傳ふるもの)。

最上川。最上川は上流を松川と稱し、縣の南境大日嶽(ダイニチダケ)に發し、北流して米澤市の東部を流れ、鬼面川(オモノ)、白川等を合せ、村山郡に入りて最上川と稱し、尙ほ寒河江川(サガエ)、鮭川等の諸流を入れ、酒田港に於て日本海に注ぐ。流程六十里、灌漑の便多し。水勢急激にして日本三急流の一と稱す。下流は幅廣く、河口より三十里の間舟楫の便あり。

都邑

山形市。元最上と稱し、後ち山方と改め、今山形の字を用ふ。縣廳所在地にして又步兵聯隊の衛戍地なり。人口三萬九千餘を有し、銅鐵器、熨斗梅(ノシウメ)、黑柿細工等この地の名產とす。市の東北にあたりて千歲公園あり。園中柏山寺(ハクサンジ)の藥師堂は堂宇莊嚴ならずと雖も、その草創甚だ古く、天平年中聖武天皇僧行基に勅して一國一宇の國分寺を創立したるものゝ一なり。

米澤市。人口三萬二千餘、山形市に次ぐ市街にして、最上川の水源に近く、山岳四周して自ら一區域をなし、上杉氏の舊城下鷹山公遺業の地たり。此の地養蠶、機業盛にして、米澤絲織尤も世にあらはる。市の中央にある米澤城址は、始め松ヶ崎城と稱したりしが、慶長六年上杉氏會津よりうつりて歷代之に住し、以て維新に及べり。現今この地を以て公園となす。上杉神社其中央にあり、別格官幣社にして、上杉謙信の靈を祭れり。

酒田町。酒田は元砂潟と記せしところにして、人口二萬三千餘、最上川の口にあり。船舶の碇泊には便ならざるも、最上川流域地方の咽喉たり。且つ日本海航行船の寄泊する所にして、百貨の集散多し。然れども鐵道貫通以來商業の盛なること昔に及ばず。

鶴岡町。舊酒井家の城址にして、人口二萬餘、機業盛にして羽二重の產額近來著しく增加せり。

新庄町。人口一萬二千、秋田縣に通ずる要路に當り、稍殷賑の都會なり。

產業及物產

製絲、機業の盛なること奧羽中福島縣に次ぐ。

明治三十七年度重なる物產の產額左の如し。

生絲	七三、七〇四貫	三、八七四、七〇九圓
絹織物	三四六、五四五反	一、三七三、五八六圓

(出羽神社)ありて道者の信仰頗る厚きものなれども、高さ僅かに千百尺にすぎず(實測を經ず俗間傳ふるもの)。

最上川。最上川は上流を松川と稱し、縣の南境大日嶽に發し、北流して米澤市の東部を流れ、鬼面川、白川等を合せ、村山郡に入りて最上川と稱し、尙ほ寒河江川、鮭川等の諸流を入れ、酒田港に於て日本海に注ぐ。流程六十里、灌漑の便多し。水勢急激にして日本三急流の一と稱す。下流は幅廣く、河口より三十里の間舟楫の便あり。

都邑

山形市。元最上と稱し、後ち山方と改め、今山形の字を用ふ。縣廳所在地にして又步兵聯隊の衞戍地なり。人口三萬九千餘を有し、銅鐵器、熨斗梅、黑柿細工等この地の名産とす。市の東北にあたりて千歲公園あり。園中柏山寺の藥師堂は堂宇莊嚴ならずと雖も、その草創甚だ古く、天平年中聖武天皇僧行基に勅して一國一字の國分寺を創立したるものゝ一なり。

米澤市。人口三萬二千餘、山形市に次ぐ市街にして、最上川の水源に近く、山岳四周して自ら一區域をなし、上杉氏の舊城下鷹山公遺業の地たり。此の地養蠶、機業盛にして、米澤絲、織尤も世にあらはる。市の中央にある米澤城址は、始め松ヶ崎城と稱したりしが、慶長六年上杉氏會津よりうつりて歷代之に住し、以て維新に及べり。現今この地を以て公園となす。上杉神社其中央にあり。別格官幣社にして、上杉謙信の靈を祭れり。

酒田町。酒田は元砂潟と記せしところにして、人口二萬三千餘、最上川の口にあり。船舶の碇泊には便ならざるも、最上川流域地方の咽喉たり。且つ日本海航行船の寄泊する所にして、百貨の集散多し。然れども鐵道貫通以來商業の盛なること昔に及ばず。

鶴岡町。舊酒井家の城址にして、人口二萬餘、機業盛にして羽二重の産額近來著しく增加せり。

新庄町。人口一萬二千、秋田縣に通ずる要路に當り、稍殷賑の都會なり。

產業及物產

製絲、機業の盛なること奧羽中福島縣に次ぐ。

明治三十七年度重なる物產の產額左の如し。

生絲	七三、七〇四貫	三、八七四、七〇九圓
絹織物	三四六、五四五反	一、三七三、五八六圓

木綿織物	三六五、〇〇〇反	二八四、七三六圓
米	一、七一二、九五九石	
葉薄荷	四三二、八七五貫	九一、五九〇圓
銅	一〇〇、〇〇〇貫	

交通上の事項

鐵道。官設鐵道奥羽線は福島より起り、板谷隧道(十九個)をすぎ、米澤に至り、山形、新庄等を經て、秋田縣に入る。

神社佛閣名勝舊跡等

山寺。山形市をさる東北方三里の地、山寺村大字山寺にあり。寶珠山立石寺と號し、貞觀二年慈覺大師、清和天皇の勅を奉じて草創したるものなり。三國傳來の釋迦多寶の像を本尊とす。境内五萬餘坪、奇岩怪石累々として重疊し、磴道紆縈、殿堂巍々として山腹に點在す。寺中には寶物として清和天皇より下し賜はりし立石倉印の鑄型及慈覺大師所持の佛具數點を藏す。實に縣内屈指の靈刹なり。

念珠ケ關。新潟縣との境、古の關所のありしところにして、街路の傍ら鼠喰岩のあるところを古關址とす。前方海面に辨天島あり、直立凡そ十二丈廣袤三十間、嚴島神社を祭る。此の地遠く佐渡島を水天髣髴の間に望み、溫泉ヶ岳の翠を凝すを見、山光水色共に絶佳なり。

溫泉。縣内到るところ溫泉多く、重もなるもの凡そ五十ヶ所あり。就中上ノ山、高湯、湯溫海、湯ノ濱、肘折、瀨見等の溫泉最も表はる。

備考

絹織物の產額統計。

明治三十三年	二、七四六、九一五圓	三九六、五〇五反
同　三十四年	二、七〇七、一〇六圓	五〇〇、四四七反
同　三十五年	二、七〇六、八九三圓	五〇一、四二三反
同　三十六年	一、七二二、七七六圓	三五九、三二六反
同　三十七年	一、三七三、五八六圓	三六四、五四五反

山形縣(二)

(山形縣女子師範學校報告)

山川岬角海灣等自然地理上の事項

鳥海山、羽黑山、月山、湯殿山、藏王山、最上川。

米澤の平野、山形の平野、庄內の平野の三域に分れたること。

都邑

山形平野の山形市、米澤平野の米澤市、庄內平野の鶴岡町及酒田町。

產業及物產

米澤地方の蠶業絹織物、庄內地方の米、鶴岡の羽二重、山形地方の薄荷及蠶業。

交通上の事項

福島より來れる鐵道は板谷の嶮を過ぎ、米澤市、山形市を經て秋田縣に入る。

庄內地方は海に面するも、海岸の屈曲乏しく、交通の便少なし、且つ山形地方とは山脈を以て隔つるが故に其交通不便なり。

神社佛閣名勝舊跡等

山寺、羽黒、月山、湯殿の三山、米澤の上杉神社。

以上各項外の重要なる事項

米澤藩主としての偉人上杉鷹山公。

備考

山寺は寶珠山立石寺と號し、山形市の東北三里餘、山寺村にあり。貞觀二年慈覺大師の創立にして、清和天皇の勅願所なり。三國傳來の釋迦の像を本尊とす。山は奇岩怪石(第三紀凝灰石)錯落として、石門をなすあり、洞窟をなすあり、圓柱をなすあり、其の神工鬼鑿、小妙義山と云ふべし。

本州中部地方

靜岡縣(一)

(靜岡縣師範學校報告)

山川岬角海灣等自然地理上の事項

富士山、天城山、秋葉山、三方原、天龍川、大井川、富士川、伊豆半島、御前崎、駿河灣、濱名湖。

都邑

靜岡市、濱松町、沼津町、三島町、清水港、下田港。

產業及物產

茶、繭、駿河半紙、洋紙、漆器、鰹節、石油、石材、椎茸、疊表、銅、木材、樂器、山葵、乾蠶、綿絲、竹細工、石花菜。

交通上の事項

鐵道。東海道線、豆相線。

道路。東海道、下田街道、甲州街道。

水路。天龍川、富士川、大井川、淸水下田間の海路。

神社佛閣名勝舊跡等

東照宮、三島神社、淺間神社（大宮靜岡）井伊谷神社、方廣寺、田子浦、三保松原、淸見寺、濱名湖、裾野韮山城址、熱海溫泉、修善寺溫泉。

靜岡縣地理敎材參考

山川岬角海灣等自然地理上の事項

富士山。本邦第一の名山にして、甲駿の、境にあり、高さ一萬二千四百六十七尺、駿河灣にのぞみ、灣岸の風景と相俟ちて、本邦屈指の勝地をなす。頂上には四時殆ど雪をいただき、ここに舊噴火口あり。周圍一里餘にして院内と稱す。坑底には萬古の雪を貯へ、又電柱の如き氷柱は坑の內側に垂下し、實に偉觀を呈す。山頂の周圍には八峯削立し、劍ヶ峯最高し。四方を望めば一目凡そ五十里の遠きに及び、所謂富士見十三州の名空しからず。其絶景は登臨せし人にあらずんば共に語るを得べからざるなり、盛夏の頃は內外人の登山するもの多く、大宮、御殿場、須走、須山、吉田は何れも其登り口たり。劍ヶ峯の下、孔に面して降れば淸水の湧出する所あり、金明水、銀明水は之れなり。八合目以上は官幣大社淺間神社奥宮境內にして、院內に社殿あり。東腹に寶永山あり、寶永年間噴出の際この山を生ず、故にこの名あり。かかる絶景を有し、巍然として動かず、天空に聳えたる富嶽は如何に國民の性格に感化を與へつゝあるか。氣象は雄大にして、心情は高潔に、壯美的感情を有するは蓋是れが爲めか。此の山はただに火山として研究すべきもののみならず、植物帶の變化及溫度の昇降、氣壓の上下等の高山氣象を調査するを得。卽植物帶には杉、富士松、灌木、蘚苔等を見、溫度は逐次下降して遂に萬古の雪を喫し、氣壓は遞減して半熟飯、呼吸逼迫、頭痛岑々等を實驗するを得べし。

天城山。伊豆の中央に位し、北は箱根、富士に連り、南は豆南諸島に至る。所謂富士火山脈中の一なり。海拔五千二十尺にして、石材、木材、山葵等を產す。

秋葉山。遠江の中央にあり。海拔二千八百五十九尺にして、山上に秋葉神社あり、鎭火神として崇敬せらる。赤石山脈に屬し、同山脈は赤石山より此の山を經て渥美半島

に至り、縣の西北部を限る。

天龍川。源を信濃の諏訪湖に發し、數條の支流を併せて、縣の西部遠江を貫きて南流し、掛塚港に至りて海に入る。流程五十六里、幅八町に達する處あり。下流二十五里は船を通ずべく、運輸の便あり。下流の鐵橋は東海道第一の長橋にして有名なり。この川由來灌漑の利あるを以て、河口兩岸の如き沃野遠く連り、農産殊に多し。

大井川。源を甲斐の白根山に發し、駿遠二州の境を南流して、駿河灣に注ぐ。長さ四十六里にして、吐口は廣さ十八町あり。平時は殆ど砂石のみにして水量高からざれども、漲水時に至れば勢頗猛烈にして、昔時は橋梁の設なく、蓮臺渡は有名にして、東海道中の難所なりき。然れども今は橋梁を架す。下流十六里は舟運の便あり。

富士川。大井、天龍と共に縣下三大河と稱す。甲斐の八ヶ嶽に發し、縣の中部を南流し、田子浦に注ぐ。長さ四十里にして、鰍澤より岩淵に至るまで十八里の間は舟運の便ありて、半日にして下るべし。甲駿兩國の通路をなせども、赤石山脈と富士山との間を流れ、傾斜急激に、怪巖奇石處々に隱見し、本邦三急流の一として名あり。此河始め舟楫の利なかりしが、慶長十二年角倉了以命を受けて、船制を定め、淺瀬を渫ひしにより、大に舟運の便あるに至れり。

伊豆半島。縣の東部より南に突出す。全島殆ど山にして、富士火山脈貫通し、温泉多く、殊に熱海、修善寺等は最も有名なり。中央に天城山あり。火山岩海にせまりて石廊崎をなす。燈臺あり。内地の石材、沿海地方の石花菜、鰹節は有名なる産物なり。この地は歴史上大に關係ある處にして古跡多し。

御前崎。遠州の東部より遠州灘に突出し、遙に伊豆の石廊崎と相對して駿河灣を擁す。崎頭の燈臺は明治七年五月の設置にして、水面を拔く百七十三尺、煉瓦造圓形第一等旋轉白色にして、光達距離十九海里。この地地角巖礁多く、點々波間に隱見す。是れより以西の海を遠州灘と云ひ、古來波あらきを以て有名なり。

駿河灣。波靜にして田子浦、三保松原等の勝地此の中にあり。開港場を以て有名なる清水港は三保ノ松原に包る。灣内最深の地は千尋以上に至る處あり。

濱名湖。縣の西端にあり。東西一里二十九町、南北二里三十二町にして、周圍二十三里十五町、面積約五方里あり。古は一大湖水をなしたりしも、凡四百年前明應七年八月遂に海嘯のため海水と通ずるに至れり。湖口を今切と云ひ、其廣さ百間許り、鐵橋を架す。風光絶佳にして、却て琵琶湖邊を汽車窓より眺むるに優る數等なり。湖内の辨天島は白沙青松にして風光明媚、海水浴場として最も名あり。鰻鯔は湖水の名産な

り。由來此の地は東海の絶勝なるを以て、詩仙小野湖山は其の八景を選ぶ。曰く濱名長橋、象洲漁火、館山秋月、迫門奇巖、礫島松風、本坂紅葉、高師晴霰、鷲津櫻花之れなり。山水又無限の情あり。可憐なる彼等が天眞の風光は雅人をして轉た腦殺せしむ。昔は所謂遠淡海、之を滋賀の淡海に對し遠近の稱を立て、遂に國名の起因となるに至れり。今切の變遷は古來甚多く、應永十二年、文明七年、明應八年及永正七年の數災あり。近く元祿、寶永にも湖口の破壞ありき。

（注意）濱名湖口の決潰に關し、女子師範學校報告にも明應八年湖水と通ずとあり、但明應決潰の事古書徴證少し。今切決潰は永正の震災によれるものか。

三方原。濱松の北に連る曠原にして、東西二里半、南北四里、松林交り松茸を産し、梨園益、增加の傾にて大に有望なり。

都邑

靜岡市。駿河國にあり、安倍川其西を流る。東西三十一町、南北二十三町に亘り、人口四萬七千餘、縣廳の所在地なり。

駿府城址には其本丸に歩兵第三十四聯隊營舍あり。駿府城は始め今川義元の居城たりしが、後德川家康玆に退隱す。本丸内には家康の御手植の橫及蜜柑今尙存す。

市内の建築物は御用邸、御料局支廳、地方及區裁判所、師範學校、女子師範學校、中學校、商業學校、縣立私立の高等女學校、農工銀行、第三十五銀行、物産陳列館等なり。

神社には淺間神社あり（神社佛閣名勝舊跡等の項參照）。佛閣中寶臺院、臨濟寺名高し。

寶臺院は市の南方下魚町にあり、淨土宗の寺院にして方十五間の本堂には彌陀三尊を安置す。德川家康の側室西鄕局を葬る。創め龍泉寺と號す、寬永五年五月勅使參向、西鄕局に寶臺院一品大夫人の謚を賜ふ。依りて寺號を改む。今尙本堂内に二十七八年戰役に於て戰死したる本縣出身者の像あり。

臨濟寺は市の近在安東村大岩にあり、禪宗を奉ず。家康幼時今川氏に質たるの時此寺に起居し、史書兵學を修む。寺境今川氏輝、同義元等の墳墓あり。偉人山田長政は當市の人なり。其十三世の末今なほ儼として靜岡市馬場町にあり、山田元吉と云ひ、世世商賈たり。長政暹羅より贈りたりと云ふ戰艦の圖は災に罹りたるも、其の寫圖今尙淺間神社に存す。

當市の物産としては製茶、漆器、竹細工、羊齒細工、山葵漬等其著しきものなり。

當市は東海の名區にして、茶、漆器の輸出物を出し、東三里には清水開港場を控へ、商工の地として將來大に期すべきものあり。

濱松町。遠江國濱名郡、天龍川の西約二里にあり、人口二萬、町民機敏に商業益盛大に赴く、町民は近在を合せて市制を布かんとせり。

濱松城址は町の北端にあり、始め今川氏に屬したりしが、後に家康の有となる、家康關東に移封せらるゝに際し、豐臣氏之を堀尾吉晴に與ふ、關ヶ原役後復德川氏に歸す、維新に至るまでは井上氏の居城たり。

主なる建築物は郡役所、中學校、商業學校、高等女學校、裁判所、測候所等なり。

神社には五社神社、諏訪神社あり、五社は縣社にして武甕槌神、經津主神、天津兒屋根命、姫大神、太玉命の五神を合祀す、德川家の崇敬淺からず、神領章書等を賜ひ、又屢社殿を修補す、諏訪神社は五社神社と境を接し、健御名方命、八坂刀賣命を合祀す、家康大に此の神を崇敬し、永祿年中社領を寄附す、町民は此の二社の社殿境内を修飾して公園とせり。

鴨江寺は佛閣中の主なるものなり、近在淺羽村鴨江に屬し、當町に隣接す、眞言宗を奉じ、聖觀世音を本尊とし、毎年春秋の彼岸は七日の供養をなし、近郷より集まるもの頗る多し。

日本樂器會社、日本形染會社及び製帽會社は其規模最大にして、其他名物として濱名納豆、曳馬萩筆等あり、又近郷より農産物、繭等を出し、濱松は其集散地なり。

沼津町。駿河國駿東郡にあり、北に愛鷹山を負ひ、南は駿河灣に臨む、狩野川町の東南を流れ、曲流して其海に注ぐ處は即ち沼津港なり、此の地附近の海濱名勝多く、之れが爲めに町内の繁華に貢献する所多大なり、人口一萬三千、郡役所、中學校、商業學校、高等女學校、測候所等は其主なる建築物なり。

千本松原は沼津町に屬する海濱の總稱にして、喬松枝を交へ翠色滴らんとす、其數五千八百餘實に東海の一仙境たり(見渡せばちもとの松の末遠くみどりにつゞく浪の上かな　光行)　牛臥、我入道は沼津停車場を距る西南二十餘町、楊原村に屬す、風景絶佳にして貴顯の別莊頗る多し。　桃郷は楊原村に屬し、牛臥海水浴場を距る東南僅に四町、東宮殿下の御用邸あり。

三島町。伊豆半島の北端にありて、田方郡役所此にあり、箱根山麓に位し、昔より東海道の要路にして、豆相鐵道は起點を此の附近に出す、人口一萬餘、高等女學校あり、三島神社は官幣大社にして事代主神を祀る、此地附近には頼朝、義經に關する古跡多し。

清水港。縣下第一の良港にして、靜岡市の東三里にあり、人口六千餘、開港場にして茶の輸出多し、東南清水灣を距てゝ三保松原を望み、東方遙に雲表に富士山聳え、風光

絕佳なり、尙ほ此地よりは下田通ひの汽船を出す、又石炭は海路此に集り、附近の供給に應せり。

下田港。伊豆半島の南端にあり、人口五千餘、賀茂郡役所あり、嘉永年間米國水師提督ペルリの來航せし地にして、當時開かれたる五港の一なり。

産業及物産

農業。肥沃の地多ければ米、麥の無きにあらざれども、其の最も有名なるは茶なり、茶は駿遠を通じて畑といはず丘陵といはず、苟も茶園ならざるはなく、實に二百萬貫の産ありて、全國第一と稱せらる、又養蠶の業盛にして二百六十萬圓以上を産す、縣下山葵を出すこと多く、一の名産たり、遠江西部にては疊表、茣蓙類を出すこと多く、年額十九萬圓と稱し、將來有望なり、又乾薑百八十四萬貫以上を産す。

工産物。富士裾野及富士川の流域には三椏を栽培すること甚多く、之より製する駿河半紙の産額七十萬圓以上に達す、富士川流域に大宮町あり、富士製紙會社ありて、水力を利用して機械を運轉し、近傍及び他地方産の楮を原料として、盛に洋紙を製す、其の産額年に三百萬圓以上を出し、日本第一たり、又御殿場近傍に富士紡績會社ありて絹糸綿糸の紡績盛にして、綿糸凡そ十七萬圓、絹糸凡そ二百萬圓を製す、靜岡には漆器、竹細工の名産あり、漆器は年に五十萬圓を出す、濱松は樂器の製造業盛なり。

林産。山地は概ね山林にして立木の數非常に多く、殊に富士山麓、天城山の森林は其名高し、又椎茸の産多く、十六萬圓以上の年産あり。

海産。沿海は漁利に富み、且つ東に東京、横濱、西に名古屋の好市場を有せるを以て、漁業盛なり、凡そ三百萬圓以上の産あり、鰹は殊に多く、年に百萬圓以上の漁獲あり、全國第一と稱せらる、伊豆東海岸よりは石花菜(十七萬圓)を産す。

鑛産。伊豆の石材は有名にして、又遠江の銅産は採鑛高四百七十六萬貫に上る、遠江の東部よりは石油を産す。

交通上の事項

鐵道。東海道線。東、神奈川縣より來る東海道線は本縣内に入りて小山驛に至り、之れより富士の東麓の高原地御殿場の邊を過ぎて漸く急坂を南下し、豆相線との連絡地たる三島驛を經て沼津に至る、之れより鐵道は駿河灣の邊りに沿うて西走し、富士川の急流を横ぎりて西南に向ふ、此の邊の沿岸の一帶を田子浦と云ひ、駿海の勝地多きも、此の邊ほど明媚なるものなし、委蛇たる青松白砂と交りて翠色を滴ら

し、蒼海は前に開きて左右幾多の好景を浮べ、顧眄すれば芙蓉の秀嶺天半に聳へ、江山の清趣禿筆の能く寫すべきにあらず。眞に東海の絶勝と云ふべし。此の間に鈴川驛あり、富士南麓の停車場にして、富士登山表口(大宮)に至るもの丶下車するところなり。近く鈴川驛と富士川との殆ど中間加島村字横割に一大停車場設置の計畫ありて、着々工を進めつ丶あり。後は一直線富士製紙會社を經て大宮町に至るの新道も開くべく、只に富士登山者に多大の便益を與ふるのみならず、實に富士郡の産物の輸送に幾多の便益を與ふべく、該地方産業の發展期して待つべし。鐵路は愈、西行す。薩埵峠の隧道を通じて、興津清見寺畔を過ぐ。茲に來る途中又前に渺茫たる蒼海を開き、富士の愛鷹、伊豆の群山、由比の白砂、三保の青松等歴々として左右指顧の中にあり。四季の眺めを具へ、東海道屈指の勝地たり。夫れより開港場清水の近傍江尻を過ぎりて、久能山を南方に眺め、縣下第一の靜岡市に至る。夫れより安倍川を渡りて、大崩の隧道を通じて大井川を越え、金谷の稍長き隧道をくぐりて堀ノ内驛を過ぎり、一望平坦たる天龍川の流域を西行して濱松に至る。夫れより湖上の風光を以て名ある濱名湖畔舞坂に至り、辨天島を通じ、湖口今切を横貫して尚ほも西行、遂に愛知縣の境に入る。其の間實に二〇四・二哩にして今や複線は過半成れり。

豆相線。　沼津の東方三島驛を起點として、伊豆第一の三島町に至り、夫れより狩野川平野を走りて、源氏其他の歴史上名所古跡に富める韮山近傍を通じ、大仁驛に至りて終る。其間一〇・五一哩(大仁より一里弱修善寺温泉に至る道路あり)

道路。　東海道。　神奈川縣より箱根八里の峻坂を越えて來れる東海道は三島町に至りて、道跡多き地方を過ぎて沼津に至る。此處より東海道線と殆んど並進して鈴川驛に至る。途中浮島沼に寫す富士の姿など得も云はれぬ眺めあり。之れより急に北折して富士郡第一の吉原町に至る。富士登山者の鈴川驛に下車せるは此の道によりて吉原に至り、新道によりて大宮に至るを常とす。(鈴川大宮間鐵道馬車あり)東海道の道路は吉原より急に南折し又西折して、富士川の急流を渡る。富士川は時々架橋すと雖、一旦霖雨あれば河水汎溢以て橋梁を流失するを以て、多く渡舟の不便を免る可からず。之れより海に川に野に山に自然壯大の景に富める駿河灣沿岸地を、東海道鐵道線と并行して靜岡に至る。此處より鐵道より稍北方を西行して小坂路あり、此處ぞ宇津谷峠にして、今は新隧道開けて坂路を上下するに及ばず。彼の蔦の細道と云ふは今尚ほ隧道の東方にあり。之れより島田を經て大井川を越え、金谷より又坂路となる。即ち日坂にして小夜の中山も此の邊なり。菊川は南方に細く淸らか

に見るを得べし。夫れより袋井、掛川等の驛々を通じて、天龍川を過ぎり濱松に至る。夫れより舞坂に至り、今切を渡りて白須賀町などを經て愛知縣の境に入る。其里程四十七里四十七間、道幅は三間乃至四間なり。

下田街道。　三島町三島より大場を經て大仁に至り、之れより山間に開ける、新道を通じ、天城山の隧道を通じて、遂に下田港に至るものにして、其間十六里六町五十六間あり。

水路。　富士川。　甲斐國鰍澤より駿河國岩淵（停車場あり）に至る十八里舟筏を通ずべく、此の舟は只に甲駿の産物輸送に便せるのみならず、甲駿旅行者の便とせる一方ならず、十八里を下る僅か半日にて岩淵に達す。然れども激浪の爲に舟を覆し、暗礁時に舟を嚙み、其の危險又云ふべからず。今は岩淵より川筋に沿ひて新道開通せし爲めに幾分の影響を蒙れり。

大井川。　志太郡東川根村藤川より同郡吉永村飯淵に至る十六里の間舟筏を通ず。然れども水量あまり多からざることゝて舟筏の上下に便ならず。

天龍川。　通船里程は二十五里十八町、水上は周智郡奥山村奥領家より、水下は掛塚港に至る。北遠の大富源たる木材、王子製紙株式會社の西洋紙、佐久間鑛山の銅鑛等一に此の川筋によりて輸送せらる。集散地は西遠の東端たる中ノ町と天龍川驛の停車場掛塚港なり。

清水港よりの海運。　清水より汽船にて沼津及伊豆西海岸松崎地方に至る。玆より下田港及東海岸の港に通ずるを得べく、尙ほも遠きは神戸、横濱或は外國との汽船の往復ありて、靜岡其他より鐵道によりて江尻停車場に輸し、夫れより清水に至りて各地に輸送せらる。而も近時靜岡と該地との交通機關も次第に發達しつゝあれば益、有望の地とならん。

神社佛閣名勝舊跡等

東照宮（久能山）。　東照宮は靜岡市の南方三里許なる久能山（武田信玄始めて城を構へし處にて勘介井戸あり、天正以降德川氏の有となれり。）の頂上に祭れる社にして、元和二年四月十七日家康駿府城に薨せられ、神骸を久能城本丸の址に安ず。二世將軍秀忠神殿を造營す。正保二年十一月三日東照宮の宣下あり。後明治二十一年五月五日別格官幣社に列せられ、毎年四月十七日（大祭）、陰曆正月十七日陽曆十月十七日（中祭）、連月十七日（小祭）を以て祭辰とす。山麓社標より社頭迄千數十級の石磴を通す。此程凡八町、曲折二十有餘。拜殿、本宮結構輪奐の美を盡し、燦然として人目を奪ふ。

三島神社。伊豆國三島町の東端にありて事代主神を祀る。明治四年五月十四日官幣大社に列せらる。每歳八月十六日大祭を行ふ。此日は奉幣使の參向ありて、典禮甚だ嚴肅なり。

井伊谷宮。遠江國井伊谷村井伊谷にあり。宗良親王(後醍醐帝の皇子)の威靈を祀り、明治六年六月九日官幣中社に列す。社頭自ら莊嚴なり。每年九月二十二日にはいと鄭重なる祭典を擧ぐ。

淺間神社。駿河國靜岡市の北隅賤機山の南麓にあり。國幣小社にして神部神社(大己貴命を祀る)淺間神社(延喜年中大宮淺間神社より分祀し木花咲耶姫命を祀る)、大歳御祖神社(大歳御祖神を祀る)の三社あり。結構壯麗を極め輪奐の美を盡す。拜殿は三層の高閣にして長廊を廻らす。每年三月三日大祭を行ふ。又二十日會といひて每年四月一日より向ふ五日間を以て行ふ。境內櫻樹多く路滑にして青苔を留む。泉池には細鱗を跳す。春風駘蕩の候に至りては、雅人騷客相集まりて紅霞靉靆たるを賞し、園內頗る賑し。又丘上に至れば山水の風光双眸に映じ、絕勝言ふばかりなし。

淺間神社。富士郡大宮町にあり。官幣大社にして木花咲耶姫命を祀り、又瓊々杵命、大山祇命を合祀す。神代以來富士山頂に鎭座せしを、垂仁天皇の三年富士山麓の山宮村に社殿を建て、平城天皇大同三年坂上田村麿勅を奉じて此に遷座すと云ふ。歷代の崇敬篤く、殊に後醍醐帝に至り綸旨を降し社領を賜ふこと二回、北條、足利、武田の諸豪亦武器、神田等を寄附す。慶長九年家康神領千二百石を附し、大に社殿を造營したり。寬永四年山火にかゝり其半を燒失す。什寶頗る多く、後醍醐帝の綸旨の如きは其著しきものなり。

田子浦。駿河の沿岸三保の入江より浮島ヶ原傳ひの浦をおしなべて田子浦と稱す。此の地青松白砂と交りて翠色を滴らし、蒼海は前に開きて左右幾多の好景を浮べ、顧眄すれば芙蓉の秀嶺半天に聳へ、江山の淸趣禿筆の能く寫すべきにあらず。眞に東海の絕勝と謂つべし。

三保ノ松原。三保ノ松原は又の名を三穗、御穗、風早とも云ひ、長さ一里餘、古來東海の勝地として其名芙蓉の秀嶺と共に高く、幾多の老松枝を交へて白砂と連り、翠色濃にして宛も美人亂舞の俤あり。羽衣松は松原の南濱にあり、幹の高さ九丈周圍一丈。樹下一碑あり。字面崩碎僅かに羽衣松の數字あるのみ。

富士ノ裾野。富士山麓一帶の地にして、建久四年五月源賴朝此地に狩を催し大に武威を張りし所、又此時曾我兄弟が工藤祐經を討ちて、父の仇を報ひしを以て有名な

り。

(注意) 賴朝が狩を行ひしは裾野の一部御殿場附近なり。

清見寺。駿河國興津町字清見寺町の丘上にあり。其創建天武帝の昔にあり。禪宗にして開聖禪師の開基に係る。境内美觀を極め、境外の眺め亦た佳なり。

韮山城址。豆州韮山村にあり。延德三年伊勢長氏、政知の子茶々丸を堀越御所に殺し、本城に據りて豆州を定め、永正十六年此の地に卒す。蛭小島の舊蹟この近傍にあり。今此の地に中學校あり。

熱海温泉。熱海温泉は伊豆國熱海町の域内にあり。湯數すべて二十有餘ありて、海岸田圃到る所泉脈あり。僅かに深くこれを穿てば倏忽にして湧出するに至る。湧出の形狀は各泉大抵同一にして、或は砂層より噴き、或は岩石罅隙より迸るを常態とす。然れども獨り大湯は全く其狀異にして頗る奇なり。其泉窟は本町の上手西側にあり、晝夜湧出すること三次に及ぶ。然れども時に長湧することあり。其時間は概ね十二時間なりと云ふ。温泉の性質は淸淨にして透明臭氣なく、鹽類泉にして、其温度の最も高きものは華氏二百九度(大湯)、最も低きものも華氏百三十一度を降らずと云ふ。

修善寺温泉。修善寺温泉は伊豆國修善寺にあり、熱海温泉と共に其名高し。此地温泉を出すこと十有五、泉質皆鹽類泉にして皮膚病、僂麻質斯、神經病等の諸患者に適す。温度華氏百十四度より百八十五度の間にあり。此の地歷史上有名なり。

濱名湖。(第一項參照)

方廣寺。引佐郡奥山村奥山にあり。釋迦如來を本尊となす。三百餘の末寺を統る禪宗濟家一方の本山なり。二十八宇の堂塔伽藍あり。就中籠堂は三層の樓閣にして頗る壯麗を極む。後醍醐帝の皇子滿良親王聖鑑國師の開山にかゝる。境内に半僧坊あり。信徒遠近より群集す。

靜岡縣(二)

(靜岡縣女子師範學校報告)

山川岬角海灣等自然地理上の事項

伊豆半島。富士火山脈通ず。其中央に天城山あり。熱海、伊東、修善寺其他各所に温泉湧出す。沿岸風景に富む。殊に西岸に多し。

駿河灣。灣内水深く波靜かにして魚族亦多し。其沿岸には景色よきところ多し。

富士山。高さ一萬二千四百七十七尺あり。形白扇を倒にしたる如くにて、四時殆ど雪を

戴く。頂上に周圍一里許の舊噴火口あり。登山口五つあり(大宮口(表口)須山口(南口)須走口(東口)東表口(新道御殿場口より登る)吉田口(甲州より登る北口))。近年登山するもの頗る多く、山開きは七月中旬、山閉は九月上旬なり。山麓は富士裾野と稱し、廣き平野にして多く三椏を植う。

天城山。 山中森林欝蒼、木材を産す。山中の一部御料林たり。山中より山葵を産す。

濱名湖。 水淸く魚族棲みて、湖岸風景佳なり。此湖古淡水湖なりしが、明應八年海嘯のため湖水を通ずるに至り、其湖口百間計りを今切と云ふ。

天龍川。 長さ五十六里、河口の掛塚港より上流二十五里の間船を通じ、材木其他の運搬に便なり。

富士川。 長さ三十五里、甲斐の鰍澤と岩淵との間に日々通船あり。

大井川。 長さ四十六里、灌漑に便す。

御前崎。 燈臺あり、煉瓦石造、圓形第一等旋轉白色にして、光達距離十九海里。

石廊崎。 燈臺あり、木造八角形第五等不動赤色にして、光達距離十海里。其東南神子元島にも燈臺あり。

遠江灘。

都邑

静岡市。 人口約五萬。舊駿府城址にて今は歩兵第三十四聯隊の屯營あり。此附近に静岡縣廳、宮内省御用邸、其他諸官衙、諸學校あり。漆器、竹細工は市の名産なり。國幣小社淺間神社は市の北方にあり。境内廣く、樹木欝蒼として晝なほ暗し。社殿廊廓輪奐宏壯を極め、古名工の苦心を止む。四時の遊覧者常に絶えず。臨濟寺も亦市の北方にありて、徳川家康の幼時學べるところなり。其側に今川義元の墓あり。

清水港。 縣下第一の良港にして開港たり。三保ノ松原東南に斗出して港内廣し。近年米國へ再製茶直輸出(年額凡二百五十萬斤)を開始す。

濱松町。 縣下第二の都會にして、人口約二萬、縣下第一の商工業地たり。樂器會社は全國第一にして、其他製帽會社、形染工場等あり。

沼津町。 縣下第三の都會にして、伊豆西海岸物資供給場なり。其東南桃郷に宮内省御用邸あり。此近邊は景色佳なるを以て、貴顯の別莊多く、我入道、牛臥等其名殊に高し。

熱海町。 伊豆第一の温泉場にして間歇泉あり。風景よろしく浴客多し。

下田港。 伊豆半島第一の良港にして沿岸交通の中心たり。嘉永年間米國軍艦始めて我國に來りしとき、薪水糧食を給することを許しし所なり。

小山。 瓦斯紡績會社あり、水力電氣を利用し産額頗る多し。

御殿場。富士登山口として世に知らる。

大宮町。富士登山口(表口)にして淺間神社あり、官幣大社に列す。其近傍に製紙會社あり。

三島町。三島神社あり、官幣大社に列す。豆相線通せり。

修善寺。温泉場としてあらはる。土地幽邃閑雅にして浴客多し。

伊東町。修善寺に次ぐ温泉場たり。大島交通の便あり。

産業及物産

紙。富士裾野に植ゑたる三椏は日本紙に製せらる。所謂駿河半紙とて名高し。富士製紙會社は近年水力を利用し、機械を据ゑつけて、盛に西洋紙を製造す。産額日本紙約七十萬圓、西洋紙約三百五十萬圓。

茶。主に靜岡濱松間の地方に栽培せられ、殊に牧ノ原の茶園は名高し。産額約二百萬貫にして其價額約四百餘萬圓に達し、全國第一なり。輸出にかゝるものは近來多く清水港に集まる。

海産物。多く伊豆沿岸より産し、鰹節最も多く、其他石花菜、鰑等あり。産額約二百九十餘萬圓。

漆器。靜岡市の産にして其製造巧なり。産額約六十餘萬圓。

竹細工。靜岡市の産にして其産出多からざるも、製造巧妙なるを以て名あり。

疊表。濱名湖畔より産する藺を以て製造す。産額約二十萬圓。

樂器。樂器製造會社は濱松にあり。我國に於ける樂器製造の嚆矢にして、全國第一なり。産額約十一萬餘圓。

紡績糸。主に富士紡績會社より産出せらるゝものにして、彼の鐘ヶ淵紡績會社に次ぐ。産額(絹綿糸合計)約七十九萬貫目。

銅。(黄銅鑛)天龍川の上流佐久間村より出づ。將來有望のものならん。現今多くは鑛石の儘他に搬出す。

神社佛閣名勝舊跡等

久能山東照宮。靜岡の東久能山にあり。德川家康公を祀る。別格官幣社に列す。懸崖數十丈の高きに建てられ、宮殿の建築壯麗にして、前面一帶駿河灣を眺め風景佳なり。

淺間神社。(靜岡市の條に出づ)。

井伊谷宮。濱松の西北方にありて、後醍醐天皇の皇子宗良親王の威靈を祀る。官幣中社に列す。

可睡齋。 袋井驛の北方約一里の處にあり。境內幽邃、堂宇壯嚴にして、參詣者多し。

方廣寺。 濱名湖の北方約四里の地にありて、後醍醐天皇の皇子聖鑑國師の開基なり。其支堂半僧坊は名高し。

三保ノ松原。 清水港の東南に斗出せる一條の砂地にして、幾多の青松白砂と映ず。南は渺々たる蒼海を隔てゝ、遙に伊豆の翠巒を望むべく、北は近く清見寺、清見潟、薩陀峠の諸勝を瞰き、又遠く富士を望むべく、海岳の風光雙眸の中にあり。古來東海の勝地として富嶽と並び稱せらる。

田子ノ浦。 駿海の一勝地にして、芙蓉の秀嶺其影を寫し、委蛇たる青松白砂と交りて、景色絕佳なり。

清見潟。 三保と相對せる一勝地にして、名高き清見寺あり。清見寺は前面渺々たる蒼海を望み、三保の青松は近く脚下に迫り、實に明媚の風光なり。

舞坂の辨天島。 濱名湖口に近き勝域辨天島は廣からずと雖も、翠松相交り濱名湖一望の中に入り、夏季の清遊地として極めて良好なり。

蛭ヶ小島。 三島町の南にありて、源賴朝の流されし所なり。

韮山城址。 蛭ヶ小島の南にありて、北條早雲の起りし所なり。

堀越。 堀越御所のありし所なり。

草薙神社。 靜岡の東約一里半の所にあり。日本武尊を祀り、縣社に列す。

三方ヶ原。 濱松町の西北方一帶の廣野にして、德川氏と武田氏と戰ひし所なり。

交通

東海道線、豆相線(沼津町の東三島にて東海道鐵道より分れ大仁(オホヒト)に至る)。

東京灣汽船會社(同汽船によりて東京、伊豆沿岸、沼津、淸水等に日々の交通行はる)。

山梨縣

(山梨縣師範學校報告)

山川岬角海灣等自然地理上の事項

富士山麓の湖水の成因の說明。

笹子(サヽゴ)隧道。 笹子隧道は延長一萬五千二百四十六呎、明治二十九年六月實測に着手し、同年十二月九日工を起し、明治三十五年七月六日導坑無事に貫通し、日ならずして竣工せり。これが工事は六年十ヶ月を要し、工費總概算二百二十一萬圓、一呎の費額百三十圓に當れり。而して汽車のこの隧道を經過するには約八九分を要し、日本第

一の大隧道なり。

産業及物産

製絲業盛にして蠶絲の産額多きこと。　明治三十七年の本縣統計によれば製絲工場九十七、工女七千九百三人、器械取製絲戸數百二戸、座繰製絲戸數壹萬六百六十六戸にして、蠶絲の産額約十萬四千二百二貫、その價額五百五十六萬二千七百七十八圓を示せり。明治三十五年全國の統計の示す所によれば、本縣の産額は總計十五萬七千二百二十七貫なり。之れを人口及面積に割り當つれば、一人に付二百九十二匁、一方里約五百四十二貫百六十二匁となる。而して群馬縣の人口一人に付三百九十匁、面積一方里に付八百二十八貫九百六十七匁の産額を全國の首位とし、長野縣の一人三百七十三匁、一方里五百七十七貫三百匁を次位とすれば、本縣は實にその第三位を占む。殊に戰後實業奬勵の結果、各工場共資金を增し、甲府市草薙社の如きは工女千二百人を用ふるに至れり。以上の狀況なるを以て、本縣の産業としては郡內の織物と共に本業を特筆すべきことなりと信ず。

水晶の産地及其の細工。　水晶は甲府市の北方金峰山、東山梨郡竹森山等より産す。水晶細工品は本縣の特産にして近年細工の技術大に發達し、材料を全國に資り、その

精巧なること本邦他にその比を見ず。明治三十六年の統計によれば製造戸數八十八戸、職工三百二十五人、價額九萬五千五十四圓なり。重石は水晶坑副産物にして産額少きも、本邦に於ては他に有名の産地を見ざるが故に本縣の特産なり。

葡萄及葡萄酒。　勝沼地方の葡萄は産額多きのみならず、本縣葡萄中品質最も美なり。葡萄酒は本縣の特産にして現今釀造額三千石、其價額十二萬圓なり。

交通上の事項

中央東線縣內を全通するに至りしこと。

鐵道開通後富士川の水運業衰へしこと。　本縣出入貨物は古來多くは富士川の水運によりしが、明治三十六年鐵道開通してより俄に其業を失ひ、以來漸く衰運に傾けり。これ文明の利器たる交通機關の完全に進むに從ひ、自然のまゝの水利の如きは漸く衰ふべき理を知らしむるに足らん。

神社佛閣名勝舊跡等

御嶽(ミタケ)の勝地。　荒川の溪流曲谷の間を奔る所、兩岸の山水岩石變化極りなきもの二里、春の花、秋の紅葉其の間を點綴して景色甚だ美なり。特に覺圓峰の天半に聳立せる壯觀と仙娥瀧の幽谷に懸れる幽邃とは溪中の粹なり。近年探勝するもの頓に增加

し、耶馬溪以上なりと評するに至れり。

精進湖の風景。湖畔は森林にして東部に奇礁多く、其水清洌にして樹木茂り、風光絶佳なり。避暑に適す。近年外人の來遊するもの多し。

酒折宮、武田古城址、天目山。

以上各項外の重要なる事項

桂川の水力を利用して起したる電氣を東京市の電燈に供する計畫。東京電燈會社の經營にして、明治三十九年一月起工し、谷村町の北にて新水路を開鑿し、大月驛と猿橋驛との中間にて大落差を作り、こゝに機械を据ゑ付けて發電せしめ、その電力は無慮二萬四千馬力設備費七百萬圓、竣工期は明治四十年六七月頃の豫定なりといふ。かかる大計畫を以て五十哩の遠きに送電する水力電氣事業は本邦に於て唯一なるのみならず、東洋に始めて見る所なり。

武田信玄の出生地なること。

挿畫

御嶽の勝地中の仙娥瀧の寫眞。

愛知縣(一)

(愛知縣第一師範學校報告)

山川岬角海灣等自然地理上の事項

山。段戸山、鳳來寺山(塊狀火山)。

川。木曾川、矢矧川、豐川。

半島。渥美半島、知多半島。

岬角、伊良湖崎(試砲場あり)。

海灣。三河灣、伊勢海。

平野。濃尾平野。

都邑

名古屋市。人口三十萬、交通の便はなはだよし。縣廳、第三師團司令部等あり。名古屋城の天守閣は金の鯱を以て有名なり。市の產物には織物、陶器、マッチ、七寶燒、扇等あり。

豐橋市。近く市となり益々繁盛に向ふ。第十七旅團司令部あり。

熱田町。熱田神宮あり、草薙劍をまつる。熱田築港は目下工事中なり。

(注意)熱田は明治四十年六月より名古屋市に合併す。名古屋市の人口は明治四十年七月の調査によ

り三十五萬餘あり。熱田築港は近時竣工せり。

瀬戸町。陶器を産すること多し。

武豐町。開港場にして鐵道の便あり。

一宮町。此地方は全國屈指の機業地にして、多く絹綿交織を産す。

岡崎町。德川家康の居城たりし岡崎城址は公園となれり。

產業及物產

農業。米、麥。

工業。織物、陶器、七寶燒、酒、酢、醬油、マッチ、時計。

水產業。魚、鹽。

商業。外國貿易品中名古屋より輸出するものは陶器、織物、時計、扇、武豐より輸出するものは麥酒、酒、酢、醬油、武豐より輸入するものは糸、薪炭等。內地商業上名古屋、豐橋は盛なる商業地なり。一宮には月に六回の市あり。

交通上の事項

鐵道。東海道線、關西線、中央線、武豐線、尾西線、豐川線。

汽船。熱田には大坂商船會社の支店あり、龜崎には衣ヶ浦汽船會社あり、共に近海を航廻す。別に東京半田間を往復する汽船あり。

神社佛閣名勝舊跡等

神社。熱田神宮、豐川吒枳尼天。

古戰場。桶狹間。

備考

名古屋の產物中陶器は第二位にあれど、實は原製を瀬戸に仰ぎ、市にては之を仕上ぐるのみなり。

愛知縣（二）

（愛知縣第二師範學校報告）

山川岬角海灣等自然地理上の事項

木曾川。舟楫灌漑（木津用水、宮田用水）の便。

矢作川（ヤハギ）。灌漑の便（明治用水、枝下（シダ）用水）。

豐川。木材の運搬、灌漑の便（松原用水、牟呂用水）。

渥美半島、伊良湖（イラゴ）崎、知多半島、師（モロ）崎、三河灣、濃尾平野沖積土、土地肥沃、水利の便、穀物、蔬菜。

都邑

名古屋市。位置、交通の便、商工業の盛大（織物、漆器、七寶燒、扇）、縣廳所在地、第三師團司令部、名古屋離宮。

豐橋市。位置、第十七旅團司令部、製糸業。

武豐港。良港、交通の便備はる、開港場。

熱田港。熱田神宮、航路、魚類集散地、築港工事。

（注意）八六頁（注意）參照

岡崎町。德川氏創業地、花崗岩。

産業及物産

農工商業。米、麥（尾張平野）、繭（山地）、綿織物（平地）、生糸（豐橋地方）、綿糸（名古屋地方、知多半島）、陶磁器（瀨戸地方）、酒及酢（知多半島）。

交通上の事項

東海道線、武豐線、豐川線、關西線、尾西線、中央線。

神社佛閣名勝舊跡等

熱田神宮（熱田、草薙劒）、名古屋城（名古屋、金鯱、離宮）、妙嚴寺（豐川町、吒枳尼天安置通俗豐川稻荷の稱）、古戰場（桶狹間、長篠、長久手）。

挿畫

名古屋城、熱田神宮。

岐阜縣

（岐阜縣師範學校報告）

山川岬角海灣等自然地理上の事項

飛驒山地の高峻なる例、分水嶺の説明、平野地方殊に其南部地方の低窪にして水害多きこと及三川分流の説明。

都邑

岐阜市。縮緬、提灯、傘の産。

大垣町。

高山町。生絲、漆器の産。

多治見町。陶器の産。

産業及物産

農業。

岐阜縣

製紙。美濃の北部。
窯業。美濃の東部殊に土岐郡。
林業。美濃の東部、飛驒。
養蠶及製絲。東部及北部。
織物業。南部。
鑛業。銀、銅、鉛。(飛驒)
製茶。美濃の北部。

交通上の事項

鐵道の便を受くること少きこと。岐阜關ヶ原間十七哩餘、多治見中津間二十七哩餘。
河川交通の便少きこと。

神社佛閣名勝舊跡等

養老瀑、關ヶ原古戰場、長良川の鵜飼、南宮神社(祭神は金山彥ノ命、社格は國幣中社なり)、不破關址。

長野縣 (一)

(長野縣師範學校報告)

山川岬角海灣等自然地理上の事項

山。北部に戸隱山、東境に白根山及淺間山(共に活火山)、碓氷峠、東南境に八岳、赤石山、西南部に駒岳、西境に御岳、乘鞍岳、白馬岳(大蓮華岳)。
川。千曲川、犀川、木曾川、天龍川。
湖。諏訪湖、野尻湖、青木湖、木崎湖、中綱湖、松原湖。
瀑布。米子ノ瀧(上高井郡須坂近傍)、喊滿瀧(下高井郡平穩村)。

都邑

長野市、松本市、上田町、飯田町、上諏訪町、伊那町、小諸町、松代町、飯山町、中野町、須坂町、大町、福島町。

産業及物産

産業。製糸業(諏訪地方、須坂地方、松代地方)、養蠶(縣下一般)、農業(縣下一般)、織物業(小縣地方、埴科地方)、林業(木曾地方、其他)、牧畜(佐久地方、木曾地方)、塗物業(飯山地方、飯田地方、木曾地方)、養魚(南佐久地方、埴科地方)。

物産。生糸(諏訪地方、須坂地方、松代地方)、繭(縣下一般)、蠶卵紙(松本平地方、小縣地方、其他)、上田縞(小縣地方)、斜子織(埴科地方)、紙(善光寺平地方、其他)、木材(木曾地方、其他)、馬(佐久地方、木曾地方)、寒天(諏訪地方)、氷豆腐(諏訪地方)、漆器(飯山地方、飯田地方、木曾地方)、鯉(南佐久地方、埴科地方)、蕎麥(上水內地方)。

交通上の事項

鐵道。信越線、中央東線。

水運。天龍川、千曲川、犀川、木曾川。

神社佛閣名勝舊跡等

神社。諏訪神社(官幣中社、健御名方命を祀る)、戸隱神社(國幣小社、手力雄命を祀る)。

佛閣。善光寺(長野市に在り、欽明天皇の朝百濟より獻せし佛像を安置せる所)、國分寺(小縣郡神川村に在り、聖武天皇天平中の建立にして今尚古塔を存す)。

碓氷峠。日本武尊東征の歸路東望して、弟橘姫を追懷したまひしとの傳說ある舊跡なり。麓なる輕井澤は現今內外人の避暑地として著はる。アプト式鐵道あり。

姨捨山。大和物語に其の名の出でし以來、童話の材料として名高し。觀月の勝地なり。

諏訪湖。冬季氷滑をなすべく、夏時短艇を浮ばすべく、風景また絶佳にして加ふるに此近傍温泉の湧出するあり。

天龍峽。天龍の兩岸絶壁相迫り奇巖屹立して風景愛すべし。

川中島古戰場。千曲川、犀川兩川の間にはさまるゝの地、甲越兩雄の古戰場なり。近傍に茶臼山、妻女山等兩將陣地の場所あり。

木曾谷。文武天皇の朝開通せられたる古道にして、木曾の棧道、寢覺ノ床、源義仲の城址、關所の址あり。現時御料林あり。良材を產す。此地また良馬を產す。

園原。木曾路開通以前の古道の跡にして、伏屋、帚木、木賊は萬葉の歌にも入りて有名なり。

浪合。南北朝の頃尹良親王の薨じたまひし地なり。

大河原。南北朝の頃宗良親王の義兵を擧げられし地なり。

海津城址。甲斐の將山本晴幸の築城として名高し。維新前眞田氏の居城。

松本城址。現時天守閣を存す。維新前戸田氏の居城。

上田城址。關原の戰に當り眞田昌幸父子此城に於て德川秀忠の大軍に抗せしを以て名あり。維新前松平氏の居城。

高遠城址。天正の頃に仁科信盛が織田信忠の爲に圍まれ、勇戰して死せし所なり。維

新前内藤氏の居城。

以上各項の外重要なる事項

分水嶺。　本州中央の大縣にして土地高く、表裏日本の分水嶺の位置を占む。

温泉。　本縣は火山脈の集まれる所なるを以て、温泉甚だ多し。其中の有名なるものを擧ぐれば、平穏温泉、淺間温泉、別所温泉、上諏訪温泉。

水力利用。　本縣は山地なるを以て瀑布急流多く、隨て水力の利用せられたること多し(長野、松本等六七の都會は水力を利用して電燈を點ず)。水運(木曾川は材木を流し、四大川は通船の便あり)。水車(水力を利用して製糸工場の機械を運轉し、或は米麥を搗くこと頗る多し)。

氣候。　極寒華氏二十度に降り、北部地方は積雪五六尺に至る所あり。極暑同九十四度に至ることあり。土地高きが故に空氣概乾燥す。

人物。　眞田昌幸父子、佐久間象山、太宰春臺、田中平八(飯田地方の人にして、有名なる商業家)。

備考

産業及物産の項中、産業として住民の關係する事多きものは之を擧げたるも、國内住民の需要を充たすに足るだけのものは物産の項には之を擧げず。また住民の關係する戸數、人數、産額等比較的少きも、本縣の特産として全國に名高きものは物産の項に掲げたり。

長野縣 (二)

(長野縣松本女子師範學校報告)

山川岬角海灣等自然地理上の事項

御嶽、淺間山、碓氷峠、乘鞍嶽、八ヶ嶽、赤石山、戸隠山。　千曲川、犀川、天龍川、木曾川、諏訪湖。

善光寺平、松本平、佐久平、諏訪平、木曾谷、伊那谷。

都邑

長野市、松本市、上田町、飯田町、上諏訪町。

産業及物産

製絲業、養蠶業、農業。　生絲、繭、蠶卵紙、材木、羽二重、上田縞、寒天、美篶細工、米、麥等。

交通上の事項

信越線、中央東線、中央西線(未設)。　中仙道。　千曲川及天龍川の舟運。

神社、佛閣名勝舊跡等

善光寺、諏訪神社、戸隱神社、川中島、姨捨山、寢覺の床、

以上各項の外重要なる事項

製絲業地。岡谷（諏訪）、須坂町、松代町（共に善光寺平）。木曾の山林（御料局木曾支廳をおく）。牧畜（佐久平には陸軍種馬所をおく）。温泉に富む（二十餘ヶ所）。

挿畫

諏訪郡平野村岡谷製糸業地の光景。

新潟縣（一）

（新潟縣新潟師範學校報告）

山川岬角海灣等自然地理上の事項

越後平野の概況と其豐饒。　越後は北部海岸地を除く外は山嶽三方に起伏し、東部には飯豐、南部には苗場、西部には妙高等の諸峰屹立して諸山脈を形成し、又寒風火山脈に屬する彌彦山、米山などは中部日本海岸に聳えて山勢秀麗なり。越後山脈と寒風火山脈との間を長蛇の如く北流するを信濃川といひ、其東に流るゝを阿賀川といふ。此流域は所謂廣漠平坦の越後平野にして長さ四十里に亘る。平野一帶は農耕に適し、米を産すること多く、近年耕地の整理と共に著く其額を増し、全縣の産額（約三百萬石）の三分の二以上は此平野より出づるものなり。

信濃川と其利便。　信濃川は源を長野縣に發し、千曲、犀川の二流を合せて東北に流れ、更に幾多の支流（所謂八千八水）と合し、北流して新潟港に注ぐ。長さ九十三里、幅濶き所八町餘ありと云ふ。かゝる長流なるを以て交通上灌漑上、多大の利益を與ふるのみならず、其河口及上流よりは多くの鮭を産す。又小千谷地方にては此水力を利用して電氣を起し、現に工業上に應用しつゝあり。然れども一朝洪水氾濫するときは田畑を流失し、人畜を害すること亦少しとせず。

海岸の狀況。　北部海府浦、中部彌彦山麓、米山の岬端、西部親不知海岸は何れも斷崖絶壁の地なれども、其他は悉く砂地の海濱にして遠淺の所多く、概して海岸の出入に乏し。佐渡は西方眞野灣を抱き東方兩津灣を控へ、其嶋形恰も分銅の如し。又海底深き處多く夷港、二見港など是なり。

都邑

新潟市。　信濃川口左岸にあり。人口六萬に近く、新潟縣廳の所在地にして、信濃川に於ける汽船の往復を始とし、直江津、夷、瀬波等と定期航海ありて商業盛なり。溝渠市の

縱横に通じ、水陸共に交通に便なるを以て、旅客、貨物共に輻輳す。然れども港口淺く風波を避くること能はざれば、一旦天候變ずるときは、船舶悉く佐渡夷港に避難せざるべからず。産物には漆器最も名高く、其額六萬餘圓に達す。

新發田町。新潟の東方七里にあり。人口二萬餘、第十五旅團司令部及歩兵第十六聯隊の兵營あり。商業亦盛なり。

長岡市。縣の中部信濃川の右、新潟を距る西南約十七里にあり。越後の中央市場及鐵道北越線の中央點に位し、地方産物の集散地として、商業日に月に隆盛に赴き、將來益、有望の地なり。人口三萬餘、附近には石油の産出夥し。當地の富源は實に之を以て最とす。

小千谷町及十日町。小千谷町は長岡の東南五里に、十日町は小千谷の西南六里餘にあり。共に縮布、透綾の産を以て著る。

直江津町。本縣西部の都會にして、日本海に臨み、信越北越兩鐵道線の連絡地なり。又越後、越中の分岐に中る國道の要衝なるのみならず、新潟、夷、伏木等にいたる定期航海船、其他の寄航頗る多きを以て、旅客の出入、物貨の集散甚だ繁く、將來益、有望の商業地なり。人口壹萬餘、春日(カスガ)山は直江津の西一里許にあり、上杉謙信の城址として其名夙にあらはる。

高田町。直江津の西南三里にあり。本縣西部の首邑なり。年々冬季に至れば、積雪丈餘に達し、道路全く杜絕するを以て、屋上落下道を開いて漸く往來する等、到底他の想像し得ざる不便あり。舊時は北越第一の大藩榊原氏の城下なりき。附近は葡萄の栽培盛にして、就中川上善兵衛氏所有の岩ノ原葡萄園は其規模の大なる實に全國に最たるものにして、其釀造にかゝる菊水葡萄酒の額も亦頗る多し。

夷港。佐渡島の東岸深く灣入せる所に位す。縣下第一の良港にして開港場たり。新潟を距ること海上三十二浬、四時間餘にして達するを得べく、船舶の出入極めて多し。相川町は佐渡の西部に位し、人口壹萬餘、鑛山のため大に賑ふ。金北山は相川の東北にあり、金鑛の産出を以て其名著る。採掘の規模宏大にして、其産額亦頗る多し。

産業及物産

産業の發達。本縣は廣漠たる平野を有するを以て農業に從事するもの最も多く(百萬人)、これに次ぐは商業、工業なりとす。工業は近時著しく發達し、特に石油、鑛山、機械業などは尤も盛なりとす。鑛山の著名なるものは佐渡相川の金鑛を始とし、赤谷の鐵鑛、草倉の銅鑛等之に次ぐ。又石油採掘の業は本縣産業中特筆大書すべきものに

して、長岡附近を始め柏崎、直江津の附近及び新津地方等亦產地として著れ、其鑛區極めて廣し。而してこれ等採掘製油の業に從事する會社、工場等實に數百を以て數ふるに至る。猶これ等實業に關する學校としては新潟商業學校、髙田農學校の外、新に加茂農林學校、村松工業學校、中魚沼染織學校及數多の各實業補習學校の設あり。漁業は佐渡、越後沿岸地方住民の專業にして、水產製造事業も近年盛に奬勵せられたる結果著しく其發達を見るに至れり。

物產。　米(二六六萬石)、麥(一三萬石)、大豆(一八萬石)、小豆(三萬石)、粟(二萬石)、稗(一萬石)、黍(六千石)、金(一一六貫目)、銀(八三八貫目)、銅(一二〇萬斤)、石炭(五一八佛噸)、蠶繭(五七〇〇〇石、一九〇萬圓)生糸(三七〇〇〇貫目、一八〇萬圓)、漁獲物(一六〇萬圓)、石油製油(三四萬石)石油原油(一〇六萬石)、織物(二六六萬圓)。(明治三十七年度調)

交通上の事項

鐵道。　信越線は群馬縣高崎市に起り、長野縣を經て直江津に至る。高崎市よりは髙崎線によりて東京に至る。又北越線は直江津に起りて、東北に向ひ長岡に出で殆んど信濃川と並行して新潟市の對岸萬代橋畔の地に達す。又福島縣郡山(コホリヤマ)より同縣喜多(キタ)方(カタ)に達せる岩越線は他日進んで本縣に入り、阿賀川に沿ひて新潟の東南新津に至り、北越鐵道と相交叉せんとす。其他直江津より越中富山へ通ずる鐵道も他日開通すべし。

道路。　國道五號(自新潟市、經彌彥、直江津、至長野縣界。)、八號(自西蒲原郡坂井輪村字平島、經三條、長岡、六日町、至群馬縣界。)、二十一號(自中頸城郡春日村大字木田、經能生、糸魚川、至富山縣界。)の三線を始として、數多の縣道は四通す。然れども本縣西南部地方は冬季降雪丈餘に達し、汽車、人馬の不通を見ることあり。

水運。　信濃川は北越線開通前は越後平野交通の中樞なりしが、今も猶新潟、長岡其他二三地方との間に汽船の往復あり。又本縣は良港極めて乏しく、新潟直江津兩港稍著名なるものなれども、何れも遠淺にして碇船に便ならざるが故に、風波に遇ふときは船舶悉く佐渡夷に難を避くるを常とす。これ等各港(新潟、直江津、夷、瀨波等)の間には定期汽船の往復あり。又近時浦鹽斯德へも直航するものあるに至れり。然れども冬季數月間は風波荒く、殆んど航海する能はざるを以て、其不便決して尠からず。

神社佛閣名勝舊跡等

彌彥神社。　越後一ノ宮と稱す。國幣中社にして、新潟市の西南八里にあり。天ノ香語山命を祀る。命は饒速日命の御子にして、神武天皇よりこの地を賜りて降らせ給ひ、國內を平定し士民を愛撫し萬づの生業を授け給ふなど其功德偉大なりしかば、後世にい

たりてこの社を建てゝあがめ祀るに至れりといふ。社地は彌彦山を擁し、喬樹天を蔽ひ閑雅幽靜、社廟は堂塔門廊輪奐赫灼として、知らず識らず敬虔の念を起さしむ。毎年二月一日より三日まで大祭を行ふ。

眞野山陵。 佐渡眞野村の東、松樹蔚蒼たる山中にあり。順德帝の御陵並に皇子皇女の御墓あり。帝は承久三年七月此地に渡らせらるゝや國分寺といふにおはしますこと暫時にして、後黒木御所といふ行宮に遷幸せられ、二十二年の春秋をこゝに閲したまひ、仁治三年九月十二日(今より六百六十余年前)崩御あり。聖壽四十六。隨身藏人權頭淸範淨地を相して、泉澤に皇陵を經營し、國分寺に於て之を總司せり。延寶七年當國奉行曾根吉正皇陵の荒廢を傷み、德川幕府に請ひ新に土地を寄附して之を擴む。今の山陵卽ち是なり。陵域方五十間、石垣柵間を以て之れを繞らす。一たび此地にいたり、松風颯々の下御陵を拜するもの、誰か往時を追想して斷膓の感をおこさゞるものあらんや。維新後聖駕北巡の際侍從の歌に

　里人にありしむかしのあとゝへば獨り答ふる峰の松風

よく其さまを寫せり。

(注意) 本文眞野山陵は御火葬所として尊崇せらる。御遺骸は寛元年間山城國愛宕郡大原野村に遷し奉る。

親不知(オヤシラズ)**。** 糸魚川町を去る西南四里五町市振村にあり。駒返の難所より凡二里の間にして、古來天下無双の險と稱す。壁立複嶺の下、千尋の滄海に臨み、斷崖絶壁路を開くこと能はず、僅かに波際の沙路を通ず。旅客皆案内者の指揮により、海潮の去るを覗ひ、疾走以て難を免る。殊に五六丁の間は五七間毎に岩洞窟竇を穿ち、以て避難の地となす。一旦逆浪巨濤に會せば壯夫亦能く免るゝことなし。口碑に云ふ、池大納言の夫人潛行此險を過ぎ、怒濤の爲め其兒を奪ひ去らる。夫人悲歎に堪へず、左の咏歌あり。

　親しらず子は此浦の浪まくら越路の磯のあわと消行く

親不知の名これに基くといふ。然れども現時は崖上に開鑿成り、車馬すら猶よく通行するに至れり。而して風景の絶佳なる亦他に多く見ざる所、北は遠く佐渡島の翠黛を望み、水天髣髴の間白帆の點々浮ぶが如きに至りては眞に畵圖の如し。

春日山。 往古蜂ヶ峯と云ふ。天喜年中源義家陸奥征討の際山上に城砦を築き春日明神を勸請せしより春日山と稱す。足利義滿の寵臣上杉左近將監憲榮始て越後守となり、子孫當城に居りぬ。永正五年長尾爲景反逆して其君上杉民部大輔房能を弑す。上杉氏こゝに至る六世百四十余年を經たり。爲景本城を領してより上杉輝虎を經

て景勝に至り、慶長三年堀左衛門督秀治之に代り、同十六年堀忠俊福島城に移り、台命により此城廓を破壞す。蓋し本城は頸城の沃野を控へ、一面海に臨み、下越に通ずる米山の險あり、信濃の界に田切の嶮あり、越中に到る親不知の難關あり。嶺上古井數泉、老松十余株、尙英雄不死の魂を留むるならんか。而して山腹には上杉神社の新營あり。實に北越の形勝地なり。

長岡城址。　長岡城は別に苧引形兜ノ城又は八文字ノ構浮島城と稱す。前に千曲の洪流を控へ、後は深泥渉るべからず。右は八町の大沼を有し、左は妙見、榎峠の險扼を擁す。北越の中樞に位し、古志、蒲原半開扇形の大野を睥睨し、自然の形勝にして、北越に於て當時覇を爭ふべき樞要の地たりしなり。慶長以前の事歷古文に詳かならざれども、當時上杉氏の所屬にして藏王堂の城壘あり。慶長三年堀秀治の族堀親直居住す。同十五年松平忠輝來り北臣山田隼人を在城せしむ。元和二年忠輝の封地を沒收せらるゝや、堀丹後守直寄來り新に城地を長岡に相し、藏王の城壘並に町家を移し、以て本城を經營す。元和四年村上城に移り、長峰城主牧野忠成本城に移封せらる。爾後牧野氏世々之を領す。當時藩の執政役に河井繼之助なるものあり。幕府の大政を奉還し、錦旗東に下るや、藩主に勸め國にかへり、庶民を撫し、勤王佐幕の論外に立ち、獨立獨行して其封土を安んじ、以て天下の靜謐を待たんとす。官軍の至るや獨立の狀を陳じ、封土を安せんことを乞ふ。官軍顧みず。河井氏怒りて遂に鬪意を決して叛し、自ら精兵を率ゐて奮鬪數次、屢官軍を苦め身に重傷を負ひ、療養叶はず、年四十二を以て歿し、城遂に陷落す。今の北越線長岡停車場の地は卽ちこれにして、塹濠を平にし、四面連擔櫛比の市街となり、全く舊跡を窺ふことを得ざるに至れり。

海府浦及浦濱。　本縣の東北部、山形縣との境に至る海岸十里の地をいふ。奇岩突出風光甚だ佳なり。特に笹川流と稱する地は其名高く、文人墨客の詩歌、紀行等尠からず。浦濱は本縣中部、彌彥山麓一帶の海岸をいふ。佐渡の青螺顏前にあり。海山の形勝を以て名あり。

以上各項外の重要なる事項

瀬波噴泉。　本縣の東北部瀬波町の南方二十町、海岸を距ること僅に三町に在り。これ石油採掘の目的を以て掘鑿すること百三十九間に至りしに、俄然鐵管內より轟々たる音響を發し猛勢を以て强熱湯を噴騰すること高さ九十尺、飛沫急雨の如く、其の噴湯放射晝夜間斷なし。古來時を定めて噴湯するもの少からずと雖ども斯の如きは稀にして、實に地文學上の好資料たり。礦泉の性質は鹽類泉にして、現時浴湯の

經營中なり故に入浴遊覽の客集合し、昔時の淋しかりし松林も今は變じて一小市街をなせり。東京衛生試驗場長田原博士分析の結果、醫治救用の概略左の如し。

浴用。筋及關節僂麻質斯、ヒステリー。

内用。輕症胃加答兒、胃痛など。

七ッ釜の瀧。本縣の南部苗場山の附近(十日町の南方五里三十町)にあり。瀑水數層に分れ級をなして落下し、泡沫飛散して天候によりては雲霧を生じ、咫尺を辨せざることあり。其兩岸は蛇岩削るが如く、苔滑かに松綠にして風景絶奇、實に縣下屈指の名瀑なり。而して輝石安山岩(最初玄武岩なりと稱せしは全く誤謬なりとの學者の說)より成る絶壁は兩岸各其形狀を異にす。卽ち一方は正四角柱にして各角面五六寸長さ數十丈に達する石柱幾百萬となく幷列し、一方は四角柱の横斷面相重疊して石垣の如くに現はれ、以て釜淵を擁護す。其天工の妙景奇狀筆を以て盡すべからざるのみならず、これ亦地文學上の好資料として其名高し。

赤倉及松ノ山の溫泉。赤倉は本縣西部妙高山の東麓にあり。この地は背後に妙高山を負ひ、北方遠く開けて佐渡島を烟波渺茫の間に望み、東北米山の山脈蜿蜒として連るを觀、風景の閑雅にして幽邃なる、縣下溫泉場に冠たり。泉質は多量のコロールナトリウムを含有し、溫度華氏百三十度、皮膚病、僂麻質斯、腫物等に特效あり。松ノ山の溫泉は本縣南部山中にあり。この地は四面繞らすに山を以てし、峻坂二里を踰えざれば他村にいたる能はざる僻地なりと雖も、風景の幽邃なると鑛泉の痔疾、疝癪等に特效あるを以て其名聞ゆ。溫度華氏百三十度、夏季の入浴者年々數萬人に達すと云ふ。

新潟縣(二)

(新潟縣高田師範學校報告)

山川岬角海灣等自然地理上の事項

位置。

地勢。信濃川、彌彥山、日本海、越後平野、阿賀川、米山、妙高山、金北山、飯豐山、氣候陰天多く積雪多き事。

都邑

新潟市、長岡市、直江津町、高田町、相川町、柏崎町、小千谷町、新發田町。

產業及物產。

農業、鑛業、工業、漁業。米、石油、金、越後縮、透綾、絹織物(羽二重、五泉平)、煙草、鮭、鱈、

交通上の事項

鐵道。信越線、北越線、岩越線(未設)直富線(未設)

水運。新潟夷間、新潟直江津間、直江津伏木間、信濃川の水運、直江津小木間。

神社佛閣名勝舊跡等

春日山城址、彌彦神社、赤倉温泉、親不知、五智如來。

挿畫

石油坑の全景、春日山及上杉謙信の像、親不知の景。

備考

親不知は今や其實なく、歷史上の名に過ぎず。

新潟縣(三)

(新潟縣長岡女子師範學校報告)

山川岬角海灣等自然地理上の事項

境域。新潟縣は日本海斜面に於ける大縣にして、東南西の三面は山に圍まれ、北西の一面海に向ひて開けたり。

山岳及平野。國境には高山多く、就中蓮華山、妙高山、飯豐山等は最も著はる。米山と彌彥山とは甚だ高からずと雖、海岸に峙ち舟子の目標とするところなり。越後の平野は信濃川阿賀川二流の流域にして、その沖積層の沃土はよく米を產せしむ。

河流海岸及氣候。信濃川は約百里の長流にして、長岡より下流十七里は汽船の航行に適す。越後の海岸は五十餘里、甚しき屈曲なく、多くは砂濱にして良港なし。冬季は積雪多く、丈餘に及ぶ所ありて、大に民業を妨ぐ。然れども寒威凜烈なるにあらず。

佐渡。佐渡は其形分銅の如き孤島にして東西に港灣あり。國の中央は平地にして、南と北とに山脈あり。金北山は北方山岳の著名なるものなり。

都邑

新潟市。人口五萬五千、信濃川の河口に位し、開港場の一なれども、泥砂河口を埋め大船を入るゝことを得ず。縣廳の所在地にして、漆器を產す。

長岡市。人口三萬二千、新潟の上流十七里のところにあり。國の中央に位し、運輸交通の要衝たり。近來其附近に石油を產し、其採掘精製、販賣等のために頓に商工業の發達を遂げ、各種の會社四十以上に達せり。

高田町。人口二萬餘、上越第一の都邑なれども市況繁盛ならず。

直江津町。人口一萬餘に過ぎざれども海陸運輸の便兼備はり、次第に繁榮に赴けり

他日この地より富山に通ずる鐵道竣功せば一層繁榮の度を高むべし。

新發田町。人口一萬九千餘、北部の名邑にして、山形、福島二縣に通ずる道路の集まるところなり。第十五旅團司令部はこの地にあり。

三條町。人口一萬六千、新潟と長岡との中間にあり。信濃川に臨み、金物類の産あり。

柏崎町。人口一萬三千、長岡の西九里にあり。海に臨む附近の地石油を産し、市況ためにやゝ長岡に似たり。

夷港。佐渡にある良港にして、新潟を去ること三十二浬にあり。

相川町。人口一萬四千、島の西北にあり。古來金北山の鑛山より金銀を産せしがためにこの都邑の繁榮を來せり。近時鑛産減少の結果市況昔日に如かず。

小千谷及十日町等。小千谷、十日町は越後縮透綾等の主産地にして、五泉は五泉平、羽二重等絹織物の主産地なり。共に其地方の都邑たり。

村上。人口九千、縣の最北部の都邑にして、鮭魚を産する三面川あり。近傍より山邊里織を産す。

産業及物産

農業及機業。縣民多くは農業に從事し、米産額全國に冠たり。たゞ米質稍良好ならず。機織の業は古來より巧にして、各所より産するものを合計すれば其年額四五百萬圓に達す。山邊里織、五泉平、栃尾紬、越後縮、透綾、羽二重、木綿織等其主なるものなり。

水産。水産もまた多し。佐渡鰑、鯛、鰯等其主なるものなり。

鑛産。鑛産には石油、金、銀、銅等あり。就中石油は内國油の大部分を占む。

工業。工業には鐵器の製造を第一とす。其他銅器、漆器、摺附木等あり。

交通上の事項

郵便電信。郵便電信等は到るところに備はり、越佐二州の間には海底電線あり。

陸路。陸路は鐵道信越線長野より頸城の平野に入り、高田を過ぎて直江津に到り、北越線は直江津より柏崎、長岡、三條を經て新潟に到る。直江津より富山に到る間に親不知の險路ありしが、今は新たに道路を作りて車馬を通ずべし。新發田は西は新潟に、東は山形縣に、南は福島縣に通ずる道路の集合するところにして、道路の修築車馬の交通に不便を感ずることなし。長岡より南すれば三國越より上野にいづ。この道路も良し。たゞ國境到るところに峻坂險路ありて、他縣との交通やゝ不便なり。

水路。水路は冬季西北風烈しくして航海を絶つことあり。直江津より新潟、伏木、小木間及新潟より夷、酒田或は遠く門司、函館、浦鹽間は最も主要なる航路たり。

神社佛閣名勝舊跡等

彌彦神社。彌彦山麓にあり、天ノ香語山命を祀る。

春日山の故城。高田及直江津に近し、上杉氏の城址にして、眺望よし。

眞野の御陵。眞野灣に近し、承久の昔を忍ばしむ。

以上各項外の重要なる事項

本縣は人口百八十萬に過ぎ、一縣の壯丁は以て一旅團を編制するに足る。風俗淳朴にして勇氣あり。

冬季は積雪多く、民戸外の生業を失ふことあり。

挿畫

長岡東山石油坑、冬季積雪民家を沒する景。

富山縣

（富山縣師範學校報告）

山川岬角海灣等自然地理上の事項

富山縣は新潟縣の西に連り、三方みな山をめぐらし、立山その東南部にそびえ、大蓮華山は新潟縣の境に峙てり。黒部川、常願寺川、神通川、庄川などの諸川はみな北に流れて富山灣に入る。諸川の下流地方には平野廣く米の産多し。

都邑産業及交通上の事項

富山市は平野の中央にあり、神通川にまたがり、縣廳の所在地なり。もと前田氏の城池にして、古來賣藥業をもつて名高し。富山の東北海岸に魚津町あり、春夏の交往々海上に蜃氣樓現る。此邊一帶は漁業の利多し。

北陸鐵道は富山より高岡を經、倶利加羅山を過ぎて石川縣に入る。高岡市には銅鐵器、漆器などを産す。市の北方なる伏木港は北海の開港場なり。此港より高岡を經て南方城端に至る鐵道を中越鐵道といふ。

石川縣

（石川縣師範學校報告）

山川岬角海灣等自然地理上の事項

位置、白山、手取川（白山に發源し日本海に入る、長さ二十二里）。

能登半嶋。珠洲岬（能登の東北端をいふ）、七尾灣（能登半島の東面にあり）、能登島（七尾灣

内にあり)、河北潟(金澤の北方二里斗の海濱にあり、周回六里餘)、雨量多し。

鑛泉。山中、山代、和倉七尾の西北二里にあり泉質良し)、片山津(柴山潟の西岸にあり、動橋驛より一里)。

都邑

金澤。犀川、淺野川に跨り人口十萬餘、北陸地方第一の都會、元前田氏百萬石の城下、縣廳第九師團司令部、第四高等學校、醫學専門學校等あり。

小松。人口一萬三千、商業盛なり。

大聖寺。人口八千餘、富山と共に前田氏の支藩たり。

七尾。貿易港、人口一萬餘。

輪島。人口一萬餘。

上金石。金澤より西北二里にある港なり、金澤より鐵道馬車の設あり。

穴水。七尾灣の北灣にあり、港内水深く船舶の往來繁し。

産業及物産

縣下。米、羽二重。

金澤。羽二重陶器漆器、銅器、絹製手巾、金箔類。

小松、大聖寺。羽二重陶器。

輪島、山中。漆器(輪島のは丈夫を以て名あり)。

山代。陶器(金澤、小松、大聖寺のと共に九谷燒といふこと)。

交通上の事項

陸の交通。北陸線は富山縣より來り金澤、小松、大聖寺を過ぎ、福井縣に入る。七尾線は七尾より起り津幡にて北陸線に接續す。

海の交通。七尾と浦鹽斯德との間に定期航海あり、伏木、七尾、敦賀間の定期船あり。

神社佛閣名勝舊跡等

尾山神社。金澤にあり、別格官幣社にして前田利家を祀る。

總持寺。能登門前にあり、曹洞宗本山の一なり。

(注意) 近時神奈川縣橘樹郡鶴見村に移轉することに決せり。

兼六園。金澤にあり、今は公園となる。日本三公園の一なり。兼六園とは宏大、幽邃、人力、蒼古、水泉、眺望の六勝を兼ぬるが故にして、白河樂翁公の命名、風景絶佳なり。

九十九灣。能登小木村の附近、所謂能州の景とて風景頗る佳なり。

安宅。小松の西北一里にある港なり。彼の安宅の關址は海中二三里にありといふ。

篠原(シノハラ)　片山津の北方一里斗の海濱にあり、壽永二年源平の古戰場にして齋藤實盛の塚あり、其附近に當時の古蹟あり。

倶利伽羅峠(クリカラ)　津幡の東二里、越中に入る界嶺なり、源平の古戰場なり。

福井縣

（福井縣師範學校報告）

山川岬角海灣等自然地理上の事項

嶺北、嶺南(木芽嶺)、九頭龍川(支流足羽川、日野川)及び其盆地的平野、立石岬、越前岬、若狹灣、敦賀灣、海岸の出入に富む。

都邑

福井市　縣廳、羽二重等絹織物の中心地、工業試驗場、藤島神社。

敦賀町　貿易港、ウラヂオストックに對する地位、氣比神宮、金崎宮、兵營。

武生町　附近の地に麻布、漆器を產す。

小濱町　若狹塗。

鯖江町　兵營。

產業及物產

絹織物業は縣下の產業に主たり、羽二重、奉書紬等

交通上の事項

北陸線。

神社佛閣名勝舊跡等

氣比神宮、金崎宮、藤島神社、永平寺。

挿畫

永平寺、福井縣地圖、氣比神宮。

備考

嶺南、嶺北は自然及人文上に相異多し。

北陸線路中、杉津驛附近の勝景は旅情を慰むること大なり

北國固有の氣候は適宜授くること。

近畿地方

滋賀縣

（滋賀縣師範學校報告）

山川岬角海灣等自然地理上の事項

縣の四圍に山を繞らせること。中央は漸次低くなりて我國第一の琵琶湖をなすこと。湖の廣さは本縣の六分の一なること。湖中に奥島、沖島、竹生（チクブ）島等あること。湖水は流れて勢多川となり京都府に入りて宇治川となること。湖東には廣き平野あること。岐阜縣との境にある伊吹（イブキ）山は本縣第一の高山なること。湖西には比良（ヒラ）山あること、京都府との境には比叡山あること。

都邑

大津市。縣廳の所在地にして歩兵第九聯隊あり。

彦根。名高き公園あり。

長濱。彦根に亞ぎて有名なる町なり。

產業及物產

長濱地方は養蠶及製糸の業盛にして縮緬を出す、これを濱縮緬と云ふ。湖東には多く麻布を産す。湖東の沃野には多く良米を産す。縣下一般に多く菜種を出す。湖中には魚類多く鰉（ヒガイ）及鯇（アメノウヲ）は特に著はる。

交通上の事項

東海道線は岐阜縣より來り米原、彦根、草津、大津を過ぎて京都府に入る。草津より分れ貴生（キブカハ）川を經て三重縣に入るものあり。米原より分れ長濱を過ぎて、福井縣に入るものあり。彦根より分れて貴生川に至るものあり。疏水は大津より起り、二十四町間の隧道を過ぎて京都府下に出で、京都市に達す。旅客貨物の運搬の便大なり。湖上は汽船ありて運搬の便大なり。

神社佛閣名勝舊跡等

園城寺。大津市の西端稍高き所にあり、湖上の景頗るよし。

瀨田の橋。勢多川に架り風景絶佳なり。（其の他湖邊は風景に富めり）

延曆寺。比叡山頂にありて史上に著はる。

賤ヶ嶽。七本鎗を以て知らる。

滋賀村。大津市の北方約半里の所にあり、古滋賀の都ありし所なり。

青柳村。湖西高島郡青柳村（アヲヤギ）は中江藤樹の生地にして今尚書院を存し、歳次祭典を行ふ。

其の他重要なる事項

湖東の諸山は多くは花崗岩質の砂よりなり風化作用烈しく、其の結果、滿山樹木無く細砂流れて河に下り、河床を高くし汎濫の憂多し。よりて漸次堤防を高くして之を防ぐ。近年湖東諸山に沙防工事を施し、先づ植うるに山榿（ハゲシバリ）を以てす。成長盛にして結果甚だ良好なり。

湖東中部は所謂近江商人の出づる地にして、内國は勿論、滿韓地方等へ店舖を開くもの多し。

湖中の魚類を捕ふるに魞と稱する裝置をなす。

挿畫

魞の圖。

備考

魞は竹の簾を湖中に立て其の兩端に袂を作りたる裝置にして、魚は漸次此に集り、漁夫は手網（サデ）を以て之を捕ふ。魞の長きものは數町に及ぶものあり。

京都府

（京都府師範學校報告）

山川岬角海灣等自然地理上の事項

丹波丹後の山地なること。山城平野。桂（上流保津川、嵐山の麓に至り大堰川といふ）、賀茂、宇治（上流勢多川、淀に至りて淀川となる）、木津諸川の合して淀川となること。西北部諸水の合して由良川となること。

宮津、舞鶴灣の彎入、經ヶ岬。

都邑

京都、伏見、福知山、宮津、舞鶴、新舞鶴、龜岡、八幡。

産業及物産

京都市の産業は主として美術工藝的なること。工業上に水力を利用せること。染色業の發達せること。兩丹地方の養蠶、製絲の盛なること。西陣織、丹後縮緬、綿ネル等の産出。清水燒、粟田燒等の陶器及び漆器、銅器、扇子等の産出。山城地方竹の産出。

交通上の事項

東海道鐵道、關西鐵道奈良線、京都鐵道、阪鶴鐵道、關西鐵道網嶋線、高瀬疏水兩運河、大阪

伏見間の水運、日本海岸の水運。

神社佛閣名勝舊跡等

京都御所、二條離宮、帝國大學、博物館。

平安神宮、賀茂別雷神社、賀茂御祖神社、北野神社、稻荷神社、八阪神社、豐國神社、護王神社、建勳神社、男山八幡宮。

本願寺（西本願寺（本派本願寺）東本願寺（大谷派本願寺））、知恩院、清水寺、金閣（鹿苑寺）、銀閣（慈照寺）、平等院。

天橋立、笠置山、嵐山、高雄山。

以上各項の外重要なる事項

舞鶴鎮守府。

挿畫

インクライン。

奈良縣（一）

（奈良縣師範學校報告）

山川岬角海灣等自然地理上の事項

大和川と大和平野との關係。

都邑

高田町（縣下の商業最も昌なる地にして、鐵道の分岐點なり）。五條町（南部大和の商業中心點、人口壹萬餘）。

産業及物産

木綿織物（平野に於ける主要産業にして産額三百五十萬圓）。梨子（平野地方に産し味尤もよく、産額參拾餘萬圓）。三輪素麵（産額拾萬圓）。林業（人造林の完美なるものあり、丸太及酒桶の原料多くして年産額百二拾餘萬圓）。氷豆腐（吉野山近傍にて製造し、年産額貳拾貳萬圓餘）。製茶（産額三拾餘萬圓）。

神社佛閣名勝舊跡等

奈良公園の規模の大なること（廣さ五百町餘）。

奈良縣（二）

（奈良縣女子師範學校報告）

山川岬角海灣等自然地理上の事項

奈良縣は大和一國を管すること。東は三重縣、西は大阪府、南は和歌山縣、北は京都府

に境すること。四境は山脈を以て圍まれ、餘脈縣内に蟠り、唯西北部に平野ありて川流通じ、田圃開けたること。東境に亘れるは鈴鹿山脈にして數多高峯を起し、南方大臺原山(ダイガハラサン)に接すること。西境に亘れるは金剛山脈にして、金剛山、葛城山、生駒山等あること。此の兩山脈を連絡せるものは多武峯一帶の山脈なること。南部地方は紀伊山脈中の最高部たる所謂吉野群山にして、山上岳(又大峯山(オホミネサン))、金峯山(キンプサン)、大臺原山等の高峯ありて、森林に富み多く良材を産すること。

東北部には笠置山脈あること。十津(トツ)川は山上岳より、北山(キタヤマ)川は大臺原山より發し、共に南流して和歌山縣に入り、合して熊野川となること。吉野川は大臺原山より發し、西流して和歌山縣に入り紀川となること。大和川は平野の諸流を中央に集め、西境の溪谷を過りて西流し大阪府に入ること。名張川(木津川の上流)は三重縣より來りて、東北部を過ぎて京都府に入ること。

都邑

奈良市は縣廳の所在地にして人口參萬參千餘市街の東に有名なる公園あること。公園内に春日神社、東大寺、興福寺、正倉院、奈良帝室博物館等あること。市の産物には筆、墨、漆器等あること。

奈良の西南にあたりて郡山、法隆寺等あること。郡山は奈良に亞げる繁華の地にして、奈良朝の帝都は此の邊より北東にありしこと。法隆寺には聖德太子の建立し給ひし同名の寺あること。

産業及物産

農業、林業、木綿業の多きこと　殊に林業の發達せること。住民は一般に質朴にして勤儉の風に富めること。

産物には材木、米、麥、綿布、麻布、氷豆腐、繭、葛粉、素麵、紙、墨、漆器等あること。材木の主なるものは檜、杉、松等なること。就中吉野附近の杉は材質優等にして、殆んど全國第一位を占むること。綿布は將來韓國方面に賣り出す見込あること。

交通上の事項

平野の地は鐵道の便よく備れること。關西鐵道幹線は名古屋より來り、奈良、郡山、法隆寺、王寺を經て大阪府に入り柏原を經て湊町に達すること。支線は奈良より北京都に、南櫻井に至るもの、王寺より高田、畝傍を經て櫻井に達するもの及び高田より五條を過ぎて和歌山縣に入り、紀川の沿岸に添ひ西に走り和歌山市に達するものあること。山地は坂路多くして往來困難なること。山地より發する諸川は舟運の便に

乏しきこと。吉野川、十津川は材木運搬の要路なること。

神社佛閣名勝舊跡等

縣下に四十六箇所の御陵と千九百の神社と千七百の寺院あること。春日神社は奈良市の東方春日山麓にあり、官幣大社にして武甕槌神、經津主命、天兒屋根命等を祀り、神護景雲二年の創建なること。社殿は壯麗にして廻廊長く、燈籠の數或人の計算によれば金屬製のもの九百八十八、石造のもの千七百八十九基あること。境内は頗る廣く老樹欝茂し、神鹿多く棲み參詣人を見れば群り來りて食を求むること。毎年三月十三日官祭を行はるること。毎年十二月十七日は天兒屋根命の御子なる天押雲命を祀れる若宮のおん祭りとて世に聞えたること。

南都七大寺(東大寺、西大寺、興福寺、元興寺、大安寺、藥師寺、法隆寺をいふ)の一なる東大寺は聖武天皇の朝に國分寺として建立し給ひし所なること。大佛殿には銅造の盧遮那佛坐像を安置すること。大佛の大さは高さ五丈三尺五寸、面長一丈六尺、面廣九尺五寸、眉長五尺四寸五分、目長三尺九寸、鼻高一尺六寸、口長五尺七寸、耳長八尺七寸、掌長五尺六寸、肩徑二丈八尺七寸、指長五尺、膝厚七尺なること。

(注意) 俗に東大寺を總國分寺と云ふ説あれどもこは大和の國分寺なり、現今總本山が他の寺院を支

配するが如き關係あるにあらず。

興福寺は猿澤池の北方にあり、藤原氏の菩提所にして、和銅三年今の地に移されたること。藤原隆盛の時代には頗る盛大なりしも數度の火災に罹り、今殘留せるものは金堂、南圓堂、北圓堂、五重塔等に過ぎざること。

正倉院は勅封の寶庫にして今は宮内省の管理に屬し、奈良朝時代の古器珍寶を藏すること多く、歴史上、美術上の參考となるべきもの尠からざること。毎年官吏を派して虫干を爲さしむる際、特に美術家等の拜觀を許可せらるゝことあること。

奈良帝室博物館は館内を歴史、美術、美術工藝の三部に分ち、古社寺の寶物、名家の逸品を陳列すること。古代彫刻物の遺品の多きこと他に比類なきこと。

法隆寺は舊名斑鳩寺といひ、聖徳太子の建立し給ひし我邦最古の建築物の一なること。建築以來毫も其の舊形を更めざること。境内は東西の二院に分れ、西院に金堂、講堂、五重塔ありて歩廊之を繞り、正面に中門、南大門あり、東院に夢殿ありて太子在世の佛體、什器等儼然として今に見るべきもの多く、歴史の材料、美術の模範として其の名天下に鳴ること。

(注意) 法隆寺は聖徳太子建立當時のものなりとの説あれども確證なし、天智天皇九年全部燒失の事

日本紀に見ゆ。但其金堂、中門、五重塔等は我國現存の建築物中最古のもの丶一なるべし。

櫻井の西南畝傍(ウネビ)山の邊りには、神武天皇御陵及び橿原神宮あること。橿原神宮は往古橿原宮址にして明治二十三年の創建に係り官幣大社たること。祭神は神武天皇及び五十鈴姫皇后なること。

藤原鎌足を祀れる談山神社は櫻井の東南なる多武峯にありて楓を以て名高きこと。

吉野山は多武峯を南下して吉野川を渡りし所にあること。吉野山とは吉野川岸より金峯山に至る總稱にして櫻の名所なること。此の地南朝の皇居ありし所にして吉水(ヨシミヅ)神社(後醍醐天皇、楠木正成を祭る)、如意輪寺、後醍醐天皇御陵等あること。

月瀨(村名ツキセ村、土民之をツキノセと云ひ、他縣のもの之をツキがセといふ)は縣の東北隅にあり、梅林の多きを以て天下に鳴ること。名張川は村の中央を貫流し風景甚だ美なること。

三重縣　(一)

(三重縣師範學校報告)

山川岬角海灣等自然地理上の事項

阿漕浦等には夏時浴客萬を以て數ふること。大臺原山の大なること。國見山は縣の高山なること。朝熊山(萬金丹)、鈴鹿峠(古蹟)、五十鈴川(神さびたること)。赤目四十八瀧は伊賀國名賀郡名張町の南方にあり、景色を以て著はる。大王崎は遠州灘の入口にして波浪多し。

產業及物產

紡績業は三重紡績會社(所在地四日市、津、川島)室山製糸場(所在地三重郡四郷村)、桑名紡績會社(所在地桑名郡桑名町)等の設立ありて、年毎に隆盛に赴けり。

都邑

尾鷲港は沿岸航路に缺くべからざる碇泊地たり。

三重縣　(二)

(三重縣女子師範學校報告)

山川岬角海灣等自然地理上の事項

伊勢海、熊野灘、鈴鹿川、鈴鹿山、四日市港、鳥羽港。

都邑

桑名、四日市、龜山、上野、津、松坂、宇治山田。

產業及物產

漁業、農業、商業工業。

眞珠、伊勢蝦、石花菜、鰹、鯨、松、杉、檜、燒物、綿糸。

交通上の事項

關西鐵道、參宮鐵道。

神社佛閣名勝舊跡等

伊勢神宮、日本武尊墓、二見浦。

以上各項外の重要なる事項

海水浴場(二見浦、津、香良洲)

挿畫

四日市附紡績工場。

備考

鈴鹿山。古昔三關の一たりし鈴鹿の關のありし所にして、古へ關東、關西の稱はこの關を以て分ちしなりと云ふ。此の山の麓に孝子萬吉の碑あり。

四日市。四日市港に臨める一市街にして、米穀取引所、紡績會社、製紙會社、搾油會社、陶器製造所等ありて、工業の盛なるのみならず、海陸共に交通便なるを以て、商業の盛

なること縣下第一と稱せらる。

龜山。關西鐵道支線の分れて津にいたり參宮鐵道線に連絡せんとする所なるを以て、內外人の陸路によりて伊勢兩宮に參拜せんとするものは必ずこの地によらざるべからざれば、今や東西交通の要衝にあたり、次第に繁昌におもむかんとす。

上野。伊賀街道の衝にあたり交通頗便なるを以て、市街漸繁華なり。今より凡三百年前、筒井定次の築きし上野城の在りし所にして、後、藤堂氏の本府となり今尙その墟を存す。渡邊數馬の復讐を果したるは實にこの地なり。

津。藤堂氏の舊城下にして三重縣廳あり。市の一部なる贄崎港は大坂、熱田間の航路にあたり、海陸交通の便なるのみならず、陸には龜山を經て京、大坂及名古屋に通ずる關西鐵道幷に宇治山田に通ずる參宮鐵道ありて、縣下第一の都會なり。市の南端に結城神社あり、南朝の忠臣結城宗廣公を祀る。

松坂。紀州侯の舊領地にして、參宮鐵道に沿ひ、松坂縞の產出頗多し。彼の有名なる本居宣長はこの地の人なり。

石花菜。志摩の近海に產し、寒天に製して外國に輸出すること多し。

鯨。每年冬と春との際熊野灘の海濱に多く來るを以て、この頃に至れば漁夫は豫め

舟を備へ、鯨來れば直に數十艘の舟を出し、衆皆爭ひてその背に鏢を抛つ。將に斃れんとするときその背に穴を穿ち之に索を貫き、大船に繋ぎて海岸にいたるなり。

二見浦及香良洲。 二見浦及津市の近海岸香良洲等は遠淺にして海水淸きを以て、夏時來りて浴を取るもの多し。

和歌山縣

（和歌山縣師範學校報告）

山川岬角海灣等自然地理上の事項

山地。 縣下山地多く、山嶽殆んど縣下全部を占め、平地は河流、海岸に沿うて僅かに存するに過ぎず。

紀ノ川。 紀伊半島の北部を横斷して流れ、和歌山市の西方にて海に注ぐ。其流域は縣下主要の農產地なり。又上流吉野川より盛に木材を流下す。

熊野川。 上流は十津川及北山川より成り、三重縣との境をなす。兩岸絶壁多く、流れ急なれども、舟楫の利あり。木材流下に大なる便を與ふ。

高野山。 縣の西北部に在り、海拔二千六百餘尺、山頂の高原周圍三里餘、有名なる金剛峰寺玆にあり、又山中の森林より良材を出す。

有田川。 源を高野山の南麓に發し、曲折迂回して箕島にて海に入る。金屋より下流は兩岸次第に開け平地あり。此川附近は紀州蜜柑の主要產地なり。

日高川。 源を日高郡の東隅なる龍神山中に發し、蜿々屈折し西流して海に注ぐ。其間四十八里、水勢激しくして、間々瀑布の如く見ゆる所あり。近時水力電氣の企あり。

潮ノ岬。 縣の最南端にして兼て本州島の最南端なり。海中に突出すること二里、此附近は本邦中、雨量最も多き地方の一なり。

熊野灘。 潮ノ岬より東、三重縣志摩の南端に至る海上を稱す。此間山脚直ちに海に迫り、海岸の變化頗る多し。黒潮の流れ急にして海波荒く、航路險惡なり。

都邑

和歌山市。 紀ノ川の口を溯ること二十町ばかりの左岸にあり。德川賴宣此地に封せられてより俄かに盛大に趣けり。現今人口凡七萬、市の殆んど中央に和歌山城ありて、城の北より東に亘りて最も繁華なる市街あり。市には縣廳を始め學校、會社、銀行等の著しきもの皆備はれり。市民の生業は概ね商工業にして、縣下工產物の主位にある綿フランネルは多く市内に散在せる工場より製出するものなり。

新宮町。熊野川口に近くして縣下第二の都會なり。熊野川より下す木材の集散地にして商業盛なり。町の北部に熊野三社の一なる早玉神社あり。

黑江町。和歌浦の東南にあり。黑江塗を以て名高し。

田邊町。田邊灣に臨み、新宮に亞ぐ都會なり。田邊灣は沿岸航海の船舶の碇泊に適し、附近貨客出入の衝に當る。

產業及物產

農業。縣下山地多くして、只諸川の沿岸及海岸地方にのみ農耕に適する地あり。就中紀ノ川の沿岸は平地開け、縣下主要の農產地なり。

工業。和歌山市には綿フランネルの機業盛に行はれ、黑江町には漆器の製造に從事するもの多し。

漁業。沿海地方には漁業行はれ、鰮、鰹等を產す。

綿フランネル。殆んど全部和歌山市に產す。工業の原料たる棉花、石炭は共に他に仰ぐ。

蜜柑。有田郡、海草郡那賀郡より產出す。就中有田川附近は產額最も多く、品質も優等なり。近來各種の蜜柑を植うる傾あり。

漆器。黑江町に產す。精巧にあらざれども實用を主とし、其產額頗る多く、外國に輸出するもの少からず。近時諸國の特產に倣うて各種の塗物を製す。

木材。熊野、高野の二大森林を始めとし山地には森林多く、年々諸川の流れを下す額大なり。材種には杉扁柏、高野槇を始め其類多し。

交通上の事項

街道。縣下重要なる街道は和歌山市を中心として四方に通す。其主なるものは大阪街道、熊野街道、大和街道、淡路街道等なり。

鐵道。南海鐵道和歌山市より北に向ひて、大阪市に至るもの、關西鐵道（和歌山市より紀ノ川の縱谷に沿ひて東行し、奈良縣に入るもの）。

海運。縣下主なる港には大坂、熱田間及大阪、三輪崎間定期航海船の寄港ありて水運便なり。

神社佛閣名勝舊跡等

金剛峰寺。高野山にあり。僧空海の開きし所にして、有名なる眞言宗本山の一なり。寺域は山中二里半四方に亘り、盛大を極めし時は僧坊の數一千に達せし事あり。今尚ほ坊舍百三十餘あり。

和歌浦。和歌山市の南方一里にあり、前には波靜なる海灣を擁し、遙に鹽津浦と相對し、東は名草山、紀三井寺を翠微の間に望み、玉津島神社、東照宮等ありて、風光明媚なり。聖武天皇此地に行幸あり、明光浦の稱を賜へり。

那智瀧。那智山中に瀑多し。第一の瀧は山腹の絶壁にかゝりて、直下すること八十丈と稱す。遠く海上より望むを得べし。本邦第一の瀑布なり。只水量の多からざるを惜む。瀑水は流下して那智川となる。瀑下に瀑を神體とせる飛瀧神社の拜殿あり。

鉛山温泉。田邊町の西南にあり、炭酸泉にして附近景色よく、浴客多し、俗に湯崎と云ふ。

道成寺。日高川の沿岸なる矢田村の鐘巻にあり。大寶年間文武天皇紀道成に勅して建てしめ給ひし古刹なり。

以上各項の外重要なる事項

加太。縣の西北端なる加太は淡路に渡る要津にして、由良と相對して紀淡海峽を扼し、砲臺の設あり。

出稼人。本縣には米國、濠洲等へ出稼するもの多し。

大阪府（一）

（大阪府師範學校報告）

山川岬角海灣等自然地理上の事項

大阪府の南、東、北の三境の山脈と攝津の西北二境の山脈及淡路島とにて圍める盆地は瀬戸内地溝帶に連る大阪灣盆地にして、大和、山城、近江の盆地に比すべきものなり（この盆地の西を淡路島の限れるは恰も近江盆地に比叡山脈を殘し、大和盆地の西に葛城山脈を殘せるが如し）この盆地の東部は淀川、大和川、武庫川以下諸川の流し出せる砂に埋められて、攝河泉平地をなす（故にこの平地は大阪灣の一部と見るべきこと、猶近江の平地を琵琶湖の一部と見るべきが如し）されど大阪灣斜面は攝河泉のみにあらずして近江、伊賀、山城の全部と大和、丹波の一部とを包有して一大斜面をなし、攝河泉はその斜面の裾にありて平地最廣し、河流の大小は斜面の幅に正比し、淀川最大にして大和川之に次げり。

都邑

大阪市は廣さ東西二里十九町、南北二里二十四町に及び、大阪灣に臨みて良港をひかへ、淀川の下流なる安治川及支流にまたがり、三方には平地ひらけて、水陸交通の便よ

く、近畿交通の中心にして、最形勢の地にあり(交通の事は交通線の條に讓る)。人口百餘萬にして年々數萬を增加せり。(生業、物產、社寺、舊跡等は別の條に讓る)。

產業及物產

大阪府は府下一體に工業地にして、大阪市は我が國內國商業と工業との大中心といふべく、實に全國の商況を支配し、北海道の昆布、緋、マッチ材、臺灣の米、砂糖、鹽等までこゝに集散せらる。外國貿易も頗盛にして、我國と滿韓との貿易は大半大阪の營む所なり。

大阪市の工業の最盛なるは紡績にして、金屬工業これに次ぎ、共に全國第一に位し、大工場數所あり。織物、染物、造肥、メリヤス、マッチ、硝子等これに次ぐ。市中烟筒林立し黑烟天に漲れり。

堺市も亦工業地にして酒、醬油、煉瓦、及物、段通、綿絲などを產す。

この他紡績業及マッチ、煉瓦、酒、タウル、綿布等の製造は府下諸所に盛なり。

農產としていふべきは蔬菜、綿、菜種及南北兩部の果物なるべし。

交通上の事項

大阪市は近畿水陸交通の中心にして、府下交通の中心なり。府下交通線の重要なるは京神に通ずる東海道線、名古屋に通ずる關西線、和歌山に通ずる南海線の三とし、皆河海の邊にそへり。これに次ぐは舞鶴に通ずる阪鶴線、神戶に至る阪神電氣鐵道にして、大阪市より發するものすべて八條あり。

內海、外海より來る船舶は大阪港に入りて安治川に上り、或は安治川の支流なる木津川より上りて大阪市の西部に入る。その船舶の多きこと全國比なく、日々の出入平均三百艘に及べり。大阪市は瀨戶內海の衝にありて、船を中國、四國、九州の沿岸に通じ、瀨戶內海は大阪の水路の如く、沿岸の都邑は大阪の配下たるが如き感あり。大阪商船會社は我が國第二の航業會社にして、內外の航海をなすものなり。尙內海航業を營む一二の汽船會社あり。

大阪市內の交通には多くの堀河に通ずる船と郊外をめぐれる關西支線とを以てす。電氣鐵道は未多からざれども近來增設に着手せり。河堀など多ければ橋の多きこと全國第一なり。

神社佛閣名勝舊跡等

社寺名所舊蹟の著るゝは市中には、大阪城、天王寺、天滿天神、高津神社あり。大阪市の南郊に古戰場阿部野をへだてゝ住吉神社あり。社域の住吉公園は堺の南方にある濱寺公園と共に風致を以て聞ゆ。

以上各項外の重要なる事項

大阪府は畿内の中にても人口最稠密なる所にして、一方里の人口一萬五千人に及べり。

備考

大阪灣斜面及大阪灣盆地の地勢と瀨戸内海の形とを見れば皆大阪市附近に集注せるごとく、この範圍の文明も亦大阪を中心とせるものとして敎授せんとす。

大阪府(二)

(大阪府女子師範學校報告)

山川岬角海灣等自然地理上の事項

金剛山。管内第一の高山にして、山頂に登らば遠く五畿を望むべし。西に下ること畧二町の地に寺院あり、名づけて金剛山寺と云ふ。明治三十七年大風の爲めに破壞せり。今再建の計畫中なり。又其近傍には雄略天皇の御狩の跡あり。山麓には赤坂、千早の城址あり、共に楠木氏の築きたるものなり。

日下山。日本紀に所謂孔舍衞阪にして、昔、神武天皇これより東生駒山を越えて大和に入らんとし給ひし所なり。

淀川。東北京都府より來り、大阪市内に入り、堂島、土佐堀の二川にわかれ、又合して更に安治、木津の二川となり大阪灣に入る。尻無、東横堀、西横堀、江戸堀、京町堀、阿波堀、立賣堀、長堀、堀江、道頓堀等の市内を縱横に通ずる諸溝渠は其流れを引けるものなり。

大和川。奈良縣より來りて、堺市の北方を過ぎて大阪灣に注ぐ。舟運の便殆どなし。

大阪灣。茅渟ノ海とも云ふ。海岸の屈曲少なく且遠淺なり。因て海水浴には便なり。

都邑

大阪市。

大阪城は市の東部にあり。もと一向宗僧徒の寺院なる石山本願寺のありし所にして、今より三百餘年の昔、豐臣秀吉公の築きしものなり。城の周圍一里餘あり。東南は玉造の平地に接し、東北は猫間川、寢屋川の二川をひかへ、その濠の深くして石垣の高きこと、石材の大なること、實に驚くに堪へたり。城内に第四師團司令部あり。また天守臺の傍に貯水池あり、市内の飲料水はこれより鐵管にておくらる。これを上水道といふ。又城外には步兵第八聯隊、第三十七聯隊、騎兵第四聯隊、砲兵第四聯隊、輜重兵第四大隊の兵營及び練兵場、砲兵工廠、偕行社、地方幼年學校等あり。城南に宰相山

あり。眞田幸村が砦を構へしにより眞田山と云ふ山の西方餌差町の圓珠庵は有名なる國學者契沖阿闍梨の住みし所なり。

高麗橋は東横堀の北より第二の橋にして、明治三年九月に架せり。これ當市に於て鐵橋を架せしはじめなり。橋の東詰に大阪府里程元標あり。南數町にして大阪博物場あり。場内に數棟の賣店、美術館、能舞臺及び動物園等あり。

高津神社は高津町にあり。仁德天皇を祀り奉る。

高津神社の南二町に、官幣大社生國魂神社あり。生國魂、足國魂の二神を祀る。

四天王寺は市の東南にあり。境内の廣さ東西八町、南北六町餘ありて、有名なる五重寶塔は高く聳え、金堂、太子堂など數多の堂塔建ち並べり。また櫻、藤、萩など四時の花卉、樹木を栽ゑて人の觀覽に供す。諸國の參詣人常に絕ゆることなく、殊に春、秋二季の彼岸會にはその雜踏甚し。この寺は今より凡そ千三百年前、聖德太子の創められしものにして、我國にて最も古き寺の一つなり。

寺の西南に茶臼山あり、一名荒陵といふ。山形、茶臼に似たり。大阪夏の役に兩軍相爭ひし地點なり。また四天王寺の西に一心寺、新淸水寺、遊行寺、夕陽ヶ岡、天神山など名所古跡甚だ多し。

江ノ子島に大阪府廳、警察本部、府會議事堂及び大阪市役所等あり。

安治川の河口は卽ち大阪港にして、船舶の出入多し。俗に出船千艘、入船千艘の稱あり。富島に稅關、商船會社あり。對岸安治川通に水上警察署、その他この近傍には諸會社、製造場多し。中にも櫻島の鐵工所は有名なり。

中ノ島は堂島、土佐堀二川に挾れる中洲なり。公園ありて、こゝに豐國神社、日本體育會大阪支部、大阪圖書館、明治紀念標、大阪倶樂部、木村重成表忠碑、其他諸種の學校あり。

堂島の川北岸を堂島と云ひ、米穀取引所、商業會議所、商品陳列所、大阪測候所等あり。

天滿神社は天滿大工町にあり。菅原道眞公を祀れる社にして、參詣人常に群集し、例年七月二十五日の天神祭には御渡りとて大に賑ふ。

造幣局は天滿橋北詰の東にある宏壯美麗なる洋館にして金、銀等の貨幣を鑄造する所なり。構内淀川の岸に當れる處に數多の櫻樹ありて滿開に至れば日を期して縱覽せしむ。

淀川を隔てゝ櫻宮あり。天照大神を祀る。境内櫻樹多し。また都島には水道水源地あり、淀川の水を引きてこれを濾過し、鐵管にて城内の貯水池におくるなり。

大阪市貿易の情況

大阪港明治三十八年の貿易は輸出品類五、五九〇萬圓、輸入品類一、八五〇萬圓。
輸出重要品は綿布類、綿織物、燐寸、銅、紙卷煙草、擬洋紙類、洋傘。
輸入重要品は砂糖、米、大豆、牛皮、柞蠶糸、棉花、鐵及軟鋼。

堺市。此の地はもと互市場たりしを以て諸國の船舶常に港内に輻輳せしが、今は海底漸く埋まりて大船を泊すること能はず、從てその繁盛は大阪神戸に移るに至りぬ。されど交通の便利宜しきを以てなほ良港たるを失はず。港口に燈臺あり、堺燈臺といふ。堺港の南に續ける海濱を大濱公園といふ。後に砲臺あり、前は海に面して遙に淡路島を望む。殊に汐干狩、海水浴には最も適す。南に網引場、魚市場あり。妙國寺は市の中央にあり。こゝには有名なる蘇鐵樹（幹の高さ三間餘、廣がれること方二十尺ばかり）あり。年を經ること殆んど四百年に及べどもなほその色を變せず。市の南端に南宗寺あり。寺内に牡丹花肖柏及び千利休等の墓あり。また是より北數町にして祥有寺あり。當市の人口は凡そ六萬あり。この地水陸の便宜しく商工業盛なり。殊に刄物商、酒造家、段通製造家など多く、沿海の地には漁業を營むもの多し。今より凡そ三百五十年前この地の人種子島にて鐵砲の製造法を習ひ歸りて製造せり。

岸和田。この地はもと岸とのみいひしを、和田氏の居城となりしより岸和田の名あり、今尚城址あり。町の西に小港ありて舟楫の便あり。

產業及物產

府下產出主要工業品。

綿糸、織物、製鋼、製鐵、製糖、諸機械、淸酒、燐寸、製油、製綿、友仙、メリヤス、寒天、蝙蝠傘、造船、硝子、菓子、ビール、足袋類、綿ネル、製革、段通、金庫、煙草、薬物、硫酸、石鹼、セメント、煉瓦、雜菓子、醬油、鑄物、刷子、庖刀、玩物、履物、ブリキ、帽子、指物、氷豆腐、酢、煙管、建具、昆布細工、昆布、コークス、フノリ、桶、樽、靴、化粧品、漆器。

府下農業物。

米、麥、綿、甘蔗、蜜柑、甘藷、其他の穀類、野菜等到る所に產す。

交通上の事項

街道。中國街道、能勢街道、京街道、奈良街道、紀州街道。

鐵道。東海道線、北區梅田より東京及び神戸に至る。關西線（南區湊町より名古屋に、南區天王寺より梅田に、北區櫻宮より加茂に至る）南海線（南區難波より和歌山に至る）、高野線（西區汐見橋より南河內郡長野に至る）西成線（梅田より天保山に至る）河南線（南河內郡柏原より長野に至る）。

電氣鐵道。 阪神電鐵(北區出入橋より神戸に、北區花園橋より築港に至る)。

電話。 市内電話、長距離電話(東京より來る)。

水路。 市内巡航船(東横堀、西横堀、道頓堀、尻無川、木津川、堂島川、安治川に通ず)、川蒸滊船(大阪八軒家より伏見に至る)、海上航路線(大阪商船會社の船の諸方に發するものは瀨戸内海、大阪天津間、大阪漢口間、大阪牛莊間、大阪大連間)。

神社佛閣名勝舊跡等

住吉神社。 住吉神社は住吉村にあり、官幣大社にして攝津の一ノ宮と云ふ。今より凡そ千七百年前神功皇后三韓征伐の時住吉明神御軍を助け給ひしによりこの地に社殿を建てゝ祀り給ひしなり。はじめは底筒男命、中筒男命、表筒男命を祀り給ひしが後神功皇后をあはせて四座とす。社前は一面の松林にして即住吉公園なり。

阿部野神社。 阿部野神社は阿部野の南端なる丘陵の上にあり。別格官幣社にして北畠親房公と其子顯家公とを祀れり。共に南朝の忠臣にして、親房公は關東に吉野に轉戰して皇室を護り奉り、顯家公は高師直と戰ひて遂に阿部野に戰死せり。其墓は東北數町の所にあり。

仁德天皇御陵。 仁德天皇の御陵は堺市の東南、舳ノ松村にありて大山陵と云ふ。外堤の延長二十一町餘にして陵の周圍凡そ十三丁あり。濠を其間に設く。又近傍に反正天皇、履中天皇の御陵あり。

大鳥神社。 大鳥神社は官幣大社にして和泉の一ノ宮と云ふ、日本武尊を祀る。

(注意) 内務省編纂官國幣社一覧に大鳥神社は大鳥連祖神を祭るとあり。

枚岡神社。 枚岡神社は中河内郡枚岡村にあり、官幣大社にして河内の一ノ宮なり。神武天皇の時、種子命の創建にかゝるといふ。天兒屋根命、姫大神、武甕槌命、經津主命を祀る。

四條畷神社。 四條畷神社は飯盛山の西麓にあり。別格官幣社にして楠正行及弟正時以下戰死せしものを祀る。墓は此西數町の所にあり。神社の南十餘町に四條村大字北條の田間に畦畷の跡あり。これ正平年間、正行、正時等遂に戰死せし所なり。又境内に征清紀念碑あり、明治二十七八年役の紀念として建てられたるものなり。

觀心寺。 觀心寺は南河内郡川上村にあり、境内甚廣し。寺には南朝時代の書軸數十卷を藏せり。皆以て南朝の事蹟を證するに足るべきものなり。後村上天皇此寺を行在所にして、正行の弟正儀等守護し奉りし所なり。境内に楠木正成の首塚あり。之より二丁許にして後村上天皇の御陵あり。

濱寺公園。 濱寺公園は堺市の南一里半の所にあり、高師濱の一部にして石津川の北岸にあり、白砂青松遠く連り風景絶佳なり、近時海水浴場として名あり、日露戰役の際、此地を以て俘虜收容所に當てらる。

箕面公園。 箕面公園は豐能郡箕面村大字平尾にあり、楓樹多く、瀧其間にかゝり高さ十一丈あり。

牛瀧山。 牛瀧山は泉北郡の東南にありて山腹に大威德寺あり、寺より後三丁にして瀧あり、牛瀧と云ふ、山中楓樹多きを以て名高し。

信太森。 信太森は泉北郡信太村大字中村にあり、古の森林の跡に稻荷の神社あり、附近に狐穴多し、葛葉の昔話を以て名あり。

櫻井驛。 櫻井驛は三島郡島本村大字櫻井にあり、楠木正成其子正行に遺訓して訣別せし所なり、明治十年碑を建てゝ之を顯彰す。

勝軍寺。 勝軍寺は中河內郡龍華村大字太子堂村にあり、聖德太子物部大連守屋と戰ひ給ひし古戰場なりといふ、境內に其當時太子の逃れ給ひしと傳ふる椋の樹あり。寺地の右に守屋の塚あり。

王仁墓。 王仁墓は北河內郡菅原村大字藤阪にあり、自然石の碑にして今を距ること千有餘年前の建設なりといふ。

以上各項外の重要なる事項

岸和田の北二十町許にして春木に至る、茲を流るゝ春木川の川口に大砲試驗場あり。大阪砲兵工廠にて製造せし大砲を試驗する所なり。

備考

京阪電氣鐵道の計畫あり。

以前河內木綿の原料とせし綿は多く河內より產せしも、今は殆ど同地方には產せず。よりて河內木綿は多く紡績絲を原料とす、和泉よりも產し其品質粗なり、總じて河內木綿と稱す、貿易品として多く韓國、支那等に輸出す。

兵庫縣（一）

（兵庫縣御影師範學校報告）

山川岬角海灣等自然地理上の事項

兵庫縣は中央に中國山脈ありて、河流はこれより南及北なる海に注ぐ、日本海斜面は山地多く、海岸は急に深し、內海斜面は平野開け、海岸遠淺の部多し、平野には米の產多

く、山地には養蠶行はれ、海には魚鹽の利あり。

都邑

縣の東南隅なる尼ヶ崎より西方神戸に至る間、西ノ宮、御影等の地方を灘と稱し、淸酒の製造盛なり。伊丹にも酒を產し、又由多加織を製す。灘の北に六甲山あり。その北側には有馬の溫泉あり。有馬には竹細工及筆を製す。

神戸市は北に山を負ひ、南は灣に臨み、神戸、兵庫の二部より成る。縣廳のある所にして京阪地方に程近く、東京よりおよそ百六十里をへだつ。汽車東西に往復し、船舶の出入繁く、貿易の盛なること橫濱に劣らず。主なる輸出品は綿絲、マッチ、花莚、茶等にして、輸入品の主なるものは綿、米、大豆、麥粉、機械、石油等なり。又製造業も盛にして、紡績所、マッチ工場、造船所等名高し。されば人口およそ三十二萬におよび日に繁昌に向へり。舊湊川の東に湊川神社あり。生田神社も亦名高し。

神戸の西北に鵯越(ヒヨドリゴエ)、西南の海岸に一ノ谷あり。何れも古戰場にして、須磨、舞子(マヒコ)、明石海峽をへだてゝ淡路島を望み風景よき所なり。又加古川に毛織工場、高砂の濱には製紙場あり。何れも大なる工場なり。加古川の東北に三木あり。刄物を產す。

市川の下流右岸に近き姫路市は城廓內に第十師團司令部あり。人口三萬六千許あり。革細工を產す。又紡績所あり。これより北方なる生野には有名なる鑛山あり。金、銀、銅を產す。朝來川はこの地方より出でて北流す。この川筋に豐岡あり。柳行李を產す。右岸に注げる支流に沿ふて出石あり。出石燒を出す。川口に近き城崎(キノサキ)には名高き溫泉あり。川口なる津居山港に至る間、右岸に近く玄武洞あり。又但馬は丹波と共に山地多くして、養蠶盛なり。海岸を西に向ひて鳥取に通ずる街道あり。又姫路の西方揖保川に沿ひて醬油の產地龍野あり。此地方は素麵の產多し。

淡路島は大阪灣の西にありて、東岸に洲本あり。淡路燒を產し、又紡績所あり。島の沿岸に漁利多し。友ヶ島海峽の西水道なる由良海峽は、汽船常に通ひて、要害の所なれば砲臺を設く。島の西なる播磨灘は鳴門海峽にて外洋に通せり。大阪灣より西中國と四國との間の海をすべて瀨戸內海といふ。この地方雨少きを以て、砂濱は製鹽に適し鹽田多し。かの義士の出でたる赤穗はことに名高し。

產業及物產

農產物。米は播磨平野を始め河の沿岸平地に產し、年產額二百萬石餘に及ぶ。農業の傍、但馬、丹波地方には養蠶盛なり。

水產。沿海地方には漁業及製鹽行はる。內海の鯛、鰛、日本海の鰈は魚類の主なるもの

にして、鹽は播磨の海岸に産す。

鑛産。 生野の鑛山には金、銀、銅を産す。

製造業。 灘地方の清酒はその製造高四十萬石に及び、又伊丹、明石等も産額少からず又明石には帆木綿を産す。龍野には醤油の産額多し。神戸には鐘淵紡績所、マッチ工場及川崎造船所等大なる工場あり。尼ヶ崎、西宮、姫路、洲本等にも紡績所あり。又加古川には日本毛織會社工場あり。高砂には神戸製紙所あり。いづれも大なる工場なり。三木の刄物も亦産額少からず。其他姫路の革細工、豐岡の柳行李も亦有名なり。

貿易。 神戸港の貿易は明治三十八年度の統計によれば輸出額八千四百五十萬圓に及び、全國輸出高の三分の一に達し、輸入は殊に盛にして其額二億二千八百萬圓に及び、全國輸入額の凡二分の一に達す。

交通

鐵道。 東海道線は大阪を經て、縣の東南端なる神崎に來り、それより西宮を過ぎ、神戸に至りて山陽線に連る。 阪鶴線は神崎南は海岸なる尼ヶ崎に達し、北は伊丹篠山等を經て、京都府なる福知山にいたり、それより舞鶴に達す。 阪神電氣鐵道は大阪より尼ヶ崎、西宮及御影等を經て神戸に通す。 山陽線は神戸より西兵庫、明石、姫路、龍野等を經て(舟坂峠のトンネルを過ぐれば、岡山縣に入る)遠く本州の西端下ノ關に達す。又山陽線の支線播但線は姫路より南は飾磨に、北は市川に沿うて生野を過ぎ和田山に通じたり。

神戸港は內外に航路開け、船舶の出入常に絕えず、海運上重要なる位置を占めたり。

神社佛閣名勝舊跡等

神社。 湊川神社(舊湊川の東、多聞通にあり)其他生田神社(神戸)、廣田神社(攝津大社村)、伊弉諾神社(淡路多賀村)。

佛閣。 斑鳩寺(播磨鵤村)、鶴林寺(播磨加古郡)、淸水寺(加東郡)、圓敎寺(播磨書寫山)。

名勝。 諏訪山(神戸)、布引瀧(神戸)、須磨(攝津)、有馬(攝津)、舞子、明石、高砂、石ノ寶殿(以上播磨)、玄武洞(但馬)、鳴門海峽。

舊跡。 生田、森、福原舊址、淸盛塚、兵庫、湊川、和田岬、楠寺(以上神戸市)、鵯越、一ノ谷、鐵拐峰、須磨寺、敦盛塚(以上攝津)、姫路城、明石城、白旗山、赤穗(以上播磨)、淳仁天皇陵(淡路三原郡)、雅成親王墓(但馬豐岡在)、車塚(丹波多紀郡雲部村、道主命の古墳ならんとの說あり)。

挿畫

神戸市全景寫眞、同市元居留地海岸の景、姫路城全景、顯著なる工場寫眞。

兵庫縣（二）

（兵庫縣姫路師範學校報告）

山川岬角海灣等自然地理上の事項

大坂灣、瀬戸内海、播磨灘、由良海峡、淡路島、明石海峡、市川、加古川、朝來川、六甲山。

都邑

神戸市、姫路市、豐岡、洲本、明石、西宮、龍野、尼ヶ崎。

産業及物産

灘の清酒、神戸市のマッチ、綿絲、赤穂の鹽、生野の銀銅、揖保郡の素麪、豐岡の柳行李、龍野の醤油、播州米、神戸牛、淡路燒。

交通上の事項

山陽鐵道、東海道鐵道、阪鶴鐵道、播但鐵道、阪神間の電氣鐵道、神戸港よりの内海諸航路。

神社佛閣名勝舊跡等

湊川神社、一ノ谷、須磨、明石、玄武洞、有馬、城崎、書寫山、福原の都址。

挿畫

神戸港并に同市街圖、神戸市人口增加表、神戸市外國貿易累加表、姫路城、玄武洞、湊川神社。

兵庫縣（三）

（兵庫縣明石女子師範學校報告）

山川岬角海灣等自然地理上の事項

兵庫縣は畿内、山陰、山陽、南海の一畿三道に跨り、廣袤五百三十五方里、東は京都、大阪の二府に、西は鳥取、岡山の二縣に接し、北は日本海に臨み、南は瀬戸内海及び大阪灣に臨む。

瀬戸内海は播磨灘より西、中國と四國との間の海を云ひ、小島散點、波静かに沿岸の出入多く、港灣に富み、風景極めてよろし。

中國山脈縣の中央を東西に走るを以て土地中央に高く且つ北部地方は山多く南部地方には平野あり、地勢此くの如くなるを以て、河流は中央を分水界として南北に流る。其の南流するものは武庫川、加古川、揖保川等にして北流するものは圓山川等なり。

加古川一帶の流域及び揖保川の流域には所謂播磨平野ありて、土地肥沃なり。又六甲山、摩耶山等神戸の東北にあり。此等の山の西に盡くる所に鐵拐峰あり、又姫路の西北方には奇景を以て名ある書寫山あり。

淡路島は大阪灣と播磨灘との間に横はれる大島にして、南北に長く東西に狹く、其形恰も靴の如し周圍凡そ三十九里、島内に稍廣濶なる平野ありて土地肥沃なり。

都邑

神戸市。神戸、兵庫の二部よりなり、人口三十餘萬、兵庫縣廳の所在地にして又開港場の一つなり。大阪灣の咽喉にして交通運輸の衝に當り、其繁盛なること横濱と並び稱せらる。名高き川崎造船所あり。輸出入品の重なるものを擧ぐれば輸出品は米、茶、マッチ等、輸入品は棉花、石油、砂糖等にして、横濱の輸出多きに反し神戸は輸入多し。卽ち明治三十七年度の統計によれば輸出金額八千七百九十七萬六千百七十八圓、輸入金額一億七千四百六十一萬四千二百五十二圓に達せり。

姫路市。人口約三萬五千、市川に臨み、山陽線、播但線の交叉點に位し、第十師團司令部あり、神戸につぐ繁華の都會なり。

明石。神戸の西凡そ五里にあり。人口約二萬五千あり。

西宮。人口一萬五千、清酒の釀造を以て名高く、所謂灘酒は縣下武庫郡灘五郷より産するものにして伊丹地方と共に名高し。

豐岡。圓山川の川筋にあり、神戸を距る凡そ四十里の所にあり。柳行李の産出を以て名高し。

洲本。淡路島の東岸にあり。島中第一の繁華の地にして、本港より兵庫、大阪を縫へる汽船の往復あり。

伊丹。西宮地方と共に清酒の釀造甚だ盛にして所謂伊丹酒を出す。

生野。但馬の南境にあり、鑛山を以て古來名高し。此鑛山は大同二年の發見にかゝり、後ち徳川幕府の直轄たりしが、明治初年政府之を引繼ぎ次に御料局に移りしが、明治二十九年に至り三菱合資會社に拂下げられ現今に至る。

赤穗。姫路の西南凡そ九里、製鹽を以て名ある外、大石良雄始め四十七士の出でし所なり。

有馬。六甲山の北麓にあり、三面山を繞らし僅かに北の一方にのみ開け、夏季と雖も暑熱を知らず。こゝに有名なる有馬温泉あり、浴客極めて多し。泉質鹽類泉に屬す。

城崎。名高き湯島温泉のある所にして温泉は鹽類泉に屬し、山水秀麗、北海に近きを以て空氣清らかに最も避暑に適す。

都志。淡路の西海岸にあり、高田屋嘉兵衛の出生地として名高し。

產業及び物產

米。主として播磨平原より産出し、攝津より産するものは攝津米として其名高し。

マッチ及綿絲。共に主として神戸に産し甚だ有名なり。

清酒。西宮地方及び伊丹は清酒の醸造を以て名高く、明治三十六酒造年度の統計によれば實に三十七萬二百九十一石の多額に達す。これ當縣の産額が全國中第一位を占むる所以なり。所謂灘酒は西宮地方より産するものなり。

養蠶及生絲。但馬國一圓は養蠶の業甚だ盛にして特に蠶業學校の施設あり。其産額生絲のみにても百一萬四千百〇一圓に達す。最も盛なるは養父郡とす(三十七年統計)。

鹽。播磨灘の沿岸に産出し、就中赤穂鹽は最も名高し。

金及銀。生野銀山より産出す。明治三十五年の計算によれば、金産額二十萬六千九百三十圓、銀産額十九萬三千四百四十二圓なり。

柳行李。豐岡及び其附近より産す。明治三十七年の統計によれば、其産額三十一萬九千四百十圓に達し、近來外國に輸出するに至れり。

革細工。姫路より産し、姫路革の名あり。

交通上の事項

鐵道。

東海道線。大阪を經て來り、神戸に終る。

山陽線。神戸を起點とし山口縣下關に至るものにして、明石、姫路を貫きて西へ走れり。

阪鶴線。大阪を起點として、縣の東隅を貫き京都府福知山を過ぎ舞鶴に通す。

播但沿。姫路より市川に沿うて北走し、生野を經て現今和田山に到る。これ山陰を縱貫すべき線なり。

神社佛閣名勝舊跡等

須磨浦。風景佳絶、氣候温和なるが故に舞子、明石等と共に轉地療養の客多し。彼の熊谷直實が平敦盛を討ちしは即ちこの海濱なり。

湊川神社。神戸市の中央にあり、楠木正成を祀る。正成戰死の地たる湊川は今は改修して僅に其一部を殘すのみ。市の東北にある布引瀧は名高く、遊覽の客多し。

一ノ谷。鐵拐峰の山脚にして須磨浦の北にあり、源平の古戰場なり。今や兩軍の激戰地には敦盛の五輪の塔憫れげに苔に蒸して殘れるのみ。

柿本神社。歌聖人麿を祀れる社にして、明石の人丸山にあり。

廣田神社。西宮の北方、廣田村に官幣大社廣田神社あり。

伊弉諾神社。淡路の多賀村にありて、官幣大社なり。

（注意）古書に普通に一ノ谷城と稱するは福原をこめ、生田を東門とし一の谷を西門とせしものなり。然るに俗に其西門のありし一ノ谷のみを以て當時の激戰地と誤解するものあり、注意を要す。

以上各項外の重要なる事項

砲臺。淡路島の由良及び福良には砲臺を設け、由良海峡及び鳴門海峡を扼せり。由良は要塞司令部のある所なり。

中國地方

岡山縣（一）

（岡山縣師範學校報告）

山川岬角海灣等自然地理上の事項

旭川（西大川）、吉井川（東大川）、高梁川、兒島半島、兒島灣、水島灘、宇野灣。

都邑

岡山市、津山町、高梁町、玉島町、笠岡町。

產業及物產

綿絲（岡山市、倉敷町、玉島町、笠岡町等）、花筵及び疊表（備中南部地方）、麥稈及び經木眞田（備中一圓）、銅（川上郡吹屋、都窪郡帶江等）、食鹽及び漁獲物

名產。雲齋織（津山）、水蜜桃（備前の中部）、伊部燒（備前和氣郡伊部）、刀劍（備前長船）

交通上の事項

山陽鐵道、中國鐵道（津山線、吉備線）、山陽鐵道連絡船（岡山高松間）、坂神連絡線（笠岡、玉島、三蟠、牛窓、神戸、大坂間）。

神社佛閣名勝舊跡等

吉備津神社、妙覺寺（不受不施派本山にして中國鐵道津山線金川驛）、誕生寺（源空上人誕生地にして中國鐵道津山線誕生寺驛）、後樂園、船坂峠、院ノ庄、閑谷黌。

岡山縣（二）

（岡山縣岡山女子師範學校報告）

山川岬角海灣等自然地理上の事項

中國山脈の樞軸は本縣の北境に連亘し高度往々四千尺以上に達し（蒜山三、九五九尺、

那岐山(ナギセン)四、〇九三尺)實に陰陽兩道の分水界をなし、吉井川、旭川、高梁川の三大川はこれに發源し、三大横谷をつくりて瀬戸内海に入る。下流は廣袤稍々廣き沖積平野を築けり。

沿岸は屈曲參差して幾多の岬角、港灣を形成すれども、槪遠淺にして巨舶を泊するの良港に乏し。兒島半島は中央に斗出して兒島灣を擁し、其東端を米崎と稱す。邑久郡と相對して灣口を扼せり。灣内淤泥の堆積せる部分は近時漸次開墾し、爲に灣の面積著るしく縮まれり。

都邑

岡山市。　旭川の下流に跨り、河口三蟠港を距ること一里三十町、縣廳所在地にして人口八萬餘、山陽鐵道は市の北西を通過し、中國鐵道之に會し、交通の便甚宜しく、市況從て殷賑なり。醫學専門學校、第六高等學校等あり。工業の著るしきものは綿糸紡績とす。

津山町。　吉井川の上流たる津山川に沿ひ、縣下著名の都邑にして人口一萬七千餘、中國鐵道により岡山に通じ、北部商業の中心地たり。雲齋織、足袋を名産とすれども其産額は著しからず。

玉島町。　玉島灣に臨み水陸交通の便よく、人口二萬餘、肥料の賣買稍盛なり。對岸四國との間に汽船の往來頻繁なり。

高梁町。　高梁川に臨み、山間の名邑にして備中北部の中心地たり。人口六千餘、烟草、麥稈眞田を産出す。高梁川の舟運は交通運輸の便を資く。

笠岡町。　縣下西部の名邑にして、麥稈眞田を出すこと稍著るし。

牛窓町。　縣下良港の一にして、材木の取引盛なり。

産業及物産

本縣の産業は農業を主とし、近時改良を加へ進歩見るべきものあり。百六十萬石の米及七十一萬石の麥を産額の主なるものとし、南部の藺、北部の葉烟草は共に産額稍著るし。蠶業は未だ盛ならず。

水産業には鰆、鯛、蝦等を産額の大なるものとし、灰貝の養殖稍著るし。製鹽業は沿海各郡に行はれ、五百町歩餘の鹽田より六十萬石内外の食鹽を製す。

牧畜業、林業は共に著しからざるも、北部の牧牛は稍見るべきものあり。

工業は綿糸紡績、花筵、麥稈眞田を主とす。共に其産額頗る大なり。其他兒島郡の織物(小倉帶地を主とす)、伊部の陶器共に名あり。

鑛業は銅を主とす。

交通上の事項

山陽鐵道、中國鐵道、岡山讃岐高松間鐵道聯絡の汽船、玉島多度津丸龜間の汽船を交通機關の主なるものとす。吉井川、旭川、高梁川は共に小舟を通す。北部の物貨は主としてこの舟運による。

神社佛閣名勝舊跡等

吉備津神社。吉備郡眞金村吉備中山の西麓にあり。國幣中社にして吉備津彦命を祀る。仁德天皇の朝の創建にかゝり、境内の幽邃、社殿の廣壯なる山陽道稀に見るところ。吉備中山の名勝と相待ちて其名世に著はる。

閑谷黌。和氣郡伊里村にあり。寛文十年池田光政の創設に係り、講堂聖廟等今尚舊規を存せり。其結構の壯麗往時を追想するに足る。

豪溪。吉備郡池田村にあり。巉巖十數嶄然として高く雲表に聳え、矮松綠樹其間を點綴して風景頗る奇絕なり。縣下の奇勝とす。

以上各項外の重要事項

高松城址、藤戸渡跡はともに史上著名の古跡なり。

宇野築港。宇野は兒島半島の南側にあり。水深く良灣をなす。近時縣事業として築港に着手せり。完成の後は內海屈指の良港たるべし。

挿畫

後樂園。

廣島縣

(廣島縣師範學校報告)

山川岬角海灣等自然地理上の事項

位置及地勢。島根縣と背中合をなし、瀨戶內海に面す。但し分水嶺は縣の中部にありて、中國地方中他縣と其趣を異にす。槪して小規模の山野相交り地勢複雜なり。地勢上、人文の發達は廣島灣に沿ふ大田川流域地方、備後の南部地方、北部江川(ゴーノカハ)上流地方の三部に分る。海中には島殊に多く風波穩なり。廣島灣は其沿岸と合せて本縣中尤重要の地位を占む。內に嚴島、江田島等あり。

氣候。溫和、南に四國山脈、北に中國山脈ある故雨量少し。

都邑

廣島市。大田川の三角洲上にあり、東京より二百三十餘里を距つ。人口十四萬餘(明治三十八年末現在)ありて中國第一の都會なり。縣廳、控訴院、廣島高等師範學校あり。淺野侯舊城內に第五師團司令部あり。明治二十七八年戰役の時この地に大本營を進め給へり。

本市發達の源因は、大田川綏流の三角洲上に築かれしこと、瀨戶內海一帶の交通系に位し古來京坂、九州交通の衝に當りしこと、毛利輝元居城をこの地に相して以來今に至るまで地方政治の中心となり來りしこと、宇品築港及吳軍港の成りし以來軍事上重要の地となりしこと、明治二十七八年戰役以來常に軍事上の策源地となりしため市の發達を急ならしめたること等にあり。

宇品港。本港は明治十七年千田知事の設計に成りしものにして、明治二十七八年役、北淸事變及び明治三十七八年戰役中軍隊の海外輸送港としてその名高し。實に其存在は廣島市の發達に大關係ありたり。されど平時商港としてはしかく重要ならず。

吳市。軍港、第二海軍鎭守府あること、造船所あること、元と一漁村に過ぎざりしが、一度軍港となるや年々繁榮に赴き、人口增殖速かなること門司と其勢を競へり。明治三十八年末現在人口七萬五千七百十四人、其西南なる江田島に海軍兵學校あり。

尾道市。疊表、花莚、肥料等の出入多く、商業盛なり。明治三十八年末現在人口三萬十五人。

糸崎。開港、現時未だ盛ならざれども將來有望なり。

三次(ミヨシ)**。**江川(ゴーノカハ)上流諸水の集合點に當り、この地方の中心市場となる。山陰道に通ずる要路に當る。

福山(フクヤマ)**。**元と阿部氏の居城たりし所にて、今猶ほ盛なり。

產業及物產

土地と產業及物產との關係。小規模の山野相交り平野廣からざれば米穀の農耕は著しからざれども、麻の如き風に犯され易く且つ砂土に適する植物は本縣の如き山野に介在せる小平野多き地方に適す。海岸の砂地なると雨量の少きとは製鹽に適す。內海にして島多く浪穩かなるを以て牡蠣の如き水產物の養殖に適す。島多く海岸線に富むを以て遠洋漁業等海事思想を發達せしめたり。

重要なる產業及產物

農業。麻は大田川及江川上流地方に產し、產額我國中重要の地位を占む。

全國　二、六六五、一〇一貫
第一廣島縣　四〇五、一〇〇貫
第二栃木縣　三八二、七二四貫（明治三十六年末調査ニヨル以下同ジ）

・牧畜業。牛の牧場は七塚原にありと雖も、一般にいへば飼養法幼稚なり。牛の頭數は我國中岡山縣とその首位を競ふ。

全國　一、二八六、一一六頭
第一廣島縣　九五、一七四頭
第二岡山縣　九二、六三三頭

水産業。牡蠣は品質佳良なるを以て本縣の特産となすに足る。廣島灣沿岸にて養殖す。

全國　二四五、六七六圓
本縣　八七、一五七圓

鹽は海岸一帶にて製し、規模小なれども産額重要の地位を占む。

全國　九、四二六、八二二圓
香川縣第一　一、六三六、一〇四圓
本縣第二　一、三三七、〇六五圓

漁業。内海に於ける漁業相當に發達し、鯛、蝦等は其主なるものなり。生物（一、九〇七、九八三圓）に於ては全國中千葉、長崎兩縣につぎ第三位にあり。水産製造物（八二一、九三〇圓）は全國中長崎、千葉につぎ第六位にあり。

遠洋漁業。朝鮮近海に出でゝ營む。主として鰮の獲物多し。三十七年七月より三十八年三月まで二十四萬四千三十二圓に達せり。

工業。疊表及莫蓙類は今や産額に於て全國中首位を占めずと雖も、品質優等にして古來備後表の名高し。莫蓙類は米國に輸出する事多し。備後の南部に産す。

全國産額　二、八四七、一六〇圓
第一大分縣　六四六、六八〇圓
第二廣島縣　五〇七、五六三圓

交通上の事項

地勢との關係。中國山脈北境に横はり、江川之れを横斷すと雖も兩岸の地形險岨なるを以て道路の發達に適せず。之れを以て山陰道との交通不便なり。鐵道は主に海岸に沿ふて發達す。

鐵道。幹線は岡山縣より來り、福山、尾道、糸崎、海田市、廣島を經て山口縣に入る。支線は

廣島驛より宇品港に至るものと海田市より呉市に至るものとあり。

航路。大坂商船會社及び郵船會社の中國通ひ及各地小汽船會社の航路。

神社佛閣名勝舊跡

嚴島神社。嚴島の北岸にあり、滿潮の時は宏壯なる社殿水上に浮ぶが如し。附近一帶は風景絶佳にして、又毛利氏が陶氏を亡したる古戰場もこの邊にあり。

埃宮。廣島市の東北一里餘の處にあり、神武天皇東征の時駐軍せさせ給へる地なりと傳ふ。

以上各項外の重要なる事項

海外移住出稼の多きこと。主としてアメリカ布哇に向て移住出稼す。

米國　六千三百三十三人

布哇　二萬十五人

其他共總計三萬二千九百七十四人　（明治三十八年末調査）

山口縣

（山口縣師範學校報告）

山川岬角海灣等自然地理上の事項

本州の西端にありて三方海に瀕せり。北部には山多く、瀬戸内海に面する地方は平野稍開けたり。下關海峽、大島、錦川。

都邑

山口町。縣廳所在地。

下關市。東京市を距ること凡二百九十里（七百四哩）、下關海峽を挾みて對岸門司市と望み、瀬戸内海の門戸をなす。人口四萬七千、我國主要なる開港場の一にして米穀の取引特に盛なり。

萩町。毛利氏の舊城池、夏蜜柑を産す。

岩國町。錦帶橋あり、縮を産す。

德山町。海軍煉炭所あり。

防府町。松崎神社あり。

産業及物産

農産（就中最も著しきを米とす）、海産（就中最も著しきを鯛とす）、鹽（三田尻鹽田を最とす）、無烟炭（大嶺）、縮（岩國）、夏蜜柑（萩）、セメント（小野田）、アンチモニー（鹿野）。

交通上の事項

鐵道山陽線は廣島より來り岩國、德山、三田尻等を經て下關に至る。支線厚狹より大嶺に通ず。

下關と韓國釜山との間及下關と門司との間に鐵道連絡汽船の往復あり。

神社佛閣名勝舊跡等

壇浦の古戰場、岩國の錦帶橋、山口の龜山、下關の赤間宮、防府の松崎神社。

以上各項の外重要なる事項

縣治上十一郡、一市とす。下關海峽には砲臺の設ありて內外の關門を扼せり。舊藩主維新の大業を翼賛し、當時勤王の志士多く輩出せり。

挿畫

三田尻附近の鹽田の景。

備考

大島は周圍二十六里、一郡をなす。屋代島の一名あれども普通には大島郡又は單に大島と呼ぶ。

錦川は流程二十七里九丁、本縣の最長流なり。

三田尻は宮市と市街相連る。明治三十五年合併して町制を布き防府町と稱す。されど今尙交通機關其の他に三田尻の名慣用せらるること多し。

大嶺の無烟炭坑は官營なり。現今規模擴張中、產額を知るに由なしといへども鐵道大嶺支線が其の產物運搬のために布設せられしを見ても其の盛況を推知するに足るべし。

小野田セメント製造株式會社は關西屈指の大工場を有し、其の年產額五六十萬圓に上る。

鹿野アンチモニー鑛山は其の年產額四五萬圓に過ぎざれども、該鑛山としては我國有數なり。

下關の硯は從來有名なりしも其の年產額僅に一萬圓內外に過ぎず。又煙草は專賣實施以來政府の委託製造に屬するを以て兩ながら之を記するに足らず。

岩國の錦帶橋は日本三奇橋の一と稱せらる。

山口なる龜山には毛利敬親、元德二公並に四支藩侯の銅像を安置す。

下關なる赤間宮は官幣中社にして安德天皇を祀る。天皇の御陵、平氏の墓等境內にあり。

防府なる松崎神社は菅公を祀れる縣社にして、其の賽客の殷盛なること北野、宰府に伯仲す。近時其の背後の山に酒垂（サカタリ）公園を開けり。青松白砂頗る風趣に富み、眺望亦佳絶なり。

鳥取縣

（鳥取縣師範學校報告）

山川岬角海灣等自然地理上の事項

鳥取縣は因幡（一市三郡）、伯耆（三郡）を管す。面積一五八・九八方里（明治三十七年鳥取縣統計書による。日本帝國二十四統計年鑑によれば、周圍一里以上の湖池を除き二二八・八五方里とあり。）、人口四十三萬六千餘（三十七年調）あり。東、南、西の三境は山脈を以て限られ、中部には白山火山脈に屬する大山等の休火山聳え、平野乏しく、僅に千代川、天神川、日野川の流域に平低の地ありて、米、麥、菜種等を産するのみ。北は長く日本海に面し、沿岸出入少く、西に夜見ヶ濱長く斗出す。沿岸沙丘連る所多く船舶の碇泊に便ならず。

大山。　東伯、西伯、日野の三郡に跨り、中國の最高峰にして海拔五千六百五十三尺（明治三十七年鳥取縣統計書）白山火山脈に屬する休火山なり。角盤山又は大神山と稱し、出雲に於ては出雲富士といふ。大山を主山として船上山、烏ヶ山、兜山等の別峰之を繞り、方十里許に盤據す。山中に小池を存す。山の北面半腹に大智明神社及大山寺あり。大山寺は天台宗にして慈覺大師の創建といふ。大智明神社は大神山神社の奥の院にして、毎年五月二十四日、七月十五日、九月二十四日の祭日には賽者多く、此日又牛馬の大市あり。其隆盛近國に比を見ず。西伯郡大高村大字尾高村より山頂まで五里十八町あり。

日野川。　日野郡多里村三國山より發し、印賀川、二部川、法勝寺川を合せ、米川を分派して、西伯郡福生村大字皆生村に注ぐ。流程二十里、上流沿岸の山地に砂鐵を産す。

千代川。　八頭郡山郷村大字駒歸村沖山より發し、上流を智頭川と稱し、片山村にて八東川を合せ、濱坂村にて袋川を併せ、湖山池の水を受けて賀露港に注ぐ。長さ十二里、沿岸平野には米、麥、菜種を産す。

湖山池。　淡水湖にして東西三十三町、南北二十二町、周圍三里二十六町に及び、面積六百七十二町歩、水深一仭乃至三仭あり。湖東狹水道を以て賀露川に注ぐ。池中青島、粒島、團子島等あり。湖邊の眺望佳にして當國の一勝區とす。蝦、鯉、鮒、白魚、鰻、鯰を産す。

東郷池。　東西二十町、南北三十町、周圍二里拾町に及び、湖面積六百三十二町歩あり。水

は橋津川となりて海に注ぐ。美德、鉢伏、羽衣石(ウエシ)、馬山(ウマヤ)の諸山環繞して倒に景を水面に映す。長汀曲浦の觀矚目悠々たり。鯉、鮒、鰡、蝦、白魚、鰻を產す。池の南方水底より溫泉湧出す、引地の湯と稱し、旅館養生館あり。西岸淺津にも溫泉湧出す。古昔入江をなせしが、天神川より流す沙泥の爲に閉塞せられしものなりといふ。

弓ヶ濱。　又夜見ヶ濱と稱す。西伯郡の西北に斗出する砂洲にして美保灣と中海とを隔離す。長五里、幅一里、風光絕佳、詩人之を大天橋と稱す。殊に對岸出雲八束郡嵩尾山に登りて一望せんか、此一大長洲は脚下より起りて遠く連り、白砂青松其景色得も云はれず。中海は一碧鏡を磨するが如く白帆その間に點々し、恰も盆池の趣をなせり。東南には大山の高峯雲間を掠む。實に山陰の一勝區なり。此地方多く綿、甘藷を產す。

美保灣。　出雲の地藏崎と伯耆御來屋崎との間にある一大灣にして、灣口東北に開き、其濶さ約九海里あり。灣首は陸岸より斗出せる低陸舌弓ヶ濱なり。灣內の深さは十七尋以下にして沿岸四五尋の所あり、偏東風は避け難きも偏北より西を廻り偏南に至る風は避け易し。

中海。　半鹹湖なり出雲八束郡、能義郡及伯耆西伯郡を以て包む。深さ三仭より四仭、長幅約五浬あり。內に江島、大根島あり。大根島には人蔘を產し、熔岩トンネルの奇景ありの東北は中江瀨戶を以て美保灣、西部は馬潟瀨戶を以て宍道湖に通す。小汽船湖上を往來し交通便なり。

都邑

鳥取市。　千代川の支流袋川に跨る。人口三萬一千二十三人(明治三十九年四月)池田氏三十二萬五千石の舊城下にして、東北久松山の舊城址には今尙石壘外隍を存す。縣廳、地方裁判所、郵便電信局、師範學校、第一中學校、高等女學校、物品陳列場等あり。上町に德川家康及池田忠繼、忠雄、光仲公を配祀せる縣社樗溪神社及鳥取招魂社あり、風景佳なり。栗谷町には藩祖の菩提所たりし興禪寺(黃檗禪宗)あり。市の南方吉方村には溫泉湧出し浴客多く、國府村には步兵第四十聯隊の屯營あり。其東方奥谷村には池田家の墓所あり、境內廣さ二萬坪、老樹枝を交へ、紅葉の期景佳なり。山陰線は今や本市に通せり、北方一里半千代川の河口に賀露港あり、海中防波堤を築けりと雖も、港は淺く、偏北風及北東風には大浪起りて危險なり。然れども近縣より因幡に出入する旅客貨物の海によるものは多く此の港よりし、境、津居山、舞鶴と交通の便あり。村民多く漁獵を業とす

米子。　人口一萬五千八百、西伯郡の西部錦浦に臨む。山陰及作州街道の衝に當り、山陰

線の開通以來物貨の集散頻繁なり。郡衙、葉煙草製造所、警察署、區裁判所、第二中學校等あり。町の西方に湊山の城址あり、眺望絶佳なり。港(深浦)は西に向ひ、水深約一仞二尺あり。松江、境に定期航海の便あり。勝田神社、感應寺、心光寺等の社寺あり。此地より生糸、清酒、菓子、足袋を産す。

倉吉。東伯郡の中部、小鴨河の右岸にありて、郡衙、區裁判所、警察署、郵便局あり。生糸、羽二重、倉吉絣、稻扱、清酒を産す。打吹山に長谷寺あり。此山は山名氏の遺址にして、近時山麓を開きて公園とす。西方一里、社村には縣立農學校あり。

境。人口五千餘、夜見ヶ濱の西北端にあり。北面して中江瀬戸に臨む。三十二年七月開港せり。港内東西二十三町、南北八町、水深四仞より五仞あり。港頭、舊臺場には燈臺あり。島根、鳥取兩縣下の良港にして、中海によりて米子、松江の商業地に通じ、船舶貨物の集散頻繁なり。然れども日野川の流砂港口を埋むるを以て、大船は美保關對岸に碇泊し、僅かに吃水七八尺の船舶港内に入るを得。近時荷揚場を開築し、港口を浚渫す。税關出張所、氣象測候所、第三銀行支店等あり。停車場は町の西方にありて米子に通す。

産業及物産

農業。本縣は一般に山岳重疊し、千代、日野、天神諸川の流域及海岸に少許の平地を存するのみ。然れども住民の大部は農耕、養蠶に從事して到る所荒蕪を開拓す。農業に從事するもの五萬二千三百七十二戸、二十五萬四千餘人ありて一戸作付反別平均六反に及ぶ。近時殖産興業の途を講じ、農會、農事試驗場、農學校等殖産機關の設備漸く整ひ、耕地整理、疏水工事等を計劃實行するに至れり。

米。作付反別三萬四千町歩、收穫六十四萬石に及び、東伯、西伯二郡を主産地とす。米質良好にして攝津、丹後、但馬に積出す。

麥。作付反別一萬八千餘町歩、收穫十七萬石にして、縣下一般に産出せざる所なく、品質凡て良好なり。

其他食用農産物中重要なるを大豆、小豆とし、粟、稗、蕎麥、甘藷、馬鈴薯を産す。近年蜜柑、柿、葡萄、苹果、梨、梅等果實の栽培行はれ、年年園圃を増設す。

特用農産物としては葉烟草、菜種、大麻、實綿、楮、三椏、雁皮、淡藍を産す。實綿は西伯郡の主産にかゝり、品質は漸次進歩しつゝありと雖、輸入棉花の壓倒を受け逐年收穫退歩の傾向あり。烟草は西伯、東伯郡、菜種は東伯、氣高郡に多し。近時又藺の栽培各地に行はるゝに至れり。

蠶業。 近時縣下一般に長足の發達を爲し、養蠶、製糸に從事するもの多く、各郡市に蠶糸業組合の設ありて原蠶種製造所と相俟ちて、種類、品質の改良を期しつゝあり。各地方の原野は桑の發生に適し、漸次桑園を増しつゝあり。本縣中斯業の巨擘は西伯、東伯兩郡にして收穫價格の三分の二は兩郡より產す。桑畑は三千二百二十町歩に達し、繭產額二萬六千八百餘石にして九拾餘萬圓の價格に及ぶ。

牧畜。 縣下大山の裾野、其の他山間の原野等牧畜に適する所多し。然れば各戶牛馬を飼養して農耕運搬に使用す。近時改良增殖に勉め、三十六年縣立種畜場を設けて指導の機關たらしめ、且馬匹にありては牝馬を各地に求め大に改良の端緒を開けり。尙昨年より犢駒糶賣法を設け其効果大に見るべきものあり。牛は縣下農家各戶一頭若くは數頭を飼養して農耕運輸に使用す。其數三萬六千餘頭に及び、東伯、日野兩郡に多し。馬は僅かに三千餘頭にして西伯郡に多く、軍馬育成所は大山の裾野にあり。豚は起業以來日尙淺く、僅に千三百餘頭にすぎずと雖も種類の選擇につとめ、尙年年起業者增加し、將來大に見るべきものあらんとす。搾乳及屠肉の業も需用の增加に伴ひ、漸次發達の實蹟を表はしつゝあり。

林業。 本縣は山地多く森林繁茂す。山林反別六萬六千餘町歩、產額用材拾貳萬餘圓、薪炭拾七萬餘圓に達し、日野、八頭主位を占む。杉は林產物の主位を占め七萬餘圓、松又五萬餘圓に達す。其他櫧、栗、扁柏等を產す。用材、薪炭、枕木、車輛用材、下駄、經木に使用す。副產物としては檜皮、杉皮、五倍子、松茸、椎茸、栗實等を產す。縣立模範林を設置し、殖林指導の機關たらしめ、着々奬勵中なり。又木材同業組合は之が改良に勉めつゝあり。

水產。 水產試驗場の設置以來、漁撈、製造共に大に進步し、近來著しき發達をなしたり。西伯郡、岩美郡よりは韓國沿岸に出漁するもの多し。近海漁業は盛にして之に從事するもの六千六百八十六戶、二萬四千五百餘人あり。

漁獲物。 總額二十七萬圓に及び、產額の多きは鯛にして約三萬七千圓、東伯、西伯、氣高郡に多く、鰈は二萬七千五百餘圓にして岩美郡に多し。

鰛　二萬五千餘圓　氣高、岩美に多し。
飯　一萬九千餘圓　東伯、西伯に多し。
烏賊及柔魚　一萬九千餘圓　岩美、東伯に多し。

其他鯖、鱶、鰈、鰆、文鰩魚、鯔、鮎、蟹、鮑、牡蠣、蛤、石花菜、海蘿等の漁獲少なからず。

製造物。 總額七萬餘圓に及ぶ。素乾物には鰑、鱶鰭、文鰩魚、鰛ありて、鰑は一萬五千圓に及び、岩美郡より多く產す。鰛は又煮乾とし、價格一萬四千圓に及ぶ、西伯、岩美に多

し、鰮、鯖、鰤は鹽製とし、美作、播磨等に賣捌く。

製鹽。鹽田は岩美郡東村大字陸上村にありて、四段餘歩に及ぶ。五百餘石を産し、鹽質良好なりと稱す。

鑛業。産額十六萬圓にして、鐵は日野、西伯兩郡に産し、大に改良を加へて近來軍事用品を出すに至れり。

工業。本縣は工業甚だ幼稚なり。然れども近時小規模の工業各地に起るに至れり。

製糸。養蠶業の發達に伴ひ、近年生糸産額非常に増し、其品質又年年精良のものを産し、鳥取油谷、倉吉山陰生糸會社、米子製糸會社の如き最も名を博す。其他民間には手繰に從事するもの多し。生糸、熨斗糸、屑物を含み産額二萬二千餘貫價格九十三萬餘圓に達す。産額多きは西伯にして東伯之に次ぐ。

製紙。楮、三椏、雁皮に富むを以て、古來民間製紙の業に從事す。紙質良好にして販路廣し。美濃、半紙、薄葉、雁皮等拾八萬圓に達す。氣高、八頭其主位を占む。

釀造業。主なるものは酒及び醤油にして、酒は釀造石高四萬三千餘石、醤油は九千餘石に及び、釀造高の多きは西伯郡を第一とし東伯郡及鳥取市之に次ぐ。年年品評會等を開き、改良上の速進を計り、酒造組合は之が改良を努めつゝあり。

織物。品質優良のものを出す。就中倉吉絣は著名にして、他の名産地を凌駕するの勢あり。西伯郡よりは木綿織を出す。鳥取、米子、倉吉よりは羽二重を産す。

此の他油類、木蠟、漆器、疊表、莫蓙を産す。

商業。縣内の商業地は鳥取、倉吉、米子、境にして各々其の商業區域を異にす。縣外の商業は大阪、神戸と密接なる關係を有す。他國に積出す主要なる産物は米、清酒、木材、木炭、水産製造物、繭、生糸にして、大阪、神戸、横濱、丹後、但馬、隱岐、下關、九州、韓國を主なる仕向地とす。他國より輸入するものは米、大豆、小豆、砂糖、石油、搾粕、織物、紡績糸を主とし、神戸、大阪、下關より來る。

交通上の事項

道路。東、南、西の三境山脈連亘せるを以て、他縣との境界には坂路ありて交通不便なり。縣内の道路は近時改修に着手し、伯耆、因幡の國境に絹見の坂あるも、一般に平坦なり。主要なる道路を擧ぐれば左の如し。

但馬街道。鳥取より但馬美方郡村岡に通ず。國境に蒲生峠の險あり。

智頭街道。鳥取より智頭を經て姫路に通ず。駒歸の險あり。

岡山街道。鳥取より智頭を經て津山に通ず。其の途に物見峠、馬桑峠の二道あり。

米子街道　鳥取より米子に通ずる道路にて、因伯の國境に絹見の險坂あり。

作州街道　米子より日野郡を經て津山に通ず。國境に四十曲の峠あり。

鐵道　境より起り、米子、倉吉(倉吉町の北一里上井(アゲヰ)にあり)等の諸驛を經、鳥取に通ずる山陰線あり。

航路　境は縣下水路の中心地にして、米子、美保關、松江には小汽船常に往來し、下關、敦賀、舞鶴、隱岐にも定期の航海あり。　沿岸一亘に良港に乏しく、冬期には風波の烈しきため航海を絶つに至る。

馬關航路　日本郵船會社汽船は境より馬關又は門司に直航し、大阪商船會社汽船は杵築、温泉津、濱田、仙崎等に寄港して馬關、門司に達し、神戸、大阪に通ず。

敦賀航路　日本郵船會社汽船の定期航路に屬し、敦賀に直航す。

（注意）近時日本郵船會社は西廻航路を廢止す。現今日本西廻汽船商會其の航路を經營せり。

舞鶴航路　舞鶴に至る阪鶴鐵道連絡船阪鶴丸の航路なり。

隱岐航路　境、西鄕間雙方隔日に發着す。隱岐汽船會社の航路なり。

神社佛閣名勝舊跡等

宇倍神社　岩美郡國府村大字宮下村にあり。明治四年五月十四日國幣中社に列し、一宮とも稱す。武内宿禰をまつれる所にして、祭日は四月二十一日なり。境内極めて廣く、規模廣大、殿宇の結構巧緻を極め、壯觀なり。神社の後阜を龜金山といふ。是れ雙履の殘りし所なりといふ(全景は五圓紙幣に揭載せり)神社の東方にある山は稻葉山又宇倍山とも稱す。在原行平の「立ちわかれいなばの山の峰におふるまつとしきかば今かへりこむ」と咏せし所なり。

名和神社　西伯郡名和村にあり。元弘の忠臣名和長年を祀る。鎭座年月詳ならずと雖、承應、明曆の頃名和氏の邸址と稱する所に、地方の信徒一小祠を立てゝ鎭祭す。延寶五年十月池田光仲長年朝臣の偉德を崇敬し、此地を東に距る三町、字小路山をトし新に社殿をたて氏殿權現と稱す。明治六年縣社に列せられ氏殿神社と改めらる。次で明治十一年十月十日別格官幣社に列せられ名和神社と改稱し、當時の一族長重以下四十二名の靈を配祀す。例祭は五月七日とす。

大神山神社　西伯郡大高村大字尾高村にあり。明治四年五月十四日國幣小社に列す。大穴牟遲神を祀る。往古は大山に鎭座せしが四轉して現地に奉遷す。

岡益の石堂　岩美郡御陵村大字岡益村にあり。壽永の昔平家西海の波に沈みし時、二位の尼私に安德帝を供し奉り漁舟に乘じ遠く賀露港につき給ひしとの傳說あり。

一基の寶塔苔に蒸し千秋の感を喚ぶ、世俗岡益の石堂と稱し、今は宮内省御陵墓參考の地となる、附近を開きて公園とす、

安養寺　西伯郡五千石村大字山市場にあり、米子の東南一里、時宗を奉じ、後醍醐帝の皇女瓊子内親王の開基とす、境内に接し内親王の御墓存す、

船上山　東伯郡赤崎村の南三里以西村にあり、元弘三年名和長年後醍醐帝を奉じて此に勤王の軍を擧ぐ、山中智積寺ありしが明治の初之を廢す、元弘帝の行在所たり、全山森林を以て被ふ、

島根縣(一)

(島根縣師範學校報告)

山川岬角海灣等自然地理上の事項

三瓶山、江川(長さ、交通)斐伊川(長さ、船通山、神門の平野)島根半島(長さ、地勢)美保關、中海(周回沿岸の諸港、交通)美保灣(艦隊の碇泊)宍道湖(大さ、風景、交通)隱岐(成立、面積、人口、物產、地勢、民業、舊跡)

都邑

松江市(位置、人口、舊跡、官衙)濱田町(人口、輸出入、貿易先)

產業及物產

鰑(產額、輸出先)出雲燒(產地)砂鐵(產額)

交通上の事項

松江と東京、京阪、九州地方間の交通

神社佛閣名勝舊跡等

出雲大社(祭神)美保神社(祭神)

挿畫

美保神社、松江市、宍道湖、後鳥羽院陵廟跡、西鄉港、松江城、濱田町、出雲大社、松江附近の航路圖

備考

三瓶山　死火山にして、直徑凡半里の噴火口あり、

江川　長さ五十餘里、管内を流るゝこと二十三里十四町、備後の三次より下流三十里間舟楫の便あり、

斐伊川　長さ二十一里二十六町、源を船通山(三千二百尺)に發す、素戔嗚尊の古事に在